

2026年度  
歯科衛生学科  
シラバス

# 目次

1年生 カリキュラムツリー	4
1年生 教育課程(カリキュラムマップ)	5
1年生 年間予定表	6
1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	8	微生物学	26
法律入門	9	薬理学	28
現代の社会	10	栄養学	29
コミュニケーション演習	11	衛生学・公衆衛生学	30
心理学	12	口腔衛生学	31
教理リテラシー	13	歯科衛生士概論	33
情報処理	14	歯内療法学	35
化学	16	保存修復学	37
解剖学	17	歯科予防処置法	39
生理学	18	保健指導論	42
組織発生学	20	保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	44
口腔解剖学	21	歯科診療補助法(基礎知識)	46
口腔生理学	23	歯科診療補助演習Ⅰ(基本技術)	49
歯牙解剖学	24	感染予防法	52
病理学	25	臨地実習Ⅰ(臨床基礎)	54

2年生 カリキュラムツリー	57
2年生 教育課程(カリキュラムマップ)	58
2年生 年間予定表	59
2年生 シラバス	61

開講科目	頁	開講科目	頁
英語Ⅰ	61	障害者口腔保健学	79
保健統計学	63	歯科放射線学	80
生化学	64	う蝕予防処置法(臨床基礎)	81
地域保健	65	歯周病予防法(臨床基礎)	82
衛生行政・社会福祉・社会保障	67	保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	85
歯周療法学	69	口腔リハビリテーション論	87
歯科補綴学	71	歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	88
口腔外科学	73	臨床検査法	91
歯科矯正学	75	介護技術の基礎	93
小児歯科学	76	臨地実習Ⅱ(臨床応用)	94
高齢者口腔保健学	77	臨地実習指導(臨床応用)	96

3年生 カリキュラムツリー	99
3年生 教育課程(カリキュラムマップ)	100
3年生 年間予定表	101
3年生 シラバス	103

開講科目	頁	開講科目	頁
英語Ⅱ	103	口腔リハビリテーション演習	115
医療手話	104	歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	116
スポーツレクリエーション	105	救急法・救急蘇生法	119
一般臨床医学	106	審美歯科演習	121
人間関係論	107	臨地実習Ⅲ(臨床総合)	123
口腔衛生管理	108	臨地実習指導(臨床総合)	125
う蝕予防処置法(臨床応用)	109	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床基礎)	127
歯周病予防法(臨床応用)	110	歯科衛生研究法Ⅱ(臨床応用)	128
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	112		

ナンバリング	130
教員一覧	135
オフィスアワー、成績評価	136
実務経験を有する教員の科目一覧	137

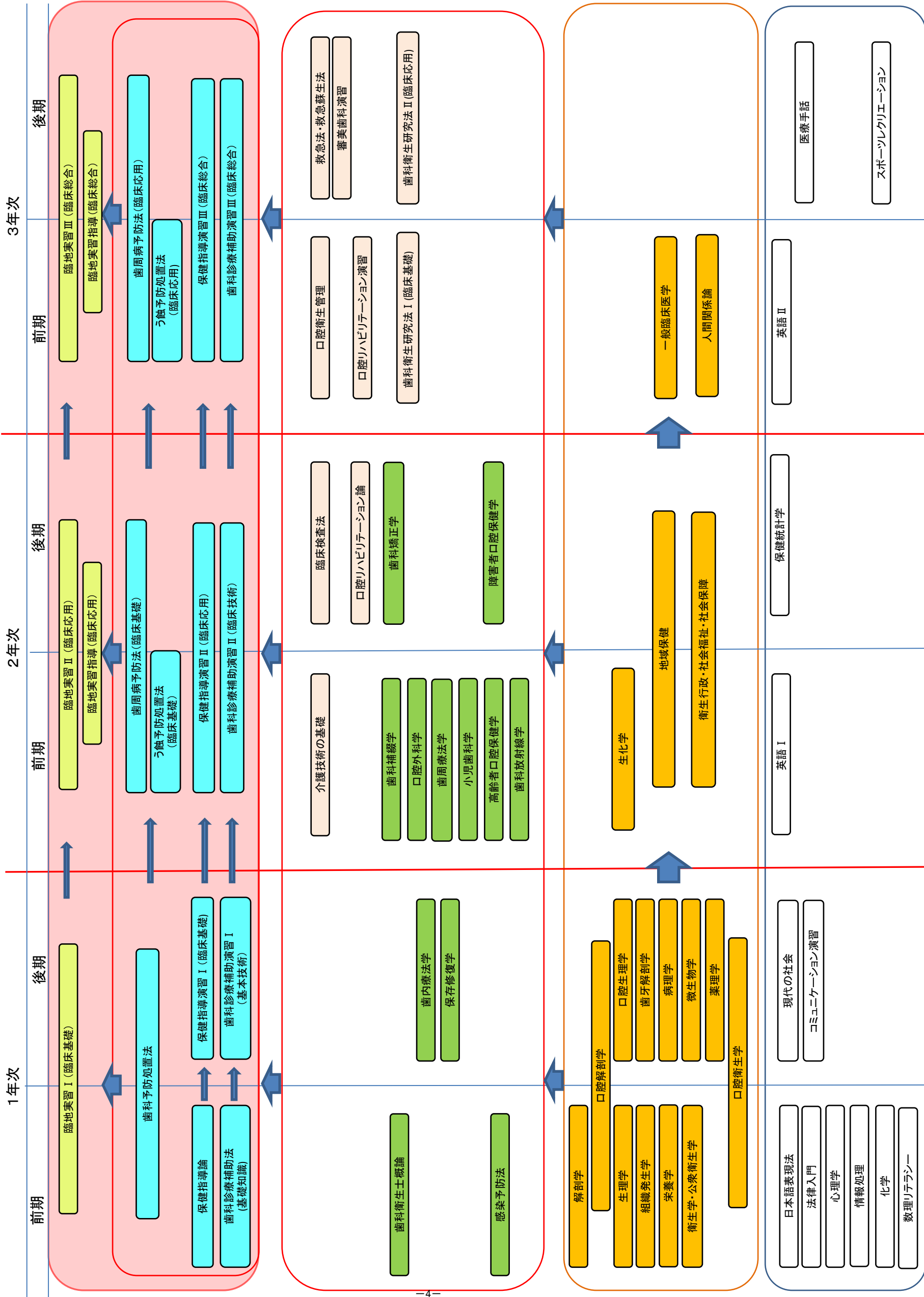
# 歯科衛生学科 1年生

(2026年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

# 2026年度歯科衛生学科1年生 カリキュラムツリー

- 教養教育分野
- 専門支持科目
- 専門展開科目(講義)
- 専門展開科目(演習)
- 実習



2026年度歯科衛生学科1年 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

- 【基礎力】**：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
  - ②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
  - ③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。
- 【実践力】**：各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
  - ②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけて実践できる。
  - ③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。
- 【人間関係力】**：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
  - ②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
  - ③他者との関わりの中で、自らの課題を見つめる客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。
- 【生涯学習力】**：生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
  - ②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
  - ③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】**：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
  - ②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果：1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力  
 学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。  
 ●は、各授業科目が学修成果の1~5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次															単位数								
			1年					2年					3年					必	選							
			前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前			後	1	2	3	4	5	
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																		1		
		英語Ⅰ	15								○	●													1	
		英語Ⅱ	10																						1	
		医療手話	10																						1	
	人間と社会	法律入門	8	○		●																			1	
		現代の社会	8		○	●																			1	
		コミュニケーション演習	10		○	●		●	●																1	
	人間と科学	心理学	10	○		●		●																		1
		教理リテラシー	8	○		●																				1
		保健統計学	8								○	●														1
		情報処理	15	○		●																				1
		化学	10	○		●																				1
専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																			2	
		生理学	15	○		●																			1	
		組織発生学	10	○		●																			1	
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20	○		●																			2	
		口腔生理学	15		○	●																			2	
		歯牙解剖学	10		○	●																			1	
	疾病の成り立ちと回復	病理学	15	○		●																				1
		微生物学	15	○		●																				1
		薬理学	15	○		●																				1
		栄養学	10	○		●																				1
		生化学	10							○	●															1
	健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	一般臨床医学	10																							1
		衛生学・公衆衛生学	15	○		●																				1
		口腔衛生学	30	○		●																				2
		地域保健	15																							2
		衛生行政・社会福祉・社会保障	15								○	●														2
		人間関係論	10																							1
		歯科衛生士概論	15	○		●			●																	2
	臨床歯科医学	歯内療法学	10		○	●																				1
		保存修復学	10		○	●																				1
歯周療法学		15								○	●														1	
歯科補綴学		15								○	●														1	
口腔外科学		15								○	●														1	
歯科矯正学		15								○	●														1	
小児歯科学		15								○	●														1	
高齢者口腔保健学		10								○	●														1	
障害者口腔保健学		10								○	●														1	
歯科放射線学		10								○	●														1	
口腔衛生管理		10																							1	
歯科予防処置論		歯科予防処置法	30	○		●																				2
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	10								○	●	●													1
		歯周病予防法（臨床基礎）	30								○	●	●													2
	う蝕予防処置法（臨床応用）	10																							1	
	歯周病予防法（臨床応用）	20																							2	
歯科保健指導論	保健指導論	15	○		●																				1	
	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○	●		●																		1	
	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30								○	●	●													2	
	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30																							2	
	口腔リハビリテーション論	10									○	●													1	
歯科診療補助論	口腔リハビリテーション演習	10									○	●													1	
	歯科診療補助法（基礎知識）	20	○		●																				2	
	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●																			2	
	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	30								○	●	●													2	
	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20																							2	
	感染予防法	10	○		●	●																			1	
	臨床検査法	10								○	●	●													1	
	救急法・救急蘇生法	15																							1	
	介護技術の基礎	15									○	●	●												1	
	審美歯科演習	10																							1	
実習	臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	集中	○		●	●	●																		4	
	臨地実習Ⅱ（臨床応用）	集中								○	●	●	●	●											8	
	臨地実習指導（臨床応用）	15								○	●	●	●												1	
	臨地実習Ⅲ（臨床総合）	集中																							8	
	臨地実習指導（臨床総合）	15									○	●	●	●											1	
特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15																							1	
	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15																							1	

総計（卒業要件100単位以上）

93 9

## 2026年度 歯科衛生学科1年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土				
4月					1		2 実習着採寸	3 入学式	4			
	5	6	オリエンテーション	7	オリエンテーション	8	健康診断	9	10	11		
	12	13		14		15		16	17	18		
	19	20		21	スポーツ大会	22		23	24	25		
	26	27		28		29	昭和の日	30	1	2		
5月	3	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	8	9		
	10	11		12		13		14	15	合同交流会	16	
	17	18		19		20		21	22	23		
	24	25		26		27		28	29	30		
	31	1	2	3	4	5	6					
6月	7	8	9	10	11	12	13					
	14	15	歯科医院実習	16	歯科医院実習	17	歯科医院実習	18	実習報告会	19	20	
	21	22		23		24		25	26	27		
	28	29	30	1	2	3	4					
7月	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	海の日	21	22	23	24	25				
	26	27	28	29	30	31	定期試験	1				
8月	2	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験/HR	7	追試験	8
	9	10		11	山の日	12		13		14		15
	16	17	夏休み	18	夏休み	19	夏休み	20	夏休み	21	夏休み	22
	23	24	不合格者発表	25	夏休み	26	夏休み	27	再試験	28	再試験	29
	30	31	再試験	1	夏休み	2	夏休み	3	夏休み	4	再試験結果発表/夏休み	5
9月	6	7	夏休み	8	夏休み	9	夏休み	10	夏休み	11	夏休み	12
	13	14		15		16		17		18		19
	20	21	敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	25	26		
	27	28	29	30								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 歯科衛生学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31 せいよう祭	
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23 勤労感謝の日	24	25 上杉山通小学校 実習	26 上杉山通小学校 実習	27	28	
	29	30	1	2	3	4	5	
12月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25 冬休み	26	
	27	28 冬休み	29 冬休み	30 冬休み	31 冬休み	1 冬休み	2	
1月	3	4 冬休み	5 冬休み	6 定期試験	7 定期試験	8 定期試験	9	
	10	11 成人の日	12 定期試験	13 定期試験	14 追試験	15 追試験	16	
	17	18 歯科医院実習	19 歯科医院実習	20 歯科医院実習	21 歯科医院実習	22 歯科医院実習	23	
	24	25 歯科医院実習	26 歯科医院実習	27 歯科医院実習	28 歯科医院実習	29 歯科医院実習	30	
	31	1 実習予備日	2 不合格者発表	3 歯科医院実習	4 歯科医院実習	5 歯科医院実習	6	
2月	7	8 歯科医院実習	9 歯科医院実習	10 歯科医院実習	11 建国記念日	12 歯科医院実習	13	
	14	15 歯科医院実習	16 歯科医院実習	17 歯科医院実習	18 歯科医院実習	19 歯科医院実習	20	
	21	22 歯科医院実習	23 天皇誕生日	24 実習報告会	25 実習報告会 /HR	26 再試験	27	
	28	1 再試験	2 再試験	3 春休み	4 春休み	5 再試験結果発表 /春休み	6	
3月	7	8 春休み	9 春休み	10 春休み	11 春休み	12 春休み	13	
	14	15 春休み	16 春休み	17 春休み	18 春休み	19 春休み	20	
	21	22 春分の日	23 春休み	24 春休み	25 春休み	26 春休み	27	
	28	29 春休み	30 春休み	31 春休み				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位認定者	徳田 幸雄		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に表現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。</li> <li>日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。</li> <li>目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴				事前学修：語族について調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
2	日本語の歴史				事前学修：古事記について調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
3	ことばと表現①（熟語、語句）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
4	ことばと表現②（ことわざ、故事成語）				事前学修：漢検2級レベルの漢字を確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
5	敬語表現①（敬語の基本）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
6	敬語表現②（尊敬語と謙譲語）				事前学修：尊敬語と謙譲語の相違の確認 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
7	話してみよう①（インタビューとショートスピーチ）				事前学修：結婚式スピーチを調べる 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
8	話してみよう②（グループディスカッション）				事前学修：少子化対策を考える 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
9	修飾語と被修飾語との関係①（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
10	修飾語と被修飾語との関係②（練習問題）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
11	句読点の打ち方（原則論）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
12	句読点を打つ練習と文章要約①（境界の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
13	句読点を打つ練習と文章要約②（逆転の点）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
14	意見文の書き方（4 STEPS）				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
15	意見文の作成と句読点を打つ練習				事前学修：河北新報の「河北春秋」を読む 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループディスカッション インタビュー ショートスピーチ）									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著 朝日新聞出版 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著 風間書房									
備考	授業内課題については、次の授業内にてフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-04				
	●									
科目名	法律入門				単位認定者	鈴木 一樹		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	法律の意味と法律を学ぶ意味				事前学修：法律に関するイメージを自分なりに持つておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
2	憲法（1）基本的人権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
3	憲法（2）統治機構				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
4	民法（1）総則・物権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
5	民法（2）債権				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
6	民法（3）親族・相続				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
7	刑法（1）総論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
8	刑法（2）各論				事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習すること 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配布する。									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進度に応じて変更する場合がある。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

公認会計士として、5年以上企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-03			
	●								
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	※筆記試験はマークシート（60%）とレポート（20%）を同時内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。
						授業時間数	16 時間		受講態度
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。								
到達目標	取り上げるテーマは、いつでも社会人として当然備えるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。								
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。								
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と歴史)				事前学修：現代社会の文化と歴史について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)				事前学修：特に大衆社会について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				事前学修：特に生命科学と情報技術について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				事前学修：特に自己形成について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				事前学修：特に社会権・参政権について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)				事前学修：特に地方自治と政党政治について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
7	現代の経済社会(特に財政と金融)				事前学修：特に財政と金融について考察する。 事後学修：次回の確認テストに備える。			30	30
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について) 附、試験及びレポート作成に当たって				事前学修：特に国民の福祉について考察する。 事後学修：定期試験に備える。			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード( )								
教科書	『2026小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus』（第一学習社）								
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか』池上彰著（NHK出版(2017)） 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)								
備考	講義は板書を中心に進めるのでノート（大学ノート推奨）を準備すること（原則としてノート以外認めない）。 試験は、同時内にマークシート解答（成績割合60%）とレポート作成（同20%）を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度（成績割合20%）は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には試験を中止し、レポートのみで評価することもあり得るので心得ておくこと。								

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

高等学校等における社会科(地歴・公民科)教諭として、或いは進路指導担当教諭としての一般常識・時事問題教授・指導。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSO-01				
		●	●							
科目名	コミュニケーション演習				単位認定者	松本 寛子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	教養を形成する上で、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって身体感覚として身につけられる修養的教養は重要な意義をもっている。社会人としてビジネスマナーのみならず、医療や介護の現場で必要とされる接遇やマナーを身につけるために、グループワークやロールプレイングなどの演習を中心に学んでいく。									
到達目標	社会人としての一般常識と医療職者としてのマナーを演習を通じて身につけ、さらに患者接遇の基礎知識やマナーについて実践できる能力を修得する。									
学修者への期待等	幅広い年代の患者様との接遇に備え、専門分野のみならず幅広い知識と洞察力を養ってほしい。日頃から適切なマナーを心がけ、コミュニケーション能力向上を目標に授業以外でも常に実践していただきたい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	コミュニケーションについて理解する 多様性について考える				事前学修：これから社会に出て仕事をするうえで大切だと思うこと・楽しみなこと・心配なことを簡単にまとめてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
2	発音・発声 伝わりやすくするための技術 パブリックスピーキングとは				事前学修：自分の声・話す速度などについて録音し聞き返して客観的に分析してきてください。 事後学修：プリントについて復習する				10	10
3	言葉遣い・敬語について 丁寧語、尊敬語、謙譲語、美化語				事前学修：敬語についての必要性について考えてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
4	言葉遣い・敬語について 間違いやすい敬語、クッションことば				事前学修：前回の講義を踏まえ実践的な接遇のロールプレイングの準備をしてきてください。 事後学修：プリントについて復習する				10	10
5	電話応対（様々なケースに対応できるよう実践力を高める）				事前学修：ビジネスの場での電話対応で求められることはどんなことか考えてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
6	電話応対（伝言メモなどの作成で応用力を高める）				事前学修：前回の講義を踏まえ実践的な電話対応のロールプレイングの準備をしてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
7	社会人としてのマナーを身につける				事前学修：社会人としてのマナーについてどんなものがあるかを自分なりに知り、またその必要性について考えてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
8	ビジネス文書（お礼状作成を通じ決まり事を理解する）				事前学修：身の周りの実際のビジネス文書に触れ、どんなものがあるか、どんな内容か目を通してきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
9	プレゼンテーションのテクニック				事前学修：説明したり納得してもらうための伝え方の工夫を考えてきてください。 事後学修：プリントについて復習する。				10	10
10	プレゼンテーションスピーチを行い伝える力を養う				事前学修：テーマ「私のおすすめする物(こと)」で、60秒程度でスピーチできるようまとめて、練習してきてください 事後学修：10回の講座を振り返り改めて社会におけるコミュニケーションの役割を考察してください。				60	10
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（プレゼンテーション ロールプレイング）									
教科書	配布したプリントでの講義・演習となります									
参考文献	・一般社団法人日本話しことば協会テキスト ・即戦力になる!!ビジネスコミュニケーション第2版 箱田忠昭著 日経BP 社									
備考	授業内課題として小テスト後、授業内で採点・総括します。実践・演習を交えながら一般的なコミュニケーションスキルを身につけ、ビジネスの場においても応用、実践できるようにします。2クラスに分かれて授業を実施します。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は25年間フリーアナウンサーとしての活動を踏まえ言葉選びや話すことの大切さを伝え、社会や現場での接遇に活かしてもらえるように努めます。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSO-02				
	●		●							
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験 (筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	人間を理解するため、自分をより知るために、心理学という学問を体系的に学ぶ。認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティ、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎的知識の修得を目指す。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	心理学とは (心理学と自然科学)				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
2	発達				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
3	感覚・知覚・認知				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
4	学習				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
5	記憶				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
6	欲求と動機づけ				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
7	パーソナリティ				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
8	感情・情動				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
9	対人認知				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
10	日常生活上の問題 (外見に関する問題)				事前学修：資料を読んでおくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( ディスカッション )									
教科書	特に指定しません。資料は事前にUNIPA上にアップします。									
参考文献	なし									
備考	毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-02				
	●									
科目名	数理リテラシー				単位認定者	今村 博之 中島 拓		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的処理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につけます。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	分数や小数の計算・四則計算			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
2	割合と百分率(損益算・仕事算・濃度算)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
3	速さ(速さ・時間・距離、旅人算)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
4	数的推理①(図形)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
5	数的推理②(確率)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
6	統計の基礎①(実数、指数)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
7	統計の基礎②(総量と構成比、増加率)			事後学修：履修範囲の問題に取り組む		0	60	今村 博之		
8	生成AIの利用と倫理(個人演習、体験)			事前学修：参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験		30	0	中島 拓		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(個人演習・体験)									
教科書	『数的推理[問題編]』、『数的推理[解答編]』(大原出版株式会社、ISBNコードなし)									
参考文献	第8回講義の事前学習資料： <a href="https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/EYpAtrfYN_9Pm8P0yvpvj6vsBcJjVq-2jFJYcyp2z15908w?e=JxW4xN">https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/EYpAtrfYN_9Pm8P0yvpvj6vsBcJjVq-2jFJYcyp2z15908w?e=JxW4xN</a>									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
(中島) 業務経験： システム開発業務での生成AIツールを利用経験 3年、社内ISMS委員長としてセキュリティ管理経験 7年、自社および顧客サーバー管理経験 20年、システム開発業務 25年 資格： ソフトウェア開発技術者(IPA) 関連性： 情報セキュリティ知識と管理・運用経験、生成AIの基本的な仕組みの理解と利用経験、ITシステムとサービスに対する知識と開発・運用経験からの内部理解

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

<b>科目ナンバリング</b>
CO-0-HSC-01

科目名	情報処理				単位認定者	氏家 留美子		評価の方法	試験(筆記)	50%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20%
						授業時間数	30 時間		受講態度	30%
				授業形態	演習	授業回数	15 回			

**授業の概要**  
現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。

**到達目標**  
パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。さまざまなICTツールで情報を収集・整理・評価し、ICTを活用した情報分析ができるようになる。  
◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。  
◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。計算式や関数を使える。データにふさわしいグラフの種類を選び作成できる。  
◆PowerPoint：プレゼンテーションの目的や構成について理解し、視認性のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。

**学修者への期待等**  
基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。操作に不慣れた学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。教材データを保存するために、USBメモリを授業2回目以降で使用する。授業1回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2回目の授業までに各自準備すること。

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Word(実技)：ビジネス文書の基礎知識(ビジネス文書の構成と作成方法)	事前学修：教科書10～17ページを読んでおく 事後学修：教科書95ページ(文書の基本形)を覚える	30	30
2	Word(実技)：Wordの基本操作(書式設定・印刷設定) 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策	事前学修：教科書27～31ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するセキュリティ関連の問題を解く	30	30
3	Word(実技)：情報の整理(表を用いた文書作成)	事前学修：教科書39～45ページを読んでおく 事後学修：教科書46ページ(実習03)を操作する	30	30
4	Word(実技)：いろいろな書式設定の活用方法(段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・困い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター)	事前学修：教科書50～57ページを読んでおく 事後学修：教科書59ページ(実習08)を操作する	30	30
5	Word(実技)：文書の表現力アップ(イラスト・写真・ワードアート・図形描画)	事前学修：教科書60～68ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するWord課題を完成させる	30	60
6	Word(実技)：レポートなどの長文作成をサポートする操作(見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換) 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール	事前学修：教科書6～7ページを読んでおく 事後学修：授業で指示する著作権関連の問題を解く	30	30
7	PowerPoint(実技)：プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定	事前学修：教科書194～222ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題のテーマを考え、構成を下書きする	30	30
8	PowerPoint(実技)：アニメーションの設定・図解表現の手法・生成AIを活用した情報収集と内容整理・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成	事前学修：教科書233～237ページを読んでおく 事後学修：授業で指示するプレゼン課題を完成させる	30	90
9	Excel(実技)：Excelの基本操作(四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定)	事前学修：教科書96・110～123ページを読んでおく 事後学修：教科書108ページ(実習15)を操作する	30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)
10	Excel (実技) : 数式を効率的かつ正確に作る (相対参照と絶対参照の使い分け)	事前学修: 教科書139ページを読んでおく 事後学修: 教科書140ページ (例題11) を操作する	30	30
11	Excel (実技) : 数値を評価するための基本的関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTA)	事前学修: 教科書141ページを読んでおく 事後学修: 教科書153ページ (実習21) を操作する	30	30
12	Excel (実技) : データを視覚的に分析・評価 (グラフ作成)	事前学修: 教科書156～161ページを読んでおく 事後学修: 教科書164・165ページ (実習24・25) を操作する	30	30
13	Excel (実技) : 基準に基づくデータの整理や抽出 (データベースのしくみ・並べ替え・フィルター)	事前学修: 教科書168～173ページを読んでおく 事後学修: 教科書175ページ (実習29) を操作する	30	30
14	Excel (実技) : データを条件付きで処理・集計 (IF・COUNTIF・SUMIF関数など) 関数のまとめ① (データの評価・集計するための関数の活用)	事前学修: 教科書143～145ページを読んでおく 事後学修: 教科書144～145ページ (例題14) を操作する	30	30
15	Excel (実技) : 特定の値を基に検索とデータ取得 (VLOOKUP関数など) 関数のまとめ② (データの整理・分析するための関数の活用)	事前学修: 教科書146ページを読んでおく 事後学修: 教科書146ページ (例題15) を操作する	30	30
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ( プレゼンテーション )			
<b>教科書</b>	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子/大澤栄子 著 実教出版 (ISBN: 978-4-407-35943-5)			
<b>参考文献</b>	進行に応じてプリントを配布する。			
<b>備考</b>	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用方法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要, 実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSC-02				
	●									
科目名	化学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
							授業時間数		20 時間	受講態度(毎回の 授業内課題を含む)
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	化学とは物質の構造・性質及び物質相互の反応を研究する学問である。化学の基礎的知識や化学物質の性質を理解し、化学が現代の社会や生活において欠かせないことを認識する。さらに、歯科臨床でも役立つ化学の基礎について視覚教材を活用して理解していく。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質が原子・分子から構成されていることを理解し、物質量の計算ができるようになる。</li> <li>物質の三態の性質とその変化を説明できるようになる。</li> <li>化学反応とは何かを概説することが出来るようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	指定した教科書の範囲と事前に配布した講義資料を必ず予習してください。講義中に要点をノートに記入しながら受講し、不明な点は、質問として配付する用紙に記入してください。質問に対しては、次の講義で回答します。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	高校「化学基礎」の修得状況調査 物質I (原子と分子)				事前学修：教科書(p2-14)を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
2	物質II (原子量・分子量・モル)				事前学修：教科書(p14-15)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
3	物質III (化学結合の種類)				事前学修：教科書(p16-23)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
4	気体の性質 (気体の状態方程式及び気体の法則)				事前学修：教科書(p26-40)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
5	水溶液の濃度 (パーセント濃度・モル濃度の計算)				事前学修：教科書(p42-52)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
6	希薄水溶液とコロイド (水溶液の沸点・凝固点及びコロイド溶液の性質)				事前学修：教科書(p53-66)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
7	酸とアルカリ (酸・アルカリの定義とpH)				事前学修：教科書(p67-77)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
8	酸化還元反応 (酸化・還元の定義とイオン化傾向)				事前学修：教科書(p80-86)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
9	化学反応 (化学反応速度と化学平衡)				事前学修：教科書(p88-96)と配布資料を予習する。 事後学修：教科書と配布資料を用いて復習する。				40	20
10	総復習				事前学修：教科書及び配布資料を見直す。 事後学修：教科書及び配布資料の問題を復習する。				60	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( )									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 化学』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『コ・メディカル化学 医療・看護系のための基礎化学』 齋藤勝裕・荒井貞夫・久保勘二共著 裳華房 『高校 とってもやさしい 化学基礎』 改訂版 柿澤壽著 旺文社									
備考	授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期日内に提出して下さい。これとは別に、毎回講義の最後に課題(小テスト)を出します。その解答及び質問等は、毎回配布する用紙に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問等のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-01				
	●									
科目名	解剖学				単位認定者	鈴木 裕一		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	解剖学では主に人体の形・構造とその成り立ちを追求する。これは全身の健康や病気を理解する上でその初めとなる重要なステップとなる。本科目では、人体の正常な形・構造を体系的に理解する。また、全身の構造について口腔内の構造との対比の中で理解していく。									
到達目標	解剖学の種類や分類について学び人体の正常な形態と構造について理解する。また、人体を構成する各器官の位置形態および構造を修得し、各系統ごとに整理して理解する。									
学修者への期待等	人体の構造に関する知識は、すべての医学分野の学修において欠く事のできないものといえる。日々の授業の中で十分な理解と共に修得に努めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	総論（解剖学の意義・用語） レポートの書き方				事前学修：教科書1～10ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
2	骨格系①（骨の構造、形態、連結、発生）				事前学修：教科書46～54ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
3	骨格系②（各論）				事前学修：教科書56～63ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
4	筋と運動①（筋の形状・分類、構造と機能）				事前学修：教科書64～70ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
5	筋と運動②（頭部、頸部、背部）				事前学修教科書70～74ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
6	筋と運動③（胸部、腹部、上肢、下肢）				事前学修教科書74～80ページを読んでおくこと。 （概ね20分） 次回の授業時、より理解を深めるために骨格系・筋系の領域について小テストを行う予定。（事前に概ね2時間の学修が必要）			20	120	
7	消化器の構造①（上部消化管）				事前学修教科書84～90ページを読んでおくこと。 （概ね30分）＋小テスト			30	0	
8	消化器の構造②（下部消化管）				事前学修教科書91～94ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
9	消化器の構造③（肝臓、胆嚢、膵臓）				事前学修教科書94～97ページを読んでおくこと。 （概ね20分）。より理解を深めるために消化器系に関するレポート課題を出す。（図書室、情報処理室で概ね2時間必要となる課題）。			20	120	
10	神経系				事前学修教科書179～203ページを読んでおくこと。 （概ね30分）			30	0	
11	循環系①（心臓、動脈系）				事前学修教科書121～143ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
12	循環系②（静脈系、リンパ系）				事前学修教科書143～154ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
13	呼吸器系				事前学修教科書213～222ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
14	泌尿器系				事前学修教科書234～238ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			20	0	
15	生殖器系				事前学修教科書259～263ページを読んでおくこと。 （概ね20分）			30	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-02				
	●									
科目名	生理学				単位認定者	鈴木 裕一		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	ヒトの身体は様々な器官や組織から構成されている。これら器官・組織がどのような働きをしているか、また、その働きがどのような仕組みで行われるかを学修するのが生理学である。その仕組みを理解することで、様々な病気の仕組みも理解することが容易になる。									
到達目標	どのようにして生体は一定の状態を保とうとするのか(ホメオスタシス)について、神経系と内分泌系の両面から理解する。									
学修者への期待等	人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。まずは、全体を大きく把握することからはじめてほしい。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	生理学概論				事前学修：教科書9～10ページを読んでおくこと。				15	0
2	細胞の構造と基本機能				事前学修：教科書14～20ページを読んでおくこと。				20	0
3	血液①(成分と機能)				事前学修：教科書112～117ページを読んでおくこと。				20	0
4	血液②(血液凝固、血液型)				事前学修：教科書118～122ページ読んでおくこと。 次回の授業時、細胞・血液に関する小テストを行う予定。(2時間程度の事前学修が必要)				20	120
5	循環器系(心臓の働き、心電図、血管の機能)				事前学修：小テスト(細胞、血液)実施予定。 教科書127～139ページを読んでおくこと。				20	0
6	呼吸器系(呼吸運動、肺気量、呼吸の調節)				事前学修：教科書222～232ページを読んでおくこと。				20	0
7	筋系(筋の収縮と微細構造、筋電図)				事前学修：教科書65～69、80～83ページを読んでおくこと。				20	0
8	神経系①(基本機能、中枢神経)				事前学修：教科書183～184、191～193ページを読んでおくこと。				20	0
9	神経系②(末梢神経、自律神経)				事前学修：教科書204～232ページを読んでおくこと。				20	0
10	感覚系(感覚の性質と種類、体性感覚、感覚情報の伝達)				事前学修：より理解を深めるために神経-感覚器系に関するレポート課題を出す。(図書室、情報処理室で概ね2時間必要となる課題)なお、提出はUNIPAによる電子投稿を予定している。				30	120
11	消化と吸収				事前学修：教科書97～105ページを読んでおくこと。				20	0
12	排泄(排便・排尿)、体温				事前学修：教科書106～108、238～243ページを読んでおくこと。				20	0
13	内分泌系①(脳下垂体、甲状腺、上皮小体)				事前学修：教科書246～251ページを読んでおくこと。				20	0
14	内分泌系②(膵、副腎、精巣、卵巣)				事前学修：教科書251～256ページを読んでおくこと。				20	0
15	生殖(性周期、受精と妊娠)				事前学修：教科書259～268ページを読んでおくこと。				20	0



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-03				
	●									
科目名	組織発生学				単位認定者	山口 恵		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	人体において基本的な単位とは細胞であり、細胞が集まって組織となり、組織が集まって器官となり、器官が集まって器官系をなす。人体を構成する構造について階層的に学び、構造と機能の関係や各器官の特徴を理解する。さらに、人体が一つの受精卵から組織・器官に分化してゆく発生機序について理解する。									
到達目標	人体を構成する各種細胞、組織における種類と微細構造、細胞の分化・構築・機能を理解する。また、人の発生時の構造について理解する。									
学修者への期待等	肉眼では確認できない細胞・組織の構造について理解できるよう努めてほしい。また、発生過程での受精卵の動態について理解できるよう努めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	細胞、組織（上皮組織、支持組織）				事前学修：教科書①12～30ページを読んでおくこと。			20	0	
2	組織（筋組織、神経組織）、造血器官とリンパ性器官（血液、血管、循環器系、リンパ系）				事前学修：教科書①64～65、179～182、109～111、149～154ページ読んでおくこと。次回授業時、細胞、組織に関する小テストを行う予定。（概ね1時間の事前学修が必要）			20	60	
3	口腔組織（エナメル質、象牙質）				事前学修：小テスト（細胞、組織）実施予定。教科書②218～235ページを読んでおくこと。			20	0	
4	口腔組織（セメント質、歯髄、歯根膜、歯槽骨）				事前学修：教科書②236～251ページを読んでおくこと。			20	0	
5	発生（染色体、受精と着床、胚葉）				事前学修：教科書①31～43ページを読んでおくこと。			20	0	
6	皮膚と粘膜				事前学修：教科書①161～167ページを読んでおくこと。			20	0	
7	呼吸器系、泌尿器系				事前学修：教科書①213～222、234～238ページを読んでおくこと。			20	0	
8	感覚器系、神経系				事前学修：教科書①167～178、185～190、196～203ページを読んでおくこと。			20	0	
9	消化器系				事前学修：教科書①84～97ページを読んでおくこと。			20	0	
10	内分泌系				事前学修：教科書①246～254ページを読んでおくこと。			20	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	①『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 ②『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後することもある。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

東北大学病院大学病院にて口腔外科医として実務経験あり。また組織発生学分野において教育経験があり、それを活かして授業を行います。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-04

科目名	口腔解剖学				単位 認定者	小野寺 健 白石 成		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	10 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	20 回			
授業の概要	口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。本科目では、口腔疾患に携わる歯科衛生士に必要な、歯・口腔とその周囲組織の形・構造に関する理解を深める。また口腔に関する発生について理解を深める。									
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる。									
学修者への期待	口腔の解剖に関する知識は、臨床を行う上でも不可欠なものとなる。学修量が多いので必ず復習をすること。また、必ず授業に参加すること。定期試験以外にも適宜小テストを行う。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	口腔解剖学総論 頭蓋の骨 ① (頭蓋の骨の全体像・頭蓋の前面)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨む。		30	0	小野寺 健	
2	頭蓋の骨 ② (頭蓋の上面・後面・側面)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。		30	0	小野寺 健	
3	頭蓋の骨 ③ (頭蓋の下面・内面)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。		30	0	小野寺 健	
4	頭蓋の骨 ④ (上顎骨、口蓋骨)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。		30	0	小野寺 健	
5	頭蓋の骨 ⑤ (下顎骨、舌骨)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。次回小テストを行う予定。(概ね2時間準備必要)		30	0	小野寺 健	
6	顎関節 (顎関節の構造と働き)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ④顎関節」の部位を読んで授業に臨むこと。		30	0	小野寺 健	
7	口腔の構成① (口唇、頬、歯肉)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。		30	0	小野寺 健	
8	口腔の構成② (口蓋、舌下部、舌、味蕾)				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。		30	0	小野寺 健	
9	唾液腺 (三大唾液腺、小唾液腺)、咽頭と喉頭の構造				事前学修: 「I編 歯・口腔の構造1章 ⑦唾液腺」、「III編 歯・口腔の機能 4章 嚥下と嘔吐」を読んで授業に臨むこと。		30	0	小野寺 健	
10	口腔、歯胚の発生				事前学修: II編 歯および歯周組織の発生 1章顔面と口腔の発生、II編2章歯と歯周組織の発生、を読んで授業に臨むこと。		30	0	小野寺 健	
11	頭頸部の筋肉について (総論) 頭頸部の筋 ① (顔面筋)				事前学修: 「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。		60	90	白石 成	
12	頭頸部の筋 ② (咀嚼筋とその作用、舌骨上筋群、舌骨下筋群とその作用)				事前学修: 「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。		60	90	白石 成	
13	口腔付近の動脈 ① (脈管系総論と総頸動脈、外頸動脈の枝・舌動脈と顔面動脈)				事前学修: 「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。		60	90	白石 成	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
14	口腔付近の動脈・静脈 ② (顎動脈とその分枝、内頸静脈、下顎後静脈など)	事前学修：「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、動脈系の対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
15	頭頸部のリンパ系 (頭頸部のリンパ節の分布)	事前学修：「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、リンパ系の部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
16	神経学総論	事前学修：「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
17	頭頸部の神経 ① (脳神経、嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経)	事前学修：「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
18	頭頸部の神経 ② (顔面神経、内耳神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)	事前学修：「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
19	頭頸部の神経 ③ (三叉神経とその分枝)	事前学修：「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
20	頭頸部の神経 ④ (脊髄神経と自律神経系)	事前学修：「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。	60	90	白石 成
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( )				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 頭蓋骨の模型・プロジェクターを使用する。プリントを配布する。				
<b>参考文献</b>	適宜紹介する。				
<b>備考</b>	小野寺分、白石分ともに、基本的に対面授業で行う。 小テストは個別に実施し、頭蓋骨を手にして、各部名称、神経・付着筋についての概要が説明できるようにする。 授業内課題については、確認後にフィードバックを行う。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
【白石】歯科医師として、特に、歯の欠損や骨欠損に対する補綴歯科治療、また、摂食嚥下リハビリテーションをサブスペシャリティとしている。両分野とも、筋や神経に対する知識、それらが生成する咀嚼運動や顎運動への理解が重要であり、これらの実務経験を活かした口腔解剖に関する授業を実施する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-05				
	●									
科目名	口腔生理学				単位認定者	小山 重人		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	高齢者・要介護者が抱える諸問題の中でも咀嚼・嚥下・発声の障害は大きな問題となっている。歯・口腔とその周囲組織の機能は、正常な咀嚼・嚥下・発声に重要にかかわっている。本科目では、歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。									
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する基礎知識を修得する。									
学修者への期待等	全身の解剖・生理の基本的知識を踏まえた上で、授業に臨むことを期待する。また、教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	歯・口腔、顔面の感覚				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
2	味覚と嗅覚 1（味覚）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
3	味覚と嗅覚 2（嗅覚）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
4	咬合と咀嚼・吸啜 1（下顎位、下顎の運動）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
5	咬合と咀嚼・吸啜 2（顎反射、摂食行動）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
6	咬合と咀嚼・吸啜 3（咀嚼能力、口腔機能）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
7	咬合と咀嚼・吸啜 4（咀嚼能力、吸啜）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
8	嚥下と嘔吐 1（嚥下とは、咀嚼・嚥下時の筋の働きと食塊の動き）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
9	嚥下と嘔吐 2（嚥下の神経機構、嚥下の病態）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
10	嚥下と嘔吐 3（嚥下と検査）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
11	嚥下と嘔吐 4（嘔吐）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
12	発声・発語 1（発声機構の概要 声の生成、構音のメカニズム）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
13	発声・発語 2（歯・口腔の病態と構音）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
14	唾液1（唾液の分泌機構・性状・成分と機能）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
15	唾液2（唾液と疾患）				事前学修：教科書の該当ページを読んで予習する 事後学修：配布資料を用いて復習する			30	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	なし									
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。									

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科医師として咬合・咀嚼・嚥下などに問題がある様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、口腔生理学に関して具体的な臨床に結び付けた授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-06		
	●							
科目名	歯牙解剖学				単位 認定者	小野寺 健 佐々木 聡		
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	
					授業時間数	20 時間	評価の方法	小テスト
				授業形態	講義	授業回数		10 回
授業の概要	ヒトの歯の形態、歯の発生、歯の組織を理解し、歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。また、歯周組織との関連を理解する。スケッチ描画等を通して乳歯、永久歯の各歯牙の形態、機能の特徴を明確に把握する。							
到達目標	歯科医療に従事する者として、その最も基礎的な知識であるヒトの歯の表示法や記号、歯種鑑別、歯列と咬合との関連性、歯種別の歯の形態そして歯の形態異常を学ぶ。またスケッチ描画を通して歯そのものの歯冠及び歯根形態を学ぶ。							
学修者への期待等	覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に挑む。授業後は復習を行うこと。							
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	歯の概論①（歯の機能、歯の種類と名称、歯式）			事前学修：Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。		30	0	小野寺 健
2	歯の概論②（歯の形態、歯の各部名称、根管の形態）			事前学修：Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。		30	0	小野寺 健
3	永久歯の形態的特徴（中切歯、側切歯、犬歯）			事前学修：Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。		30	0	小野寺 健
4	永久歯の形態的特徴（小白歯、大白歯）			事前学修：Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。		30	0	小野寺 健
5	乳歯の形態的特徴、特色のある歯の形態			事前学修：Ⅱ編1章の歯の形態のうち、該当するページの歯の機能、歯の形態、歯の種類と数、歯の表示法についてあらかじめ読んでおくこと。		30	0	小野寺 健
6	（歯牙デッサン演習）右側上顎中切歯のデッサン			事前学修：上顎中切歯の形態学的特徴を把握してくること。 事後学修：		30	0	佐々木 聡
7	（歯牙デッサン演習）右側上顎犬歯のデッサン			事前学修：上顎犬歯の形態学的特徴を把握してくること 事後学修：		30	0	佐々木 聡
8	（歯牙デッサン演習）右側上顎第一小白歯のデッサン			事前学修：上顎第一小白歯の形態学的特徴を把握してくること。 事後学修：		30	0	佐々木 聡
9	（歯牙デッサン演習）右側上顎第一大臼歯のデッサン			事前学修：上顎第一大臼歯の形態学的特徴を把握してくること。 事後学修：		30	0	佐々木 聡
10	（歯牙デッサン演習）右側下顎第一大臼歯のデッサン			事前学修：下顎第一大臼歯の形態学的特徴を把握してくること。 事後学修：		30	0	佐々木 聡
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）							
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社							
参考文献	適宜、プリントを配布する。							
備考	1～5回は1クラス（グループワーク）で、6～10回は2クラスに分かれて授業を行う。小テストは小野寺担当は筆記形式と歯牙鑑別を行う。評価は採点し次回総括する。 授業内課題は歯牙デッサン演習で毎回歯牙スケッチを提出し、それを評価とする。デッサンは評価後に返却してフィードバックする。							
<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>								
【佐々木】担当教員は歯科技工分野で31年の実務経験と、歯科技工士資格)を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。								

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-07				
	●									
科目名	病理学				単位認定者	小野寺 健		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数			15 回			
授業の概要	病理学とは病気になった原因を探り、病気になった患者の身体に生じている変化が、どのようなものであるかを明らかにする学問である。本科目では、病気にはどのような種類があるか、細胞・組織・臓器にどのような病的変化(病理・病変)を生じるかを、肉眼的及び微細構造学的に理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を修得する。とりわけ、顎口腔は、硬・軟両組織を含む多数の組織より構築され、口腔領域に特徴的な病変が多く発生するので、その基本的な知識を修得する。									
到達目標	種々の疾患で生じる臓器、組織、細胞での形態学的な変化を理解する。とりわけ、硬・軟両組織を含む多様な組織より構築されている顎口腔部位について、その特異的な病変を理解する。									
学修者への期待等	病理学とは医学の基礎となる学問である。そのため、解剖学、生理学等の他の基礎医学の基本的知識を踏まえた上で修得に努めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	病理学①（病理学とは、病因論（内因と外因）、遺伝性疾患と奇形）				事前学習：教科書2～13ページまでを読んでおく（1章、2章）			20	0	
2	病理学②（循環障害）				事前学習：教科書14～22ページまでを読んでおく（3章）			20	0	
3	病理学③（代謝障害と退行性病変）				事前学習：教科書23～33ページまでを読んでおく（4章）			20	0	
4	病理学④（増殖と修復）				事前学習：教科書34～41ページまでを読んでおく（5章）			20	0	
5	病理学⑤（炎症と免疫応答異常）				事前学習：教科書43～59ページまでを読んでおく（6章）			20	0	
6	病理学⑥（腫瘍）				事前学習：教科書60～68ページまでを読んでおく（7章）次回小テストを行う予定（範囲は病理学①～⑥）。			20	0	
7	口腔病理学①（歯の発育異常、歯の損傷）				事前学習：教科書70～87ページまでを読んでおく（口腔病理1、2章）+小テスト			20	0	
8	口腔病理学②（う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態）				事前学習：教科書88～104ページまでを読んでおく（口腔病理3、4章）			20	0	
9	口腔病理学③（歯周組織の病態）				事前学習：教科書105～121ページまでを読んでおく（口腔病理5章）			20	0	
10	口腔病理学④（口腔粘膜病変）				事前学習：教科書122～132ページまでを読んでおく（口腔病理6章）			20	0	
11	口腔病理学⑤（口腔領域の嚢胞と腫瘍）				事前学習：教科書133～145ページまでを読んでおく（口腔病理7章）			20	0	
12	口腔病理学⑥（口腔癌）				事前学習：教科書146～151ページまでを読んでおく（口腔病理8章）			20	0	
13	口腔病理学⑦（顎骨の病変）				事前学習：教科書152～159ページまでを読んでおく（口腔病理9章）			20	0	
14	口腔病理学⑧（唾液腺の病変）				事前学習：教科書161～167ページまでを読んでおく（口腔病理10章）			20	0	
15	口腔病理学⑨（口腔領域奇形、加齢変化）				事前学習：教科書168～179ページまでを読んでおく（口腔病理11、12章）			20	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	適宜、参考資料を配付する。									
備考	小テストは回収後、採点し、次回総括する。授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
東北大学歯学部にて病理医としての実務経験あり。また学生への教育経験もあり、それを活かして病理学の講義を行います。										

<b>科目ナンバリング</b>
DH-1-DHB-08

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

<b>科目名</b>	微生物学				<b>単位 認定者</b>	阿部 昌子		<b>評価の 方法</b>	試験（筆記）	70 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	歯科衛生学科	必修	1年	<b>開講時期</b>	後期	<b>単位数</b>	1 単位		授業内課題等	10 %
						<b>授業時間数</b>	30 時間		受講態度	20 %
				<b>授業形態</b>	講義	<b>授業回数</b>	15 回			
<b>授業の概要</b>	<p>微生物学とは、微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）がどのようにして人に感染し、病気（感染症）を起こすのかという「感染症の成り立ち」を明らかにする学問である。</p> <p>歯科衛生士にとって必要な知識である微生物と免疫について学ぶことを通して、全身の感染症の成り立ちについて理解する。また、口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、感染予防についての基礎的な知識を修得する。</p>									
<b>到達目標</b>	種々の微生物の性質を理解し、感染症と免疫についての基礎的な知識を修得する。									
<b>学修者への期待等</b>	教科書、ノート、配布プリントなどで復習を行い、授業内容を十分に理解することを期待する。									
<b>回</b>	<b>授業計画</b>				<b>準備学修</b>				<b>事前学 修時間 (分)</b>	<b>事後学 修時間 (分)</b>
1	I 編 微生物学 1章 微生物学の概要 2章 感染				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
2	I 編 微生物学 3章 微生物学総論 1 細菌の形態、構造				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
3	I 編 微生物学 3章 微生物学総論 2 細菌の増殖・病原因子、 真菌				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
4	I 編 微生物学 3章 微生物学総論 3 ウイルス、 III編 病原微生物学 1章 その他の細菌（スピロヘータ、マイコプラズマ属、 クラミジア属、リケッチア属） 5章 プリオン				事後学修：次回、1～4回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をする				0	120
5	IV編 免疫学 1章 免疫 1 免疫の種類、生体のバリア機構				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
6	IV編 免疫学 1章 免疫 2 自然免疫				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
7	IV編 免疫学 1章 免疫 3 抗原提示、獲得免疫				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
8	IV編 免疫学 1章 免疫 4 能動免疫と受動免疫、粘膜免疫				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
9	IV編 免疫学 2章 アレルギー 3章 免疫に関する疾患				事後学修：次回、5～9回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習をする				0	120
10	II 編 口腔微生物学 1章 口腔環境と常在微生物 1 微生物と口腔環境				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
11	II 編 口腔微生物学 1章 口腔環境と常在微生物 2 口腔常在微生物				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40
12	II 編 口腔微生物学 2章 バイオフィルムとしてのプラーク（歯垢） 1 形成機序と成熟				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習する				0	40

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
13	Ⅱ編 口腔微生物学 2章 バイオフィルムとしてのプラーク(歯垢) 2 バイオフィルムとバイオフィルム感染症	事後学修:教科書、ノート、配布プリントなどで復習する	0	40
14	Ⅱ編 口腔微生物学 3章 う蝕の細菌学	事後学修:教科書、ノート、配布プリントなどで復習する	0	40
15	Ⅱ編 口腔微生物学 4章 歯周病の細菌学	事後学修:15回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること	0	180
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード( )			
教科書	『歯科衛生シリーズ 第2版 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学』 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社			
参考文献	なし			
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画は前後する事もある。			
<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>				
担当教員は微生物学・口腔微生物学分野で17年の実務経験と歯科医師資格を有しており、その経験を生かした実践的な授業を行います。				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-09				
	●									
科目名	薬理学				単位認定者	磯谷 美重		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について学ぶ。各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について作用機序、特徴、副作用について理解する。さらに、歯科疾患に対して臨床で使用される治療薬についても学ぶ。									
到達目標	歯科衛生士として必要な薬理学の基礎的知識を修得し生体と薬物との関わりを理解する。									
学修者への期待等	疾病を有する患者、服薬中の患者および高齢者の歯科受診機会が増大している。全身疾患と薬物治療の知識を広く修得し、将来臨床の場で役立てることを期待する。各回、質問と課題があるので予習復習して講義に臨むこと。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	総論①（薬理学とは、薬物療法、薬理作用、用量）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
2	総論②（薬物動態）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
3	総論③（薬物の適用方法、血中濃度）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
4	総論④（薬理作用に影響を与える因子、薬物の連用・併用、薬物相互作用）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
5	総論⑤（薬物の副作用、適用する際の注意点、薬物の取り扱い、法規・分類）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
6	中枢神経作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、中枢神経興奮薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
7	末梢神経作用薬（自律神経作用薬、筋弛緩薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
8	循環・呼吸系作用薬（高血圧症治療薬、心疾患治療薬、気管支喘息治療薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
9	血液作用薬（止血機序、止血薬、抗血栓薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
10	抗炎症薬（炎症の定義、抗炎症薬の分類）、鎮痛薬				事後学修：配布資料の復習			0	20	
11	抗悪性腫瘍薬、免疫作用薬（抗悪性腫瘍薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
12	局所麻酔薬				事後学修：配布資料の復習			0	20	
13	抗感染症作用薬（感染とは、抗感染症薬）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
14	消毒薬				事後学修：配布資料の復習			0	20	
15	ビタミン・ホルモン（ビタミン欠乏症、ホルモン製剤）、代謝性疾患治療薬（骨粗鬆症、糖尿病）				事後学修：配布資料の復習			0	20	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『イラストでわかる歯科医学の基礎』 淵端孟ほか監修、株式会社永末書店									
備考										

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯学部薬理学講座で7年間の基礎研究と実習指導、一般歯科と障害者歯科で30数年の臨床経験を活かし総合的な歯科薬理学の講義を行う。

科目ナンバリング
DH-1-DHB-10

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●									
科目名	栄養学				単位認定者	藤枝 弥生子 藤井 由智恵		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	栄養学とは、健康な生命活動を維持・増進するために必要な物質を食品から利用する現象を明らかにする学問である。はじめに、栄養素の消化吸収を学び、続いて、各栄養素の必要量や働きを理解する。さらに適切な食生活の必要性と日本人の現状を理解して、健康な生活を送るための基本的な知識を修得する。									
到達目標	(1) 栄養学の必要性、栄養素の消化吸収及び働きを理解する。 (2) 国民の健康と栄養の実態を把握し、ライフステージ別の特徴と望ましい食生活を理解する。 (3) 食品の分類と特性、保健機能食品について理解する。									
学修者への期待等	受講後は復習を行い、授業の内容を理解しておくこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	栄養学と歯科衛生士				事後学修：復習問題		0	30	藤枝 弥生子	
2	健康と栄養				事後学修：復習問題		0	30	藤枝 弥生子	
3	食事と食品				事後学修：復習問題		0	30	藤枝 弥生子	
4	ライフステージと栄養（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）				事後学修：復習問題		0	30	藤枝 弥生子	
5	ライフステージと栄養（成人期、高齢期）				事後学修：復習問題		0	30	藤枝 弥生子	
6	栄養ケアマネジメント				事後学修：復習問題		0	30	藤井 由智恵	
7	栄養素の種類と働き(糖質、脂質、たんぱく質)				事後学修：復習問題		0	30	藤井 由智恵	
8	栄養素の種類と働き(ビタミン、ミネラル、食物繊維、水)				事後学修：復習問題		0	30	藤井 由智恵	
9	栄養素の消化・吸収(消化・吸収と栄養、消化の種類、消化の過程)				事後学修：復習問題		0	30	藤井 由智恵	
10	栄養素の消化・吸収(吸収のメカニズム、栄養素の体内動態、栄養素別の消化・吸収)				事後学修：復習問題		0	30	藤井 由智恵	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能3 栄養学』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社									
参考文献	なし									
備考	・ 講義の進行状況によりシラバスの授業計画は前後することがある。 ・ 必要に応じてUNIPAで資料を配信するので、各自で準備すること。 ・ 授業回ごとの練習問題をUNIPAで配布するので、復習に活用すること。 ・ この授業は藤枝弥生子（5回）、藤井由智恵（5回）の2名が担当する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
藤枝弥生子：管理栄養士、食品保健指導士。民間食品検査機関で、食品検査及び食品加工施設の衛生調査、食品表示に従事。食品保健指導士として保健機能食品の啓蒙活動に関わる。これらの経験から食と栄養について一貫した講義を行う事ができる。 藤井由智恵：管理栄養士として病院に勤務し栄養管理業務に従事した実務経験を有する。この経験を活かした授業を行う。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-13				
	●									
科目名	衛生学・公衆衛生学				単位認定者	五十嵐 有香		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					後期	授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	衛生学は主に個人の健康に関わる学問である。一方、公衆衛生学は、不特定多数の公衆の健康に関わる学問である。本科目では、様々な環境要因が、どのように個人や公衆の健康に影響を及ぼすかについて理解するとともに、それらの疾病予防について学ぶ。また、健康障害の原因究明や予防対策に欠かせない疫学に関する基礎を学ぶ。									
到達目標	1. 健康増進、疾病予防の方法を習得し、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりについて理解できる。 2. わが国の国民衛生の動向について説明できる。 3. 各保健活動の基礎となる衛生法規を理解する。 4. 科学的根拠に基づいた予防のために、主要疾患の疫学について説明できる。									
学修者への期待等	板書を中心に授業を進めていくため、ノート等を準備すること。板書をただ書き写すだけでなく、気づいたことはメモをするなど各自で工夫をしてまとめてください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	総論(1) 健康・公衆衛生の概念				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
2	総論(2) 予防医学の概念 保健統計(1) 保健統計指標				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
3	保健統計(2) 人口動態統計、人口動態統計				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
4	保健統計(3) 生命表、傷病統計				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
5	疫学(1) 疫学の歴史、疫学指標				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
6	疫学(2) 疫学の研究方法、スクリーニング				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
7	主要疾患の疫学(1) 生活習慣病の動向と対策				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
8	主要疾患の疫学(2) 精神疾患の動向と対策				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
9	主要疾患の疫学(3) 感染症の予防と対策				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
10	環境と健康(1) 空気・水、放射線と健康				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
11	環境と健康(2) 地球環境と健康、公害、廃棄物処理				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
12	国民健康・栄養調査				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
13	健康に関わる社会制度(1) 地域保健、地域保健活動の進め方				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
14	健康に関わる社会制度(2) 健康増進法、健康日本21、母子保健、学校保健				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
15	健康に関わる社会制度(3) 産業保健、成人保健、高齢者保健				事前学修：教科書の該当ページを読むこと。 事後学修：教科書、板書およびノートをまとめること。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり；キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版株式会社）									
参考文献	『国民衛生の動向 2025/2026』（厚生労働統計協会）									
備考	板書を中心に進めるため、ノートを準備すること。講義の進行状況によりシラバスの授業計画は前後することがある。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-14				
	●									
科目名	口腔衛生学				単位認定者	伊藤 恵美		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	口腔の健康に影響を及ぼす種々の要因について基礎的な知識を修得した上で、う蝕や歯周病など様々な口腔疾患の予防法について学修する。さらに、自らの歯と口腔の健康を把握して、歯と口腔の健康づくりについて学ぶ。歯科衛生士として、人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎知識と方策について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔の構造・機能と口腔疾患の発生機序について理解する。</li> <li>2. う蝕・歯周病をはじめとする主要な口腔疾患の病因・病態を説明できる。</li> <li>3. ライフステージごとの口腔保健上の特徴を理解する。</li> </ol>									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	Ⅱ編1章 ①歯・口腔の健康と予防 グループディスカッション「口腔の健康と予防について」				事前学修：教科書P92～93を読んでおくこと。 事後学修：健康と予防についてまとめておくこと。				30	30
2	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 1) 歯				事前学修：教科書P93～95を読んでおくこと。 事後学修：歯の名称について復習すること。				30	30
3	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 2) 歯周組織～5) 顎関節				事前学修：教科書P95～96を読んでおくこと。 事後学修：歯周組織の名称と役割について復習すること。				30	30
4	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯・口腔の構造 6) 唾液腺				事前学修：教科書P96～99 を読んでおくこと。 事後学修：唾液腺について復習すること。				30	30
5	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 2. 歯・口腔の発生と成長・発育 1) 歯・口腔の発生～7) 歯・口腔の形成と栄養				事前学修：教科書P99～103を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。				30	30
6	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 まとめ				事前学修：シラバス1～5回までの復習をしておくこと。 事後学修：本日の復習をすること。				30	30
7	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 2. 歯・口腔の発生と成長・発育 8) 歯・口腔の形成異常				事前学修：教科書P104～105 を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。				30	30
8	Ⅱ編1章 ②歯・口腔の構造と機能 3. 歯・口腔の機能 4. 口腔の健康と全身の健康				事前学修：教科書P105～110を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。				30	30
9	Ⅱ編1章 ③歯・口腔の付着物・沈着物 1. ペリクル 2. プラーク 1) プラークの構成 2) プラークの形成機序 3) プラークの病原性				事前学修：教科書P110～115を読んでおくこと。 事後学修：プラークの形成機序について復習すること。				30	30
10	Ⅱ編1章 ③歯・口腔の付着物・沈着物 2. マテリアルバ 4. 歯石 5. 舌苔 6. 外来性色素沈着				事前学修：教科書P115～117を読んでおくこと。 事後学修：歯石について復習すること。				30	30
11	Ⅱ編1章 まとめ				事前学修：シラバス7～10回までの復習をしておくこと。 事後学修：本日の復習をすること。				30	30
12	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ①う蝕発生と進行のメカニズム ②う蝕の分類と症状 ③う蝕の発生要因				事前学修：教科書P140～149を読んでおくこと。 事後学修：う蝕の発生要因の3つを復習すること。				30	30
13	Ⅱ編4章 う蝕の予防 う蝕活動性試験				事前学修：教科書P149～151を読んでおくこと。 事後学修：検体・評価項目について復習すること。				30	30
14	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ④う蝕活動性試験 グループワーク				事前学修：前回の復習をしておくこと。 事後学修：試験結果について確認すること。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
15	Ⅱ編4章 う蝕の予防 ⑤う蝕の予防方法	事前学修：教科書P152～157を読んでおくこと。 事後学修：予防法の種類について復習すること。	30	30
16	Ⅱ編6章 歯周疾患の予防、7章 その他の疾患・異常の予防	事前学修：教科書P186～197を読んでおくこと。 事後学修：歯周疾患について復習すること。	30	30
17	Ⅱ編3章 口腔清掃	事前学修：教科書P198～211を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
18	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防1（わが国のフッ化物応用、フッ化物の一般性状よ用語、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準）	事前学修：教科書P158～161を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
19	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 ⑤フッ素の代謝	事前学修：教科書P161～163を読んでおくこと。 事後学修：フッ素の代謝について復習すること。	30	30
20	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 ⑥フッ化物の毒性	事前学修：教科書P163～168を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
21	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 グループワーク ⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法	事前学修：教科書168～180を読んでおくこと。 事後学修：本日のワークの内容をまとめること。	30	30
22	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法 4. フッ化物配合歯磨剤 5. 食品へのフッ化物添加 6. フッ化物サプリメント ⑧フッ化物のう蝕予防メカニズム	事前学修：教科書P181～185を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
23	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防 まとめ	事前学修：シラバス20～24回までの復習をしておくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
24	Ⅲ編2章 母子保健（法規、う蝕罹患型）	事前学修：教科書P250～279を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
25	Ⅲ編3章 学校保健（学校歯科保健、DMFT指数）	事前学修：教科書P264～279を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
26	Ⅱ編2章 歯科疾患の疫学（う蝕の疫学的特性、わが国のう蝕の有病状況）	事前学修：厚生労働省「歯科疾患実態調査」の該当事項を調べておくこと。 事後学修：データの見方を復習すること。	30	30
27	Ⅱ編2章 歯科疾患の疫学（歯周病の疫学的特性、わが国における歯周病の状況）	事前学修：厚生労働省「歯科疾患実態調査」の該当事項を調べておくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
28	Ⅲ編4章 成人保健、5章 産業保健 Ⅲ編6章 高齢者保健、7章 精神保健、8章 災害時の歯科保健、9章 国際保健	事前学修：教科書P280～300を読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をすること。	30	30
29	「う蝕」についてポスター制作	事前学修：シラバス12～28回目を復習して、「う蝕」に関わるテーマを決めておくこと。 事後学修：ポスター作成の下調べをしておくこと。	30	30
30	ポスター プレゼンテーション まとめ	事前学修：ポスターを完成させておくこと。	30	
<b>アクティブ・ラーニング</b>	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ プレゼンテーション、グループワーク ）			
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社			
<b>参考文献</b>	『歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社			
<b>備考</b>	・授業内課題は添削し返却する。 ・授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

大学において、歯科衛生士として10年以上、地域の歯科予防の業務に関わってきた経験から、口腔衛生について具体的な症例を示し授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-01				
	●			●						
科目名	歯科衛生士概論				単位 認定者	大宮 由布子		試験 (筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	10 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	歯科衛生士が保健・医療・福祉に関わることの意義を理解し、人々の健康を支援する専門職として倫理的な考え方と科学的な根拠をもって歯科衛生活動を展開するために必要な態度や知識、技術についての全体像を学ぶ。									
到達目標	①保健・医療・福祉に関わる意義を理解する。 ②歯科衛生士法に基づく業務内容を理解し、歯科衛生士に必要な知識、技術、態度を身につける。 ③医療従事者として倫理観に基づいた考えや態度を身につける。 ④専門職として生涯にわたり学修することの意義を理解する。									
学修者への期待等	歯科衛生士概論は、歯科衛生士になるための最初の一步となる科目です。この授業では、知識や技術だけでなく、歯科衛生士としての考え方や姿勢を学びます。これからの学校生活や、将来の臨床現場で活かすためにも一つひとつの授業を大切にしながら、歯科衛生士への道を歩んでいきましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	歯科臨床概論（歯科医療とは）				事前学修：歯科診療における人-歯科診療従事者の種類と役割について調べてくること。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
2	歯科疾患の概要／歯科診療の流れ				事前学修：前時の授業内容レジュメを復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
3	歯科衛生士 ～歯科衛生士の専門的役割とは～				事前学修：歯科衛生学概論 序章、1章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
4	歯科衛生士の歴史と現況				事前学修：歯科衛生学概論 2章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
5	歯科衛生と健康				事前学修：歯科衛生学概論 3章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
6	歯科衛生士法と関係する法規				事前学修：歯科衛生学概論 4章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
7	歯科衛生士と倫理 倫理と価値観 医の倫理と患者の権利				事前学修：歯科衛生学概論5章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
8	各症例で学ぶバイオエシックスに関わる問題				事前学修：歯科医療倫理付章P52～72 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動／その他歯科医療従事者に必要とされることを読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
9	歯科衛生士の倫理綱領 ～歯科衛生士の倫理綱領 条文の理解～				事前学修：前時の復習と歯科衛生学概論5章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	
10	歯科衛生士の倫理綱領 ～事例検討～				事前学修：前時の復習と事例で学ぶ歯科衛生士の倫理綱領に目を通しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	歯科衛生実践のための理論的根拠	事前学修：歯科衛生学概論 6章を読み授業に臨んでください。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
12	歯科衛生実践の展開 歯科衛生過程	事前学修：歯科衛生学概論 7章を読み授業に臨んでください。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
13	歯科衛生士の組織活動と国際活動	事前学修：歯科衛生学概論11章12章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮由布子 (シンユジエン)
14	歯科衛生士のキャリア形成 歯科衛生士の活躍の場（1） ～歯科診療所に勤務する歯科衛生士～	事前学修：歯科衛生学概論13章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮由布子 (岸田妃菜)
15	歯科衛生士のキャリア形成 歯科衛生士の活躍の場（2） ～一般企業に勤務する歯科衛生士～	事前学修：歯科衛生学概論13章を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮由布子 (佐藤結愛)
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループディスカッション）				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論』全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版株式会社 『事例で学ぶ 歯科衛生士の倫理綱領』日本歯科衛生教育学会編、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する				
<b>備考</b>	シラバス9・10回目 グループワーク レポート、課題等は添削後、授業内で総括します。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科診療所での勤務経験と歯科衛生士教育に携わってきた経験を活かし、歯科衛生士として倫理的考察および科学的根拠をもった活動を展開するために必要な態度や知識・技術の概要について授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●									
科目名	歯内療法学				単位認定者	荘司 佳奈子 武山 真奈美		評価の方法	試験 (筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間			
						授業回数	10 回			
授業の概要	歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄腔内、根尖周囲組織の疾病や傷害に対する診断、予防、治療に関する研究を行う臨床歯学の一分野である。本科目では、歯と歯髄の疾患の治療法、最新の機器、材料、薬剤の特徴や使用方法についてその基礎を学ぶ。さらに、歯内療法に関する診療補助の基礎知識を修得する。									
到達目標	1. 歯内疾患の分類とその原因、症状を説明できる 2. 歯内疾患における各種治療法の流れを説明できる 3. 歯内療法時に使用する器具・材料を説明できる 4. 麻酔抜髄法、根管治療、根管充填時の診療の手順および介助時の留意点を説明できる									
学修者への期待等	歯内療法の対象となる患者の訴えの多くは歯の痛みであり、それを理解することが重要である。そのため歯内疾患の症状や治療法の概要をしっかりと把握しておくことが大事である。また歯内療法には多くの治療用器具・材料が必要となり、その名称や形状の特徴を理解することがスムーズな診療補助に繋がるので、しっかりと講義を聴くこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	歯内療法の概要（歯の痛みに関する基礎知識と歯内疾患の分類について概要を学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第1章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
2	歯髄保存療法（歯髄鎮静療法、覆髄法、ラバーダム防湿法について学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第2章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
3	歯髄除去療法（生活歯髄切断法（生活断髄法）、直接抜髄法（麻酔抜髄法）について学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第3章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
4	根管治療・根管充填①（根管治療の概念、根管治療の術式について学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第4章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
5	根管治療・根管充填②（根管長測定、根管の拡大形成、根管の化学的清掃、根管消毒、仮封、根管充填について学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第4章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
6	外科的歯内療法（外科的歯内療法の種類・術式）について学ぶ）				事前学修：教科書Ⅲ編第5章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
7	歯の外傷（歯の外傷の分類と処置、脱離歯の保存法）、歯内療法における安全対策（歯内療法時の偶発事故、対処法と予防法）について学ぶ				事前学修：教科書Ⅲ編第6章及び第7章を読む 事後学修：講義プリントの復習		30	30	荘司佳奈子	
8	歯内療法時の歯科診療補助①【ペアワーク】 麻酔抜髄法の基礎知識・基礎演習				事前学修：『歯科診療補助論 第2版』I編5章②歯内療法時の診療補助P124～130、『歯科機器』4章⑧-歯内療法用機器を読むこと 事後学修：実習記録をまとめること		30	60	武山真奈美	
9	歯内療法時の歯科診療補助②【ペアワーク】 根管治療および根管充填の基礎知識・基礎演習 （ブローチ綿花作製・根管充填材の練和）				事前学修：『歯科診療補助論 第2版』I編5章②歯内療法時の診療補助P131～136を読むこと。また、シラバス8回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること		30	60	武山真奈美 西條 佳奈	
10	歯内療法時の歯科診療補助③【ペアワーク】 根管治療および根管充填時の器材取り扱い演習／ 歯内療法処置時における問診および患者説明と指導				事前学修：シラバス8、9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること		30	60	武山真奈美 西條 佳奈	

<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：演習、ペアワーク
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
<b>参考文献</b>	
<b>備考</b>	レポート課題を出す場合は、採点后、授業にて総括する。授業は対面または遠隔（オンデマンド）で実施する。8～10回は2クラスに分かれて実習室で講義・演習を行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

【庄司】 歯科医師としての臨床経験、大学における教育経験を十分に有しており、その実務経験を活かし、歯内療法処置に関して具体的な授業を展開する。

【武山】 歯科診療所での実務経験があり、臨床経験に基づき、歯内療法処置時の診療補助について基礎知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-03				
	●									
科目名	保存修復学				単位認定者	原田 美太巴 西條 佳奈		筆記試験	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の様々な修復法やその修復材料についての基礎知識を修得する。さらに、保存修復における歯科診療補助の基礎知識を修得する。									
到達目標	①保存修復治療の目的および概要について説明できる。 ②う蝕治療における診査・診断から、直接法修復および間接法修復に至るまでの治療の流れと、各段階で使用される器材について理解できる。 ③ベニア修復およびホワイトニングなど、その他の保存修復治療の概要について理解できる。 ④保存修復治療における歯科衛生士の役割を理解し、歯科診療補助業務を適切に実施できる。									
学修者への期待等	・事前に各回の授業計画を確認し、教科書等を熟読し予習を行ってから授業に臨んでください。 ・9・10回目は演習となります。身だしなみを整えて授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	保存修復学の意味と概要				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編1章①②③をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
2	診査診断と前準備				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅰ編2章、Ⅱ編1章⑤をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
3	う蝕の病態と窩洞形成				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編1章①②⑥をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
4	直接法修復①（コンポジットレジン修復）				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編2章①②をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
5	直接法修復②（グラスアイオノマー修復）				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編2章③をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：授業終了後は、教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
6	間接法修復①（メタルインレーおよびアンレー修復）				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編4章①②をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
7	間接法修復②（審美的間接修復）				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編4章②-3、4をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
8	ベニア修復とホワイトニング／合着材と接着材				事前学修：『保存修復学・歯内療法学』Ⅱ編3章、4章③④、をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：教科書と配布資料で復習すること。		30	30	原田 美太巴	
9	保存修復における歯科衛生士の役割（直接法修復における歯科診療補助について／コンポジットレジン修復マネキン演習①）				事前学修：シラバス3回目および4回目の内容について復習をして授業に臨むこと。 事後学修：配布した実習記録を用いて復習すること。		30	30	西條 佳奈	
10	保存修復における歯科衛生士の役割（コンポジットレジン修復マネキン演習②／直接法修復における患者指導について）								西條 佳奈	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（マネキン演習）									

教科書	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
参考文献	
備考	1～8回目については、教室にて合同授業を実施する。9・10回目についてはクラス別での演習とし、8階演習室を使用して連続で授業を行う。また9・10回目の実習記録は、授業終了後に回収し、添削後返却する。

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>	
原田英太巴：東北大学病院歯内療法科に所属し、日本歯科保存学会認定医として勤務している経験から保存修復学分野の基礎知識を指導する。	

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●				

科目名	歯科予防処置法				単位認定者	武山 真奈美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	10 %
						授業形態	演習		授業時間数	60 時間
				授業回数	30 回					

**授業の概要**  
口腔疾患を予防し、歯と口腔の健康を維持・増進させるためにう蝕と歯周病の原因を理解し、う蝕予防法と歯周病予防法の基本的な知識・技術および態度を修得する。また、健康像と病的変化を把握し、口腔観察の基本を学ぶ。その手技として各検査法、予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。

**到達目標**  
1. 歯科疾患（う蝕・歯周病）の原因と特徴を説明できる。  
2. 口腔内の情報収集を適確に行うために、器具の基本操作方法を理解し安全に施術できる。  
3. 予防的歯石除去法を安全に行うために、器具の特徴および取り扱い方法を理解し基本操作を実施できる。

**学修者への期待等**  
1. 身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。  
2. 欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	歯科予防処置の概要（予防の概念）	事前学修：教科書Ⅰ編1章①予防の概念、2章①歯科衛生士法における歯科予防処置・歯科保健指導の位置づけ、②歯科衛生実践の進め方を読むこと 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美
2	口腔内の付着物・沈着物／口腔の基礎知識／歯周病の基礎知識	事前学修：教科書Ⅱ編1章①口腔・口腔周囲の構造、②歯周組織、2章①口腔内の付着物・沈着物、③歯周病を読むこと 事後学修：実習記録をまとめること	30	60	武山 真奈美
3	口腔内の情報収集 基礎演習① エクスプローラーの把持法・基本操作	事前学修：教科書Ⅲ編2章⑥-2.検査項目 6) 歯面の付着物・沈着物P108～109、Ⅲ編3章①-1.1) スケーリング時の姿勢、2) スケーリング時のポジションP156～158、2.デンタルミラーの基本P161～163を読むこと。また、シラバス2回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
4	口腔内の情報収集 基礎演習② 歯周ポケット検査の基礎知識・基礎演習／ミラーテクニック	事前学修：教科書Ⅲ編2章⑥-2.検査項目 7) 歯周ポケットP112～117を読むこと。また、シラバス2、3回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
5	口腔内の情報収集 基礎演習③ エクスプローラー・歯周プローブの基本操作マネキン演習／術者・患者のポジション	事前学修：シラバス2～4回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
6	口腔内の情報収集 相互演習① 相互演習の手順・留意事項説明／患者1人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
7	口腔内の情報収集 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代	事前学修：シラバス2～5回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
8	口腔内の情報収集 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	スケーリングの基礎知識／基礎演習	事前学修：教科書Ⅲ編3章①-1.スケーリングの基本P156～161、4.1)シックルタイプスケーラーP165～167を読むこと 事後学修：実習記録をまとめること	30	60	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
10	シックルタイプスケーラーの基本操作 マネキン演習① 部位別操作(上下顎前歯部)	事前学修：教科書Ⅲ編3章①-4.手用スケーラーと操作法P171～172「下顎前歯部・上顎前歯部」を読むこと。また、シラバス9回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
11	シックルタイプスケーラーの基本操作 マネキン演習② 部位別操作(下顎臼歯部)	事前学修：教科書Ⅲ編3章①-4.手用スケーラーと操作法P173～174「下顎右側臼歯部・下顎左側臼歯部」を読むこと。また、シラバス9回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
12	シックルタイプスケーラーの基本操作 マネキン演習③ 部位別操作(上顎臼歯部)	事前学修：教科書Ⅲ編3章①-4.手用スケーラーと操作法P175～176「上顎右側臼歯部・上顎左側臼歯部」を読むこと。また、シラバス9回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
13	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習① 患者1人目 ※上下術者交代	事前学修：シラバス9～12回目までの内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
14	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
15	シックルタイプスケーラーの基本操作 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
16	歯面研磨(ポリッシング)の基礎知識／ 歯面研磨材の検討(基礎実験)	事前学修：教科書Ⅲ編3章②-1.歯面研磨(ポリッシング)P196～201についてを読み授業に臨むこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	60	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
17	歯面研磨(ポリッシング)、シックルタイプスケーラーの基本操作、歯周プローブの基本操作 マネキン演習	事前学修：シラバス3～16回目までの内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
18	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習① 患者1人目 ※上下術者交代	事前学修：シラバス3～17回目までの内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
19	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習② 患者2人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
20	口腔内の情報収集(プロービング) 相互演習③ 患者3人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
21	歯石除去 相互演習①(スケーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者1人目 ※上下術者交代	事前学修：シラバス3～20回目までの内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
22	歯石除去 相互演習②(スケーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者2人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
23	歯石除去 相互演習③(スケーリング、歯面研磨) 上下顎前歯部 患者3人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
24	歯石除去 相互演習④(スケーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者1人目 ※上下術者交代	事前学修：シラバス3～23回目までの内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
25	歯石除去 相互演習⑤(スケーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者2人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
26	歯石除去 相互演習⑥(スケーリング、歯面研磨) 上下顎臼歯部 患者3人目 ※上下術者交代		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
27	機械的スケーラーの基礎知識／マネキン演習【ペアワーク】	事前学修：教科書Ⅲ編3章①-2. 機械的スケーラーと操作法 P177～188を読み授業に臨むこと 事後学修：実習記録をまとめること	30	60	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
28	機械的スケーラー 相互演習① 相互演習の手順・留意事項説明 患者1人目	事前学修：シラバス27回目の内容を復習しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
29	機械的スケーラー 相互実習② 患者2人目		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
30	機械的スケーラー 相互実習③ 患者3人目 実習まとめ		30	30	武山 真奈美 三浦 悦子 宍戸 敦子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（基礎演習、実験、マネキン演習、相互演習、ペアワーク）				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
参考文献	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士講座 歯周病学 第5版』永末書店				
備考	1、2回は合同授業を教室で行う。3回は2クラスに分かれて教室で演習を行う。4～30回は2クラスに分かれて実習室で講義・演習を行う。6、7回、28、29回は連続で演習を行う。授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習（授業）記録課題については、添削後に返却しフィードバックを行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は歯科診療所での実務経験があり、臨床経験に基づき、う蝕および歯周病予防法についての基礎知識と基本的な技術を指導する。

科目ナンバリング
DH-2-DHP-06

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●									
科目名	保健指導論				単位認定者	佐藤 陽子		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験(実技)	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
						授業回数	15 回		授業内課題	10 %
授業の概要	歯科衛生士が行う歯科保健指導業務の専門性について理解し、正常な口腔とその機能について学ぶ。また、各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、そして、望ましい歯科保健行動について理解する。									
到達目標	①歯科保健指導の意義および目的を理解する。 ②個人を対象とした歯科保健指導を実践するための基礎知識と技術を修得する。									
学修者への期待等	事前に教科書を読んで内容を理解しておいてください。今後の歯科保健指導の基礎となるために必ず予習を行い、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
1	歯科保健指導の概要 健康の概念 (グループワーク)				事前学修：教科書P2～8 I 編総論1章予防の概念と我が国の健康施策について読み、健康に対する自分の考えをまとめておく。 事後学修：グループ発表の準備をする。		30	30	佐藤 陽子	
2	歯科保健指導の概念 健康の考え方 (グループ発表) 口腔の基礎知識				事前学修：前回の授業で指示されたレポートを作成し、発表できる準備をする。事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
3	う蝕の基礎知識 う蝕のメカニズム				事前学修：教科書P32～38を読み、専門用語の意味などを理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
4	歯周病の基礎知識 歯周病のメカニズム				事前学修：教科書P38～44を読み、専門用語を理解しておいてください。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
5	う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物について				事前学修：教科書P28～P32を必ず読み、専門用語の意味などを理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
6	歯科疾患の問題と原因の説明 (実技試験)				事前学修：前回の授業内容を理解し、口頭で説明できる準備をしておく。 事後学修：指示された資料を作成し、次回発表できる準備をする。		30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
7	歯科疾患の問題と原因の説明 資料作成				事前学修：前回の授業内容を理解し、口頭で説明できる準備をしておく。 事後学修：指示された資料を作成し、次回発表できる準備をする。		30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	
8	口腔の基礎知識 口腔の構造と働き				事前学修：教科書P16～27を必ず読み、専門用語の意味を理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
9	口腔の構造と働き (口腔内の観察)				事前学修：教科書P16～P27の専門用語および配布資料の内容を覚えること。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	
10	口腔清掃法 (歯ブラシの種類、構成、所要条件について)				事前学修：教科書P245～P251を読み、専門用語を理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。		30	30	佐藤 陽子	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
11	口腔清掃用具の検討 (各種歯ブラシの特徴)	事前学修：配布された各種歯ブラシの特徴をレポートにまとめる 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
12	口腔清掃方法の検討	事前学修：教科書P436～439を読み、手法について理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
13	各種口腔清掃方法の実際 (症例検討)	事前学修：シラバス10～12の内容を復習し、内容を理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
14	口腔清掃指数 (PCRスコアの算定方法)	事前学修：教科書P126～127の内容を理解する。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
15	口腔清掃指数 (PCRスコアの判定 自主観察)	事前学修：前回の内容を理解しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (グループワーク、発表)				
<b>教科書</b>	『歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス 実践ガイド』佐藤陽子、齋藤淳著、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する				
<b>備考</b>	シラバス1～5, 8, 10, 14回は教室で合同講義。シラバス6, 7回は2限続きクラス別8階演習室。9, 15回はクラス別8階演習室シラバス11～13回はクラス別7階演習室				

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>

学修成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
		●	●								
科目名	保健指導演習 I (臨床基礎)				単位認定者	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子		評価の方法	試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験(実技)	10 %	
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		授業内課題	10 %	
						授業回数	15 回		受講態度	10 %	
	授業の概要	歯科保健指導において、対象者の健康を保持・増進するために必要なセルフケア用口腔清掃用具の種類と使用目的について学ぶ。プラークコントロールを中心とした各種ブラッシング方法を理解し、演習を通して基礎的な歯科保健指導技術の修得を目指す。									
到達目標	1. 自身及び相互演習を通して、口腔内の状態を客観的に把握できる。 2. 各種口腔清掃用具・歯磨剤の特徴を理解し、適切に使用・説明できる。 3. 歯科衛生ケアプロセスの概念を理解し、基礎的な歯科保健指導を実践・振り返ることができる。										
学修者への期待等	1. 身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2. 欠席・欠課をしないよう意欲的に授業に取り組むこと。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	自分自身の口腔内観察・100%磨き			事前学修：『歯科予防処置論・歯科保健指導論』P252表III-4-7を参照し、自分の口腔内の、口腔清掃困難および清掃不良につながる口腔環境を考察し、授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子		
2	フロッシング演習			事前学修：『歯科予防処置論・歯科保健指導論』P251～デンタルフロスについて事前に読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子		
3	歯間ブラシ・タフトブラシ検討演習			事前学修：『歯科予防処置論・歯科保健指導論』P253～の歯間ブラシ、タフトブラシについて事前に読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子		
4	歯磨剤検討演習			事前学修：『歯科予防処置論・歯科保健指導論』P250表III-4-6を参照し、自分の普段使用している歯磨剤の成分を調べ、授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子		
5	PCR測定演習 相互演習(1)／患者1人目			事前学修：『歯科予防処置論・歯科保健指導論』P126～⑧分析のためのデータについて事前に読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		
6	PCR測定演習 相互演習(2)／患者2人目			事前学修：シラバス5回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		
7	PCR測定演習 相互演習(3)／患者3人目			事前学修：シラバス5回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		
8	各種口腔清掃用具による術者磨き 相互演習(1)／患者1人目			事前学修：シラバス1・2・3回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		
9	各種口腔清掃用具による術者磨き 相互演習(2)／患者2人目			事前学修：シラバス1・2・3回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		
10	各種口腔清掃用具による術者磨き 相互演習(3)／患者3人目			事前学修：シラバス1・2・3回目の演習記録および授業資料を読んで授業に臨むこと。(20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子 三浦 悦子		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	客観的臨床能力判断(実技試験)概要説明	事前学修：1年次に学習した内容を復習し臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
12	客観的臨床能力判断(実技試験)①	事前学修：1年次に学習した内容を復習し臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子
13	客観的臨床能力判断(実技試験)②	事前学修：1年次に学習した内容を復習し臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香 三浦 悦子
14	歯科衛生ケアプロセスの概念・概要①	事前学修：歯科衛生ケアプロセス実践ガイド PrologueおよびI編歯科衛生ケアプロセスの概要P6～P17を読んで授業に臨むこと。 (概ね20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出すること。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
15	歯科衛生ケアプロセスの概念・概要②	事前学修：歯科衛生ケアプロセス実践ガイド PrologueおよびI編歯科衛生ケアプロセスの概要P6～P17を読んで授業に臨むこと。 (概ね20分程度) 事後学修：授業記録をまとめて提出すること。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（基礎演習、検討演習、相互演習）				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤 陽子 齋藤淳編著 医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。				
<b>備考</b>	シラバス1～10・12・13回目は、8階歯科実習室(シラバス12・13回目は2コマ続き)／シラバス11・14・15回目は、合同講義(教室)				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
 担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かした授業を展開します。また、学生が歯科保健指導業務について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目名	歯科診療補助法（基礎知識）				単位 認定者	花瀨 静 西條 佳奈		評価の 方法	筆記試験	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数			
							授業回数		20 回	

**授業の概要**  
 歯科衛生士が行う歯科診療補助業務の法的な変化および業務の専門性について理解する。  
 また、歯科診療補助のみならず歯科衛生士の活動に関わる医療安全と感染予防の基礎知識を学び実践できる能力を身につける。さらに、歯科衛生士が取り扱う歯科材料、歯科機器の種類、目的、用途ならびに歯科理工学的特性について理解する。

- 到達目標**
- ① 歯科診療補助の目的および歯科衛生士の業務範囲について説明できる。
  - ② 歯科診療室の環境・設備（診療台周辺、器材配置、清潔・不潔区域）について説明できる。
  - ③ バキュームおよびスリーウェイシリンジを用いた基本的操作を適切に行うことができる。
  - ④ 歯科診療補助における基本的な共同動作を実施できる。
  - ⑤ 各種歯科材料を特性に配慮しながら適切に取り扱うことができる。
  - ⑥ 患者の立場に配慮した言葉遣い・態度で基本的な患者対応を行うことができる。
  - ⑦ 感染防止に留意し、安全な歯科診療補助を行おうとする姿勢を示すことができる。

**学修者への期待等**

- ・欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。
- ・各授業の前には授業計画を確認し、教科書などに目を通してから授業に臨んで欲しい。
- ・演習を行う際には身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	歯科診療補助の概念／歯科診療室の基礎知識	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』I編第1章歯科診療補助の概念および第3章①歯科診療室の基礎知識を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈
2	歯科材料・歯科機器の種類と特性	事前学修：『歯科材料』 vii 執筆の序、I編第1章歯科材料と歯科衛生士および2章歯科材料の基礎知識『歯科機器』 vii 執筆の序、第1章および第2章①歯科用ユニット、④滅菌・消毒用機器、第4章④歯および口腔検査用機器を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈
3	医療従事者としての身だしなみについて（グループワーク）／清潔・不潔の概念について	事前学修：医療従事者としての身だしなみが重要視される理由は何かを考察してくる。清潔・不潔の概念について調べてくること。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈
4	歯科診療所における患者対応の基本／共同動作 基礎演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』I編第4章①共同動作を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
5	バキューム・スリーウェイシリンジテクニック マネキン演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』I編第4章①-6. バキュームテクニック、7. スリーウェイシリンジテクニックを読み授業に臨むこと。また、シラバス第4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』 I編第3章②-歯科診療所における受診 の流れ、第4章③-6. パキュームテ クニック、7. スリーウェイシリンジテ クニックを読み授業に臨むこと。また、 シラバス第4・5回の授業資料および実 習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
7	共同動作（患者誘導～口腔内洗浄） 相互演習（2） （術者2人目、3人目／演習まとめ）				
8	合着材の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』II編第4章① はじめに、②合着材の種類と用途、 『歯科診療補助論 第2版』I編7章③ 合着・接着の補助を読み授業に臨むこ と。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
9	合着・接着の補助（各種合着材練和演習）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』 I編第7章③合着・接着の補助を読み 授業に臨むこと。また、シラバス第8 回の授業資料および実習記録を確認し ておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
10	各種印象材の基礎知識	事前学修：『歯科材料』II編第2章印 象材を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静
11	アルジネート印象材の基礎知識／練和演習	事前学修：『歯科材料』II編第2章③- 1. アルジネート印象材、『歯科診療 補助論 第2版』I編第7章①-2. アル ジネート印象材による概形印象採得を 読み授業に臨むこと。また、シラバス 第10回の授業資料および実習記録を 確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
12	アルジネート印象材による概形印象採得 マネキン演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』 I編第7章①-2. アルジネート印象材 による概形印象採得を読み授業に臨む こと。また、シラバス第11回の授業 資料および実習記録を確認しておくこ と。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
13	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』 I編第7章①-2. アルジネート印象材 の概形印象採得を読み授業に臨むこ と。また、シラバス第11・12回の 授業資料および実習記録を確認して おくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
14	アルジネート印象材による概形印象採得 相互演習（2） （術者2人目、術者3人目／演習まとめ）				
15	暫間修復材の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』II編第7章暫 間修復材と仮着用セメントを読み授 業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静
16	口腔内写真撮影の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2 版』I編第3章⑤-2. 口腔内写真撮影、 『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』III編第2章⑧-2. 写真・画像 を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
17	暫間修復物(既製冠/印象法)作製演習 /口腔内写真撮影(5枚法)相互演習(1) (演習手順説明/術者1人目)	事前学修:『歯科材料』Ⅱ編第7章暫 間修復材と仮着用セメント、『歯科診 療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口 腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯 科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧- 2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 また、シラバス15・16回の授業資料お よび実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
18	暫間修復物(既製冠/印象法)作製演習 /口腔内写真撮影(5枚法)相互演習(2) (術者2人目)	事前学修:『歯科材料』Ⅱ編第7章暫 間修復材と仮着用セメント、『歯科診 療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口 腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯 科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧- 2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 また、シラバス15・16回の授業資料お よび実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
19	暫間修復物(既製冠/印象法)作製演習 /口腔内写真撮影(5枚法)相互演習(3) (術者3人目)	事前学修:『歯科材料』Ⅱ編第7章暫 間修復材と仮着用セメント、『歯科診 療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口 腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯 科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧- 2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 また、シラバス15~18回の授業資料 および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
20	暫間修復物(既製冠/印象法)作製演習 /口腔内写真撮影(5枚法)相互演習(4) (演習まとめ)	事前学修:『歯科材料』Ⅱ編第7章暫 間修復材と仮着用セメント、『歯科診 療補助論 第2版』Ⅰ編第3章⑤-2.口 腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯 科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧- 2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 また、シラバス15~18回の授業資料 および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花渕 静 西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり:キーワード(グループワーク、基礎演習、練和演習、作製演習、マネキン演習、相互演習)				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
備考	1・2・10回目は教室で合同授業を行う。3~7回、11~20回目は8階実習室、9回目は新演習室にてクラス別に 講義・演習を行う。6・7回、13・14回、17・18回、19・20回目は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況に より授業計画の順番が前後することがある。 授業内で配布する実習記録については、授業終了後回収し添削後返却する。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と、歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かして学生が歯科診療業務について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）				単位 認定者	花 静 西 條 佳 奈		評価の方法	筆記試験	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		40 時間	
				授業回数			20 回			

**授業の概要** 「歯科診療補助法（基礎知識）」で学んだ標準予防策（スタンダードプレコーション）の実践方法を修得し、歯科診療で取り扱うさまざまな歯科材料、歯科機器の基礎知識、取り扱い上の留意点を理解した上での基礎演習、マネキン演習、相互演習の3段階を経て基本技術を修得する。

- 到達目標**
- ① 歯科診療補助演習において必要となる器材・器具の名称および用途を説明できる。
  - ② 標準予防策（スタンダード・プレコーション）を理解し、適切な感染対策行動を取ることができる。
  - ③ 術者の動きを予測し、指示に基づいた基本的な共同動作を実施できる。
  - ④ 各種歯科材料を特性に配慮しながら、指示に従って適切に取り扱うことができる。
  - ⑤ 患者への配慮を意識し、適切な言葉遣いと態度で対応することができる。
  - ⑥ 医療従事者としての身だしなみや安全配慮を意識し演習に主体的に取り組む姿勢を示すことができる。

**学修者への期待等**

- ・欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。
- ・各授業の前には授業計画を確認し、教科書などに目を通してから授業に臨んで欲しい。
- ・演習を行う際には身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	模型用材料の基礎知識／各種石膏検討演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章2-模型の作製を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
2	歯科用石膏の取り扱い 基礎演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章2-模型の作製を読み授業に臨むこと。また、シラバス第1回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
3	歯科用石膏の取り扱い 基礎演習（2） （術者2人目／演習まとめ）				
4	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章1-2. アルジネート印象材の概形印象採得、2-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。また、シラバス第1～3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
5	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（2） （術者2人目）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章1-2. アルジネート印象材の概形印象採得、2-模型の作製、『歯科材料』Ⅱ編第3章模型用材料を読み授業に臨むこと。また、シラバス第1～4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
6	アルジネート印象材による概形印象採得 石膏模型作製 相互演習（3） （術者3人目／演習まとめ）				
7	歯科用ワックスの基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第8章ワックスを読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	咬合採得法の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第8章ワックスを読み授業に臨むこと。また、シラバス第7回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
9	仮封材の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
10	各種仮封材の取り扱い マネキン演習 (水硬性仮封材／レジン系仮封材／テンポラリーストッピング)	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第9回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
11	各種仮封材の取り扱い マネキン演習 (セメント系仮封材)	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第6章仮封材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章⑤仮封・仮着の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第9・10回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
12	寒天印象材の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第2章3-2.寒天印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
13	寒天・アルジネート連合印象採得 マネキン演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第2章3-2.寒天印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第12回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
14	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習 (1) (演習手順説明／術者1人目)	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第12・13回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
15	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習 (2) (術者2人目)	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-3.寒天印象採得の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第12～14回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
16	寒天・アルジネート連合印象採得 相互演習 (3) (術者3人目／演習まとめ)	事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			
17	シリコーンゴム印象材の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第2章3-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 三浦 悦子 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
18	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 マネキン演習	事前学修：『歯科材料』Ⅱ編第2章3-3.シリコーンゴム印象材、『歯科診療補助論第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第17回の授業資料および実習記録を確認事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀧 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
19	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 相互演習(1) (演習手順説明/術者1人目)	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-4.合成ゴム質印象の補助を読み授業に臨むこと。また、シラバス第17・18回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀧 静 三浦 悦子 宍戸 敦子
20	シリコーンゴム印象材による精密印象採得 相互演習(2) (術者2人目、3人目/演習まとめ)				
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(基礎演習、検討演習、マネキン演習、相互演習)				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	授業の中で適宜紹介する。				
<b>備考</b>	すべてクラス別での演習とし、8階実習室を使用する。2・3回、5・6回、15・16回、19・20回は連続しての演習となる。なお、授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。授業内で配布する実習記録については、授業終了後回収し添削後返却する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と、歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かして学生が歯科診療業務について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●			

科目名	感染予防法				単位認定者	花 潤 静		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			

**授業の概要**  
 歯科医療行為の多くは外科的な治療と位置づけられ、歯科医療従事者の感染リスクは低い。加えて医療の高度化に伴う易感染性宿主の増加や進行ないし再興感染症の拡大等から、歯科医療の現場でも十分な感染予防対策をとる必要に迫られている。感染が起こる原因の理解と感染予防対策の具体的方法について学び、臨床の場で実践できる能力を修得する。

**到達目標**  
 ①医療における感染予防の基本的な考え方（標準予防策・手指衛生・防護具の使用など）を理解できる。  
 ②感染予防の重要性を理解し、日常の歯科臨床や実習で自主的に実践する態度を身につける

**学修者への期待等**  
 この授業では、歯科現場での感染予防がなぜ大切かを理解し、日常の診療や実習でしっかり実践できることを期待します。手洗いや手袋・マスクの使い方、器具の消毒・滅菌などを正しく行い、自分だけでなく周りの人の安全にも気を配りながら学ぶ姿勢を大切にしてください。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	感染予防対策の基本的事項	事前学修：Ⅰ患者主体の感染予防対策・Ⅱ感染予防対策の基本（教科書P2～17）を読み授業に臨んでください。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	花 潤 静
2	歯科医療における滅菌・消毒・洗浄	事前学修：Ⅲ歯科医療における滅菌・消毒・洗浄（教科書P18～P37）を読み授業に臨んでください。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花 潤 静
3	歯科医院における感染予防対策	事前学修：Ⅳ歯科医院における感染予防対策（教科書P38～P50）を読み授業に臨んでください。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花 潤 静
4	歯科医院における感染予防対策の実際／感染性廃棄物の取り扱い	事前学修：Ⅴ①②歯科医院における感染予防対策の実際（教科書P52～P82）、Ⅴ④感染性廃棄物の分別・保管・運搬処理（教科書P105～107）授業に臨んでください。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花 潤 静
5	手指衛生、個人防護具（PPE）	事前学修：シラバス4回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花 潤 静 西 條 佳 奈
6	手指衛生の実践 個人防護具（PPE）着脱演習	事前学修：シラバス4回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	90	花 潤 静 西 條 佳 奈
7	歯科医療従事者の健康管理	事前学修：教科書P108 表1 医療従事者の免疫を参照し自分のワクチン接種状況を調べておいてください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花 潤 静

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	歯科医療従事者のリスクマネジメント	事前学修：VI歯科医療従事者の感染予防対策（教科書P108～121）を読み授業に臨んでください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花淵 静
9	医療安全	事前学修：歯科診療補助論教科書「I編 2章 医療安全と感染予防」を読み授業に臨んでください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	60	90	花淵 静
10	歯科医療におけるKYT訓練 グループワーク	事前学修：各回の資料をもとに基礎内容を整理し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30	花淵 静
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（演習）				
<b>教科書</b>	『歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト』 ICHG研究会編、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	1・2・3・4・7・8・9回は、2クラス合同講義 5・6回は連続で2クラスに分かれて8階実習室で授業を行う。10回は2クラスに分かれて7階歯科演習室で授業を行う。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床経験は5年以上、歯科診療の現場で感染予防に取り組み、歯科医療に従事してきました。授業では、実際の歯科現場で役立つ感染予防の知識や手技をわかりやすくお伝えし、学生の皆さんが安全に学べるようサポートしていきます。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-01			
	●	●	●						
科目名	臨地実習 I (臨床基礎)				単位認定者	伊藤 恵美 佐藤 陽子 大宮 由布子 花淵 静 武山 真奈美 西條 佳奈 伊藤 明日香		実施内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	%
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間
							授業回数		集中
授業の概要	本科目は、医療機関で行う臨床実習と、教育機関で行う臨地実習からなる。前期に行う医療機関での見学実習では、歯科診療の業務内容、及び歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての心構えを身につける。後期に行う臨床実習では、学内で既修の知識、技術、態度を具体的、かつ、実際に理解し、歯科衛生士としての役割を把握する。また、教育機関で行う臨地実習を通して、ライフステージに合わせた歯科保健指導について学ぶ。歯科衛生士として基本的な知識、技能及び態度を身につけ、今後の学修目標を明確にする。								
到達目標	①歯科医療の現場を知り、歯科衛生士の役割を理解できる。 ②医療に携わる自覚を持ち、適切な身だしなみ、挨拶、言葉遣いができる。 ③実習を通して気づいたことや学びを振り返り、								
学修者への期待等	歯科医療の現場を知り、歯科衛生士の役割や社会人・医療人としての基本的マナー（挨拶、返事、言葉遣い、身だしなみ）を身につけること。また、実習を通して気づいたことや学んだことを振り返り、歯科衛生士としての将来像をイメージして欲しいです。								
授業計画						準備学修		事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1. 実習期間 1) 歯科診療所見学実習：6月（2日間） 2) 歯科診療所臨床実習：1月～2月（20日間） 2. 実習の目標 医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。 1) 歯科診療所見学実習 (1) 歯科診療所における歯科診療の流れを理解する。 (2) 歯科診療所における歯科衛生士の仕事内容を理解する。 2) 歯科診療所臨床実習 (1) 歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助の方法を理解する。 (2) 歯科衛生士が歯科診療所で行う歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導の内容を理解する。 (3) 1年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実施することにより自己の学修成果を確認する。 3) 集団歯科保健指導実習（小学校） 小学校における健康教育を実施するにあたり、歯科保健指導の具体的な方法を学ぶ。 (1) 対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。 (2) 指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。 (3) 対象学年の児童に対してわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。 (4) 歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。 3. 実習計画 1) 歯科診療所見学実習 実習項目) ・診療室内の環境整備 ・患者誘導 ・各症例の見学（患者来院～治療終了後まで）						事前学修：臨地実習指導の内容、事前準備の確認をして臨むこと。 事後学修：実習の振り返りと自身の課題について取り組むこと。		60	60

授業計画		準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
2) 歯科診療所臨床実習 実習項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療室内の環境整備</li> <li>・患者誘導</li> <li>・使用器具・器材・材料の準備・後片付け</li> <li>・診療介助（バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し）</li> <li>・各種検査記録（歯式、歯周検査、O'Leary）</li> <li>・印象採得介助（印象材練和）</li> <li>・各種セメントの取り扱い 3) 集団歯科保健指導実習（小学校）</li> </ul>		60	60
実習項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団歯科保健指導における各学年に合わせた歯科保健指導案の作成</li> <li>・各学年に合わせた歯科保健指導の実施 3) 集団歯科保健指導実習（小学校）</li> </ul>			
実習項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団歯科保健指導における各学年に合わせた歯科保健指導案の作成</li> <li>・各学年に合わせた歯科保健指導の実施</li> </ul>			
<b>教科書</b>	1年次で専門展開科目で使用する各教科書			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。			
<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>				

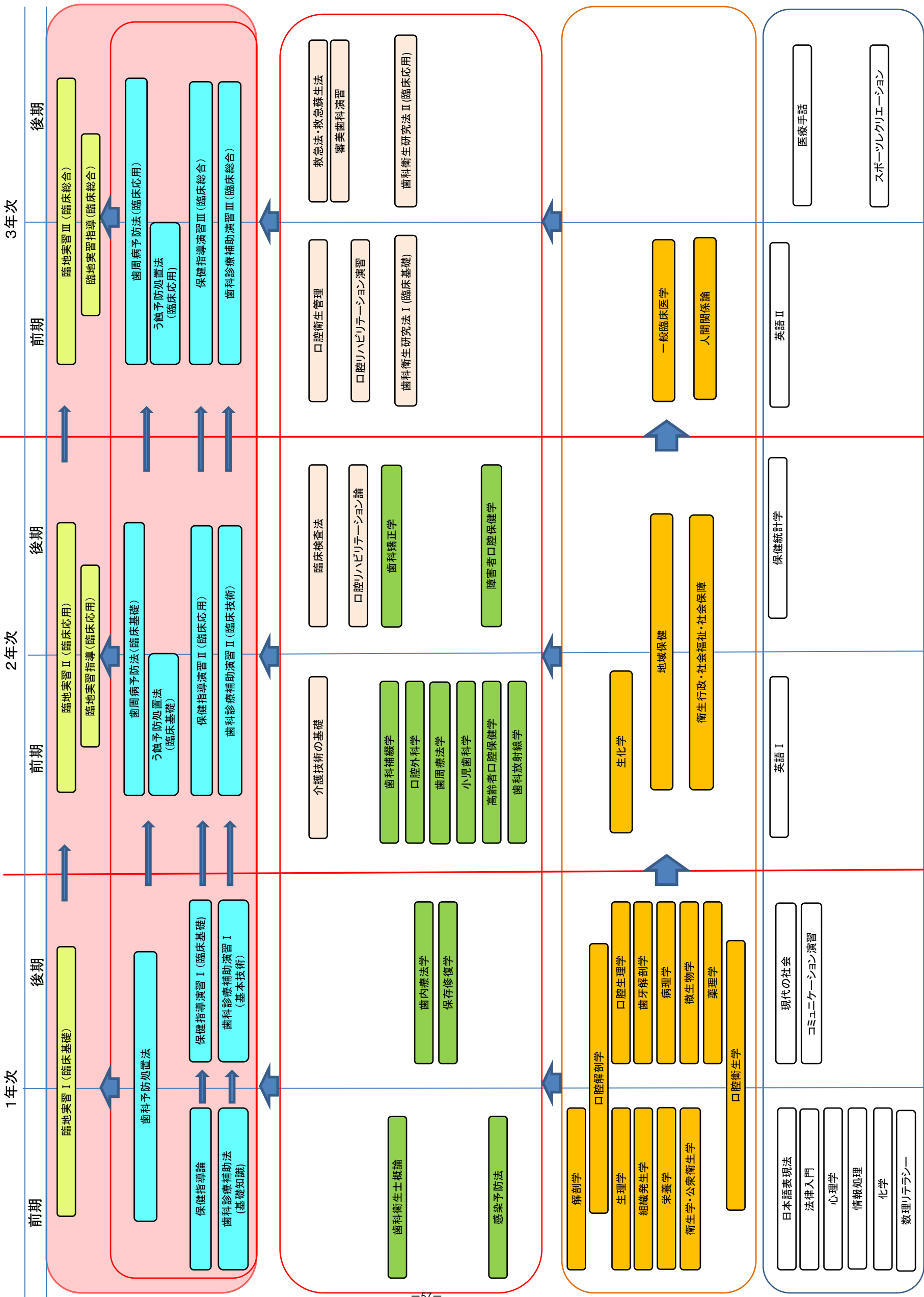
# 歯科衛生学科 2年生

(2025年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

# 2026年度歯科衛生学科2年生 カリキュラムツリー

- 教養教育分野
- 専門支持科目
- 専門展開科目(講義)
- 専門展開科目(演習)
- 実習



2026年度歯科衛生学科2年 カリキュラムマップ

学修成果 (到達目標)

- 【基礎力】**：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
  - ②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
  - ③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。
- 【実践力】**：各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
  - ②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけて実践できる。
  - ③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。
- 【人間関係力】**：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
  - ②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
  - ③他者との関わりの中で、自らの課題を見つめる客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。
- 【生涯学習力】**：生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
  - ②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
  - ③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】**：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
  - ②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果： 1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力  
 学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。  
 ●は、各授業科目が学修成果の1~5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次															単位数									
			1年					2年					3年					必	選								
			前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前			後	1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																		1			
		英語Ⅰ	15							○		●													1		
		英語Ⅱ	10															○		●					1		
		医療手話	10															○		●	●				1		
	人間と社会	法律入門	8	○		●																			1		
		現代の社会	8		○	●																			1		
		コミュニケーション演習	10		○	●	●	●																	1		
	人間と科学	心理学	10	○		●	●																			1	
		教理リテラシー	8	○		●																				1	
		保健統計学	8							○	●															1	
		情報処理	15	○		●																				1	
		化学	10	○		●																				1	
専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																			2		
		生理学	15	○		●																			1		
		組織発生学	10	○		●																			1		
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20	○		●																			2		
		口腔生理学	15		○	●																			2		
		歯牙解剖学	10		○	●																			1		
	疾病の成り立ちと回復	病理学	15		○	●																				1	
		微生物学	15		○	●																				1	
		薬理学	15		○	●																				1	
		栄養学	10	○		●																				1	
		生化学	10		○	●				○	●															1	
	健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	一般臨床医学	10															○		●						1	
		衛生学・公衆衛生学	15	○		●																				1	
		口腔衛生学	30		○	●																				2	
		地域保健	15							○	●															2	
		衛生行政・社会福祉・社会保障	15							○	●															2	
	専門教育分野	歯科衛生士概論	人間関係論	10														○		●		●				1	
			歯科衛生士概論	15	○		●		●																	2	
		臨床歯科医学	菌内療法学	10		○	●																				1
			保存修復学	10		○	●																				1
歯周療法学			15							○	●															1	
歯科補綴学			15							○	●															1	
口腔外科学			15							○	●															1	
歯科矯正学			15							○	●															1	
小児歯科学			15							○	●															1	
高齢者口腔保健学			10							○	●															1	
障害者口腔保健学			10							○	●															1	
歯科放射線学			10							○	●															1	
口腔衛生管理		10																○		●					1		
歯科予防処置論		歯科予防処置法	30		○	●																				2	
		う蝕予防処置法(臨床基礎)	10							○	●	●														1	
		歯周病予防法(臨床基礎)	30							○	●	●														2	
		う蝕予防処置法(臨床応用)	10																○		●					1	
		歯周病予防法(臨床応用)	20																○		●					2	
歯科保健指導論		保健指導論	15	○		●																				1	
		保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	15		○	●	●																			1	
	保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	30							○	●	●														2		
	保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	30																○		●	●				2		
	口腔リハビリテーション論	10								○	●														1		
歯科診療補助論	口腔リハビリテーション演習	10								○	●														1		
	歯科診療補助法(基礎知識)	20	○		●																				2		
	歯科診療補助演習Ⅰ(基本技術)	20		○	●	●																			2		
	歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	30							○	●	●														2		
	歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	20																○		●	●				2		
	感染予防法	10	○		●	●																			1		
	臨床検査法	10							○	●	●														1		
	救急法・救急蘇生法	15																○		●	●				1		
	介護技術の基礎	15								○	●	●													1		
	審美歯科演習	10																○		●	●				1		
実習	臨地実習Ⅰ(臨床基礎)	集中	○		●	●	●																		4		
	臨地実習Ⅱ(臨床応用)	集中						○		●	●	●	●												8		
	臨地実習指導(臨床応用)	15							○	●	●	●													1		
	臨地実習Ⅲ(臨床総合)	集中																							8		
	臨地実習指導(臨床総合)	15																○		●	●	●			1		
特別科目	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床基礎)	15																○		●					1		
	歯科衛生研究法Ⅱ(臨床応用)	15																○		●					1		

総計(卒業要件100単位以上)

93 9

## 2026年度 歯科衛生学科2年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2	オリエンテーション	
	5	6	校内模擬試験	7	8	健康診断	9	10	
	12	13		14	15		16	17	
	19	20		21	スポーツ大会	22	23	24	
	26	27		28		29	昭和の日	30	
5月	3	4	憲法記念日	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	
	10	11		12	13	14	15	合同交流会	
	17	18		19	20	21	22	23	
	24	25		26	相互台小学校実習	27	28	29	
	31	1	2	3	4	5	6		
6月	7	8		9	相互台小学校実習	10	11	通町小学校実習	
	14	15		16	17	18	19	歯科医院実習	
	21	22	歯科医院実習	23	歯科医院実習	24	歯科医院実習	25	歯科医院実習
	28	29	歯科医院実習	30	歯科医院実習	1	歯科医院実習	2	歯科医院実習
7月	5	6	歯科医院実習	7	歯科医院実習	8	歯科医院実習	9	実習予備日
	12	13	実習報告会	14	15	16	17	18	
	19	20	海の日	21	22	23	24	25	
	26	27		28	29	30	31	1	
8月	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	山の日	12	13	14	15	
	16	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験
	23	24	夏休み/臨地実習	25	夏休み/臨地実習	26	夏休み/臨地実習	27	夏休み/臨地実習
	30	31	夏休み/臨地実習	1	夏休み/臨地実習	2	不合格者発表	3	夏休み/臨地実習
9月	6	7	再試験	8	再試験	9	再試験	10	夏休み/臨地実習
	13	14	夏休み/臨地実習	15	再試験結果発表/臨地実習	16	夏休み/臨地実習	17	夏休み/臨地実習
	20	21	敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	夏休み/臨地実習
	27	28	実習報告会	29	30				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 歯科衛生学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2 学年交流会	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31 せいよう祭	
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6 大学病院実習 歯科医院実習	7	
	8	9 大学病院実習 歯科医院実習	10 大学病院実習 歯科医院実習	11 大学病院実習 歯科医院実習	12 大学病院実習 歯科医院実習	13 大学病院実習 歯科医院実習	14	
	15	16 大学病院実習 歯科医院実習	17 大学病院実習 歯科医院実習	18 大学病院実習 歯科医院実習	19 大学病院実習 歯科医院実習	20 大学病院実習 歯科医院実習	21	
	22	23 勤労感謝の日	24 大学病院実習 歯科医院実習	25 大学病院実習 歯科医院実習	26 大学病院実習 歯科医院実習	27 大学病院実習 歯科医院実習	28	
	29	30 大学病院実習 歯科医院実習	1 実習報告会	2 歯科医院実習 大学病院実習	3 歯科医院実習 大学病院実習	4 歯科医院実習 大学病院実習	5	
12月	6	7 歯科医院実習 大学病院実習	8 歯科医院実習 大学病院実習	9 歯科医院実習 大学病院実習	10 歯科医院実習 大学病院実習	11 歯科医院実習 大学病院実習	12	
	13	14 歯科医院実習 大学病院実習	15 歯科医院実習 大学病院実習	16 歯科医院実習 大学病院実習	17 歯科医院実習 大学病院実習	18 歯科医院実習 大学病院実習	19	
	20	21 歯科医院実習 大学病院実習	22 歯科医院実習 大学病院実習	23 歯科医院実習 大学病院実習	24 実習報告会 /HR	25 冬休み	26	
	27	28 冬休み	29 冬休み	30 冬休み	31 冬休み	1 冬休み	2	
1月	3	4 冬休み	5 冬休み	6	7	8	9	
	10	11 成人の日	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31	1	2	3	4	5	6	
2月	7	8	9	10	11 建国記念日	12	13	
	14	15	16 定期試験	17 定期試験	18 定期試験	19 模擬試験	20	
	21	22 追試験	23 天皇誕生日	24 春休み	25 春休み	26 春休み	27	
	28	1 不合格者発表	2 春休み	3 春休み	4 再試験	5 再試験	6	
3月	7	8 春休み	9 春休み	10 再試験結果発表 /春休み	11 春休み	12 春休み	13	
	14	15 春休み	16 春休み	17 春休み	18 春休み	19 春休み	20	
	21	22 春分の日	23 春休み	24 春休み	25 春休み	26 春休み	27	
	28	29 春休み	30 春休み	31 春休み				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位 認定者	菊地 リアナコリナ		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。									
到達目標	学生は当該専門職として必要となる基礎的な英会話と一般的なトピックについて英会話ができるようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。（辞書がない学生は英和辞書のアプリをダウンロードしておくこと。）授業では音読を始め、ペアワークで英語を話す時間を設けるが大きな声で発音するようお願いしたい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	1:初診患者対応のための会話練習、解説/Getting Acquainted-会話練習/Getting Acquainted-会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
2	2:問診票記入について患者に説明するための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
3	3:アポイントメントの取り方のための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
4	4:様々な治療について説明するための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
5	5:患者の既往歴について尋ねるための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
6	6:患者の症状を尋ねるための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
7	7:患者にどのような治療、処置を行うかを説明するための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
8	8:患者に対してすべきこと、してはいけないことをアドバイスするための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
9	9:患者への歯ブラシ指導のための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
10	10:患者からの質問対応や質問を患者に行うための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
11	既習箇所の復習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
12	11:抜歯する患者へアドバイスするための会話練習、解説				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
13	12.患者に薬について説明し、薬局への指示を与えるための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	
14	13.支払先、治療費、歯科用製品の価格の説明のための会話練習				事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題			30	30	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
15	14. 歯科衛生士の仕事に必要なもの、歯科衛生士の典型的な一日についての会話練習 / 試験について	事前学修：授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理し、単語などの意味を調べておくこと 事後学修：会話の復習やその他指定された課題	30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク）			
教科書	『2週間で英語耳 歯科衛生士のためのListening Skills CD付』C. S. Langham・田嶋倫雄著、医歯薬出版株式会社			
参考文献				
備考	各ユニットごとに重要な表現が出てくるのでその都度暗記をし、ペアワーク、グループワークで確認し合う。授業の進行状況によってシラバスを変更することもある。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科クリニックで受付と助手としての4年以上の実務経験と英語の知識を活かして、学生一人一人が外国人患者への対応に欠かせない英語表現などを身につけられるのとそれを実際に使うチャンスがあるようなインタラクティブな授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSC-03				
	●									
科目名	保健統計学				単位 認定者	伊藤 恵美 小野寺 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	授業内課題 (小テスト等)
							授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	1. 保健統計の種類と意義を学修し、わが国の保健統計の変遷及び現状等について理解を深める。 2. 医療の現場で得られる様々なデータを視覚的、数的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を理解する。									
学修者への 期待等	医療の現場における口腔の状況を数量化し、疾病や口腔状態を数量化や指数により数字に置き換えて現状把握や評価できることを期待しています。興味を持って学修してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	保健情報と保健統計、国家統計調査、保健情報と疫学				事前学修：教本P1～35を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	小野寺 健	
2	保健情報の分析手順（保健情報の収集、調査、母集団と標本抽出）				事前学修：教本P73～88を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	小野寺 健	
3	保健統計の方法（データの特性、記述統計、推定と信頼区間、保健情報の多変量解析）				事前学修：教本P89～113を読んで授業に臨むこと。 事後学修：次回授業時、保健統計に関する小テストを行う予定。		30	30	小野寺 健	
4	保健情報の分析演習（解析と検定の演習） 小テスト				事前学修：教本P114～136ページを読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	小野寺 健	
5	歯科疾患の指数①数量化と指数②う蝕の指数 計算演習				事前学修：教本P36～44を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	伊藤 恵美	
6	歯科疾患の指数③歯周疾患の指数 計算演習 グループワーク				事前学修：教本P45～54を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	伊藤 恵美	
7	歯科疾患の指数④口腔清掃状態の指数 計算演習				事前学修：教本P54～60を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	伊藤 恵美	
8	歯科疾患の指数⑤不正咬合と歯列不正の指数、⑥歯のフッ素症指数、⑦その他の歯科保健指数 計算演習				事前学修：教本P60～71を読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の復習を行うこと。		30	30	伊藤 恵美	
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 演習、グループワーク ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	なし									
備考	小テスト課題は回収後、採点し、次回総括する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-11				
	●									
科目名	生化学				単位認定者	阿部 昌子		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	10 %
							授業時間数		20 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	生命現象を、生体構成成分や栄養素が体内で変化する様子やエネルギーが作られる過程、すなわち、化学反応として捉え、これらを生化学的に理解する。また、口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク（歯垢）の構成成分やそこで生じる疾患（う蝕や歯周病）について生化学的な側面から学ぶ。									
到達目標	生命現象を生化学的に理解する。また、栄養素と直接関係する口腔疾患について生化学的な側面から学ぶ。									
学修者への期待等	教科書、ノート、配布プリントなどで復習を行い、授業内容を十分理解することを期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	「一般生化学」 人体の構成要素				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
2	糖質と脂質の代謝				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
3	タンパク質とアミノ酸の代謝 遺伝子とタンパク質合成				事後学修：次回、1～3回目の講義で学んだ内容について小テストをする予定。教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	180
4	「口腔生化学」 歯と歯周組織の生化学1（歯と歯周組織、結合組織）				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
5	歯と歯周組織の生化学2（歯の組成、歯の無機成分、歯の有機成分）				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
6	硬組織の生化学				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
7	唾液の生化学				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
8	プラークの生化学1（プラークとバイオフィルム）				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
9	プラークの生化学2（プラークによるう蝕発症機構）				事後学修：教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	120
10	プラークの生化学3（プラークによる歯周疾患発症機構）				事後学修：10回の講義で学んだ内容を、教科書、ノート、配布プリントなどで復習すること				0	360
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学』 全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	なし									
備考	小テストを採点后、授業内で総括する。講義の進行具合によっては、シラバスの授業計画の順番は前後する事もある。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は生化学・口腔生化学分野で30年の実務経験と歯科医師資格を有しており、その経験を生かした実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-1-DHB-15

科目名	地域保健				単位認定者	大森俊也 石河理紗		評価の方法	試験 (筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		授業内課題 (小テスト等)	10 %
						授業回数	15 回			

**授業の概要**  
人々の健康に関わる地域の役割を学び、地域保健を担う組織の仕組みと特徴を理解する。また、集団を対象とした疾病予防と健康増進に関わる地域保健活動において歯科衛生士の役割を理解する。保健統計では、歯科臨床や保健情報のデータから、統計学的な解析を行う方法を身につける。

**到達目標**  
・地域の人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について理解する。  
・一人ひとりの生活行動が身近な地域福祉活動に結びつくものであること、また、一人ひとりが社会資源として地域福祉のネットワークに参画する必要性について理解する。  
・保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。本科目では、保健統計の種類と意義を学修し、わが国の保健統計の変遷及び現状等について理解を深める。さらに医療の現場で得られる様々なデータは、そのままでは理解することが難しい場合も多い。そうしたデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を理解する。

**学修者への期待等**  
地域福祉について、口腔の健康に及ぼす要因も含めて理解する。基本的な統計学的手法について理解する。授業終了後に重要項目をまとめた小テストを実施するので、その内容については次回までに復習することが望ましい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	担当教員
1	地域保健・公衆衛生① 生活と健康、地域社会と保健対策の基本的な考え方を学び、時代の変化に伴う地域保健活動の変化から、今日の現状を概説する。	事前学修：教科書のⅢ編1章①～④を読む	15	0	石河 理紗
2	地域保健・公衆衛生② 健康づくり対策と地域歯科保健について説明する。	事前学修：教科書のⅢ編1章⑤～を読む	15	0	石河 理紗
3	母子保健 母子健康手帳に記載された口腔関連質問項目や妊産婦への歯科保健指導の要点について学ぶ。また1歳6カ月児、3歳児健康診断の目的、う蝕罹患型の分類、歯科保健指導の要点等を学習する。	事前学修：教科書のⅢ編2章を読む	15	0	石河 理紗
4	学校保健 学校保健の対象者とその意義、関係職員について学ぶ。また保健教育と保健管理の概要を理解する。学校歯科健康診断について診査の項目や記載事項、事後措置を学ぶ。	事前学修：教科書のⅢ編3章を読む	15	0	石河 理紗
5	成人保健・高齢者保健 成人保健として生活習慣病のリスクファクターと成人期の口腔保健管理について学ぶ。また、高齢者保健として高齢者の保健対策や介護保険、地域支援事業について理解する。	事前学修：教科書のⅢ編4章、6章を読む	15	0	石河 理紗
6	産業保健 産業保健の目的、関連法規について学び、職業性疾患の要因と歯科を含む特殊健康診断について理解する。また安全衛生管理について学習する。	事前学修：教科書のⅢ編5章を読む	15	0	石河 理紗
7	精神保健 精神保健の定義、意義を学び、精神保健福祉行政や精神医療の現状と課題について理解する。また精神障害者の社会復帰と歯科保健の問題を考える。	事前学修：教科書のⅢ編7章を読む	15	0	石河 理紗

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
8	災害時歯科保健、国際保健 日常的災害対策や災害時の保健医療について学び、災害時の歯科保健、歯科の役割について理解する。また世界的な健康水準や保健医療水準、国際協力に関わる機関やその活動について学ぶ。	事前学修：教科書のⅢ編8～9章を読む	15	0	石河 理紗
9	まとめ これまでの授業内容について総括する	事前学修：これまでの講義資料を読む	30	0	石河 理紗
10	「地域福祉」の理解 ① ・少子化、超高齢化、多死という人口減少社会の問題と経済の縮小による財政逼迫の社会の到来は、他人ごとではなく、「自分ごと」として受け留めていかなければならない背景について学ぶ。 ・地域コミュニティの問題、課題への気づきと理解を深める。	事前学修：テキスト精読 事後学修：解説資料再読	30	30	大森 俊也
11	「地域福祉」の理解 ② ・社会福祉法から社会福祉と地域福祉の推進について解説する。 ・ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティア、協働・パートナーシップ、エンパワメント等地域福祉の理念について理解を深める。	事前学修：テキスト精読 事後学修：解説資料再読	30	30	大森 俊也
12	「地域福祉」の理解 ③ ②に引続き、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、アドボカシー、ボランティア、協働・パートナーシップ、エンパワメント等地域福祉の理念について理解を深める。	事前学修：資料精読 事後学修：解説資料再読	30	30	大森 俊也
13	「地域福祉」の理解 ④ 地域に起こる様々な問題の中から認知症高齢種や災害時弱者等の保護、児童虐待の通告、児童相談所の役割を理解する。	事前学修：テキスト精読 事後学修：解説資料再読	30	30	大森 俊也
14	「地域福祉」の理解 ⑤ 地域福祉の推進における民生・児童委員の役割を理解する。子供の貧困とヤングケアラー、子育て支援について学ぶ。	事前学修：テキスト精読 事後学修：解説資料再読	30	30	大森 俊也
15	「地域福祉」の理解 ⑥ ・現状の地域福祉計画、地域支援計画及び「2040年問題」について解説する。 ・サービス通減の「国民的合意形成」について理解を深め、地域福祉活動参加への醸成を図る。	事前学修：前回資料精読 事後学修：全回を振り返る	30	30	大森 俊也
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
<b>教科書</b>	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	対面またはオンデマンド授業で実施する。小テスト課題は回収後、採点し、次回総括する。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

当教員は、在宅福祉に20年の相談実務経験があり、家族の会や行政と協働して認知症デイケアを開設。家族の介護負担軽減を図るとともに、本人擁護のための認知症徘徊検索システムを協働開発しました。2000年新設の老健施設に歯科衛生士を採用し口腔ケア体制(診療ユニット室)創設し、退所後の在宅でも老健機能を楽しむ訪問介護・看護事業を展開するなど25年の経営実務経験があります。地域の課題や問題から地域福祉を構成する理論や理念等を容易に説明します。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-16				
	●									
科目名	衛生行政・社会福祉・社会保障				単位認定者	園部 英俊		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	30 時間
							授業回数			15 回
授業の概要	保健、医療、福祉の制度と医事法制を学び、衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規について理解する。また、社会福祉や社会保険制度における医療保障の諸対応について理解する。									
到達目標	今日の保健医療、社会保険、社会福祉に関する行政は、社会保障制度にもとづいて行われている。社会保障制度の沿革・体系を知り、私たちの生活とのつながりについて理解する。また、歯科衛生士が仕事を行ううえで必要な歯科衛生士法をはじめ関連する法律について熟知するとともに、法にもとづいて業務ができ、社会人としての責務をしっかりと果たすことができるように関連する法律や諸制度の内容などについて理解する。									
学修者への期待等	欠席をせず、意欲的に臨むこと。新聞やテレビなどで報じられる社会保障や保健医療制度関係のニュースに関心を持ってほしい。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	わが国の医療制度と歯科衛生士 ①わが国の医療制度、②医療法				事前学修：教科書1章①②③を熟読する 事後学修：身近な医療機関の情報を見してみる			45	30	
2	③歯科医師法（医師法）				事前学修：教科書1章④を熟読する 事後学修：配布資料などを確認			45	30	
3	③歯科衛生士法（法の成り立ち、目的、歯科衛生士の業務）				事前学修：教科書1章⑤を熟読する 事後学修：他の科目の学びを法規定からみる			45	30	
4	④歯科衛生士法（免許、業務上の義務）、歯科技工士法				事前学修：教科書1章⑤⑥を熟読する 事後学修：他の科目の学びを法規定からみる			45	30	
5	医療関係職種 ①歯科医療とかかわる医療関係者、保健師助産師看護師法				事前学修：教科書2章①②を熟読する 事後学修：歯科衛生士業務との関係を考える			45	30	
6	②臨床検査技師に関する法律、診療放射線技師法、言語聴覚士法、薬剤師法、その他の関係職種に係る法律				事前学修：教科書2章③④⑤⑥⑦を熟読する 事後学修：歯科衛生士業務との関係を考える			45	30	
7	その他の関係法規① 地域包括ケアシステム、地域保健に関する法律：地域保健法・健康増進法				事前学修：教科書3章①、②1.2.を熟読する 事後学修：配布資料などを確認			45	30	
8	② 母子保健法、学校保健安全法				事前学修：教科書3章①、②3.4.を熟読する 事後学修：歯科衛生士業務との関係を考える			45	30	
9	③ 労働安全法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、歯科口腔保健の推進に関する法律				事前学修：教科書3章②5.6.③を熟読する 事後学修：配布資料などを確認			45	30	
10	④ 薬事に関する法律、その他の衛生法規				事前学修：教科書3章④、⑤を熟読する 事後学修：配布資料などを確認			45	30	
11	社会保障① 社会保障とは、1. 医療保険				事前学修：教科書4章①、②1.を熟読する 事後学修：自身の体験から振り返る			45	30	
12	② 2. 介護保険、3. 年金保険、4. 労働法規と労働保険				事前学修：教科書4章②2.を熟読する 事後学修：新聞記事などで知識を深める			45	30	
13	社会福祉① 社会福祉行政、生活保護と法規、児童と家庭の福祉制度と法律				事前学修：教科書4章③1., 2. ③3.を熟読する 事後学修：新聞記事などで知識を深める			45	30	
14	社会福祉② 障害者の福祉制度と法律、高齢者の福祉制度と法律				事前学修：教科書4章③4.5.を熟読する 事後学修：身近な問題について考える			45	30	
15	医療の動向：国民の健康状態と受療状況、医療施設、国民医療費				事前学修：教科書5章①②③④を熟読する 事後学修：メディアなどの情報に関心を持つ			45	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社									

参考文献	『公衆衛生がみえる2024-2025』MEDIC MEDIA 『図説 国民衛生の動向2024/2025』、『国民の福祉と介護の動向2024/2025』 厚生労働統計協会
備考	進捗状況により順番が前後される場合がある。また、関連する内容について教科書以外の講義も適宜行う。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当講師は、歯科医師で、23年間の病院での臨床経験を有している。また、地方自治体に22年間勤務して感染症や救急医療行政に従事したほか、保健所・福祉事務所では歯科保健をはじめ母子保健、精神保健福祉、障害者福祉などの実務を経験している。これらの豊富な経験を活かしてわかりやすい授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-04				
	●									
科目名	歯周療法学				単位認定者	梶川 哲宏		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	歯周疾患が全身状態に影響することが明らかとなり、超高齢社会を迎え、歯周疾患の治療と予防のニーズはますます高まっている。歯科衛生士として治療と予防に積極的に参加介入するために、歯周疾患と歯周療法に関する基礎知識及び診療補助を行うために必要な基礎知識を修得する。									
到達目標	歯周疾患の分類及びプラークを主とする歯周疾患の原因について理解する。次に歯周疾患の診査法を学び、プラーク付着状態の診査、歯周ポケット測定、歯の動揺度の測定、X線写真読影、その他の診査を理解する。さらに歯周治療の流れ、歯周基本治療および歯周外科治療について内容を理解するとともに、歯科衛生士の果たす役割についても理解する。									
学修者への期待等	事前にテキストを熟読してくること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	歯周疾患の基礎知識Ⅰ 歯周病の概要を学ぶ。				事前学修：教科書基礎編第1章、臨床編第7章1. を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
2	歯周疾患の基礎知識Ⅱ 歯周組織の構造と機能を学ぶ。				事前学修：教科書基礎編第2章、基礎編第3章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
3	歯周疾患の基礎知識Ⅲ 歯肉炎と歯周炎・その他の歯周疾患を理解する。				事前学修：教科書基礎編第4章、臨床編第4章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
4	歯周疾患の基礎知識Ⅳ 歯周疾患の原因を学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第2章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
5	歯周治療の実際Ⅰ 歯周治療の進め方と歯周疾患の診査（一般診査、歯周組織破壊の程度の診査、原因となる因子の診査）を学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第6章（疫学的指数の項目以外）を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
6	歯周治療の実際Ⅱ 歯周疾患の診査（咬合の診査、画像診断、その他の診査）を学ぶ。				事前学修：前回に引き続き、教科書臨床編第6章（疫学的指数の項目以外）を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
7	歯周治療の実際Ⅲ 歯周基本治療とは何か？目的と効果、基本治療の内容と実際について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第8章①、②を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
8	歯周治療の実際Ⅳ スケーリング・ルートプレーニングについて学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第8章③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
9	歯周治療の実際Ⅴ 歯周外科① ― 歯周外科治療の目的、分類について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第10章1.、2.②、④を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
10	歯周治療の実際Ⅴ 歯周外科② ― 主な歯周外科手術の適応・術式について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第10章2.③を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
11	歯周治療の実際Ⅴ 歯周外科③ ― 歯周外科治療における準備、介助について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第10章2.①、⑤を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
12	歯周治療の実際Ⅴ 歯周外科④ ― 根分岐部病変、歯周-歯内病変について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第11章、臨床編第4章⑤を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
13	歯周治療の実際Ⅵ 歯周治療としての口腔機能回復治療について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第12章、臨床編第13章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
14	歯周治療の実際Ⅶ メンテナンスの重要性、時期、内容について学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第16章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
15	歯周治療の実際Ⅷ 疫学とペリオドンタルメディシンについて学ぶ。				事前学修：教科書臨床編第6章4.、臨床編第5章を予習する。 事後学修：配付資料を用いて復習する。			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生士講座 歯周病学 第6版』沼部幸博・齋藤淳・梅田誠編集主幹 株式会社永末書店									

<b>参考文献</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社
<b>備考</b>	講義の出席率が評価に反映される。 授業は対面または遠隔（オンデマンド）の場合もある。

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>	
担当教員は、通算12年以上の歯科臨床経験に加え、海外での歯周病に関する研究留学経験も有する。特に歯周病に着目して様々な症例を経験しており、その実務経験と研究の知見を活かし、歯周療法学に関する具体的な授業を展開する。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-05				
	●									
科目名	歯科補綴学				単位認定者	佐藤 奈央子		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	歯科補綴治療とは、歯の欠損やそれに伴う周囲組織の変化を、人工材料で修復して、形態・諸機能を回復させ、さらに歯の喪失などにより二次的に生じる障害を予防するものである。本科目では、歯科補綴学の概要を理解する上で必要な基礎的事項を理解し、次いで種々の歯科補綴物についての理解を深める。									
到達目標	歯科補綴学、補綴歯科診療に際して歯科衛生士に求められる必要最少限の知識を修得する。									
学修者への期待等	超高齢社会の現在、歯の喪失による咀嚼障害についての認識が高まり、特に有床義歯などの歯科補綴治療に対する関心が高まっている。歯科衛生士にはこれらのニーズに応じた歯科補綴治療を行う上での適切な知識が必要とされる。そのために、教科書等による予習・復習を十分に行うことを望む。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	歯科補綴学概論：意義と目的（歯科補綴治療とはどんな事をするのか、歯科治療全体における歯科補綴治療の役割。（歯科治療と医科治療の違い、歯科治療と社会生活とのかかわり））				事前学修：教科書 歯科補綴の概要 事後学修：配布資料			60	60	
2	歯科補綴治療の基礎事項：歯列弓の形態とその対合関係：歯列弓、咬合彎曲、咬合平面、対合関係、歯科補綴治療で重要な基準平面				事前学修：教科書該当箇所 事後学修：配布資料			60	60	
3	補綴歯科診療における検査・診断：医療面接と診察、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査				事前学修：教科書該当箇所 事後学修：配布資料			60	60	
4	クラウン・ブリッジ①：クラウン治療の概要、ブリッジ治療の概要、CAD/CAMクラウン治療概要				事前学修：教科書 クラウン・ブリッジ 事後学修：配布資料			60	60	
5	クラウン・ブリッジ②：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助				事前学修：教科書 クラウン・ブリッジ 事後学修：配布資料			60	60	
6	クラウン・ブリッジ③：クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助、クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応				事前学修：教科書 クラウン・ブリッジ 事後学修：配布資料			60	60	
7	全部床義歯①：全部床義歯治療の概要、全部床義歯治療の流れと診療の補助				事前学修：教科書 全部床義歯 事後学修：配布資料			60	60	
8	全部床義歯②：全部床義歯の装着、患者への説明と指導、全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応				事前学修：教科書 全部床義歯 事後学修：配布資料			60	60	
9	部分床義歯①：部分床義歯治療の概要、部分床義歯治療の流れと診療の補助				事前学修：教科書 部分床義歯 事後学修：配布資料			60	60	
10	部分床義歯②：部分床義歯の装着、患者への説明と指導、部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応				事前学修：教科書 部分床義歯 事後学修：配布資料			60	60	
11	インプラント①：インプラント治療の概要、インプラント治療の流れと診療の補助				事前学修：教科書 インプラント 事後学修：配布資料			60	60	

回	授業計画	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
12	インプラント②：インプラント治療の流れと診療の補助、上下無歯顎症例に対するインプラント治療、インプラント治療に伴うトラブルとその対応	事前学修：教科書 インプラント 事後学修：配布資料	60	60
13	インプラント③：インプラントのメンテナンス、天然歯との相違、使用すべき器財、症例供覧	事前学修：教科書 インプラント 事後学修：配布資料	60	60
14	特殊な口腔内装置を用いる治療：顎顔面補綴治療、構音・嚥下機能の補助治療、顎関節と歯ぎしりの治療、スポーツ外傷の予防、睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療、	事前学修：教科書該当箇所 事後学修：配布資料	60	60
15	器材の管理：感染予防策、滅菌、消毒、洗浄、保管 歯科補綴学のまとめ：国家試験問題の傾向と対策	事前学修：教科書該当箇所 事後学修：配布資料	60	60
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）			
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社			
<b>参考文献</b>	なし			
<b>備考</b>	講義は対面授業にて行う。状況により遠隔授業（録画またはZOOM等使用）の可能性もある。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科医師として25年間、様々な症例を経験してきた。その実務経験を活かし、補綴歯科治療全般に関わる知識や技術に関して、実臨床に則した具体的な授業を展開する。

科目ナンバリング
DH-2-DHC-06

学修成果	1	2	3	4	5							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							
	●											
科目名	口腔外科学					単位認定者	岩永賢二郎 千葉 高大 花淵 静			評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1	単位	受講態度		30 %	
					授業形態	講義	授業時間数	30	時間			
							授業回数	15	回			
授業の概要	口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について、基本的な知識を学修し、患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。また、口腔外科学診療に際して求められる知識の修得を目標とする。											
到達目標	①口腔外科疾患の症状・診断の概要・治療方針を説明できるようになる ②口腔外科手術において安全で適切な歯科診療補助を実施できる											
学修者への期待等	この授業では、口腔外科で扱う病気や治療について、歯科衛生士として知っておくべき基本を学びます。覚えることも多い科目ですが、「なぜその対応が必要なのか」「患者さんはどんな気持ちで治療を受けているのか」を考えながら学ぶことを大切にしてください。口腔外科の治療では、患者さんが不安や恐怖を感じやすいため、安全に治療を行うことや感染を防ぐことがとても重要です。授業では、実際の臨床現場をイメージしながら、診療補助の役割や患者さんへの声かけについて理解を深めていきましょう。分からないことはそのままにせず、質問したり復習したりしながら、積極的に授業に参加することを期待しています。											
回	授業計画・学修の主題					準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	I編 1章 口腔外科の概要					事前学修：教科書の「I編 1章 口腔外科の概要」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	岩永 賢二郎	
2	I編 2章 先天異常と発育異常／口腔外科手術の実際					事前学修：教科書の「I編 2章 先天異常と発育異常」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	岩永 賢二郎	
3	I編 3章 損傷					事前学修：教科書の「I編 3章 損傷」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	岩永 賢二郎	
4	I編 4章 口腔粘膜疾患					事前学修：教科書の「I編 4章 口腔粘膜疾患」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	千葉 高大	
5	I編 5章 炎症					事前学修：教科書の「I編 5章 炎症」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	千葉 高大	
6	I編 6章 嚢胞／口腔外科手術（嚢胞摘出術・嚢胞開窓術）の実際					事前学修：教科書の「I編 6章 嚢胞」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	岩永 賢二郎	
7	I編 7章 腫瘍および腫瘍類似疾患／8章 顎関節疾患 口腔外科手術の実際					事前学修：教科書の「I編 7章腫瘍および腫瘍類似疾患／8章顎関節疾患」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	岩永 賢二郎	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	I編 9章 唾液腺疾患／口腔外科手術（唾石摘出術など）の実際	事前学修：教科書の「I編 9章 唾液腺疾患」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	千葉 高大
9	I編 10章 神経系疾患／11章 血液疾患	事前学修：教科書の「I編10章 神経系疾患 11章血液疾患」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	千葉 高大
10	III編 2章 局所麻酔／4章 全身麻酔／5章 緊急時の対応	事前学修：教科書の「II編1章～2章歯科治療における歯科麻酔と患者管理、2章局所麻酔、4章全身麻酔」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	岩永 賢二郎
11	IV編 歯科衛生士が担う周術期の口腔機能管理	事前学修：教科書の「IV編1章 周術期における口腔健康管理／2章周術期における口腔健康管理の実際」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	千葉 高大
12	I編 12章 口腔心身症／III編 3章 精神鎮静法	事前学修：教科書の「I編 12章 口腔心身症／III編 3章 精神鎮静法」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：小テストや配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	30	花淵 静
13	II編 5章 口腔外科手術の準備	事前学修：教科書の「II編3章口腔外科手術の準備／歯科機器教科書⑩口腔外科用機器」該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。事後学修：実習前記録や配付資料を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	花淵 静
14	口腔外科器材の取り扱い（抜歯器材の選択、浸潤麻酔器材の取り扱い、縫合器材の取り扱い）器材セッティング演習	事前学修：教科書の「4章 口腔外科用機器」該当ページを必ず読み、シラバス13回目の実習記録を復習すること。 事後学修：実習記録を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	90	花淵 静
15	口腔外科器材の取り扱い（抜歯器材の選択、浸潤麻酔器材の取り扱い、縫合器材の取り扱い）シミュレーション演習	事前学修：教科書の「4章 口腔外科用機器」該当ページを必ず読み、シラバス13回目の実習記録を復習すること。 事後学修：実習記録を用いて復習する。 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	90	花淵 静
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 演習：器材セッティング、シミュレーション ）				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版』医歯薬出版株式会社□ 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』医歯薬出版株式会社□ 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』医歯薬出版株式会社				
参考文献	なし				
備考	シラバス1回目～13回目合同講義／14・15回目は、クラス別による講義・演習【7階演習室】				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
【岩永】	口腔外科専門医として10年以上、様々な口腔外科症例を経験してきた。また東北大学病院や、仙台オープン病院では多職種や、歯科衛生士と連携して様々な周術期患者症例を経験してきた。その実務経験を活かし、口腔外科学の様々な疾患、診断、治療方法、歯科衛生士の役割等に関して具体的な授業を展開する。
【千葉】	歯科医師として10年以上臨床に携わり、これまで病院歯科口腔外科や大学病院の口腔外科、さらには一般開業歯科医院や病院歯科にて様々な症例を経験してきた。その今までの実務経験を活かし、口腔外科全般や周術期等口腔機能管理に関して具体的な症例を提示しながら授業をすすめていく。
【花淵】	口腔外科専門医のもとで5年以上の口腔外科症例を経験してきた。その実務経験を活かし歯科衛生士として必要な口腔外科治療の歯科診療補助を具体的な症例を提示しながら授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-07				
	●									
科目名	歯科矯正学				単位認定者	志満 雅子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	頭部・顎・顔面部の成長発育とそれに伴って生じる歯列の変化を知り、その発育を阻害する因子を早期に取り除くことが不正咬合の予防につながることを理解する。不正咬合と実際の矯正治療の関連づけができるように基礎的な知識を修得することを目的とするとともに、歯科矯正学の基礎を学び、歯科矯正に関する診療補助の方法を学ぶ。									
到達目標	歯科矯正学の基礎を学び、歯科矯正に関する診療補助の能力を修得する。									
学修者への期待等	事前に教科書の該当箇所を読んでおき、授業の理解を深めることが望ましい。授業中に生じた疑問点等は質問するなど、学修への積極的な取り組みを期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	矯正歯科学概論 矯正歯科学とは何か? 矯正治療の歴史と必要性について				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
2	成長・発育 頭部・顎・顔面および歯・歯列の成長発育について				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
3	咬合① 正常咬合と不正咬合、不正咬合の種類について				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
4	咬合② 不正咬合の原因と予防法について				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
5	矯正歯科診断① 矯正歯科診断に必要な検査				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
6	矯正歯科診断② 症例分析-非拔牙治療と拔牙治療				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
7	矯正歯科治療と“力”-矯正力・顎整形力・保定 矯正力の種類と歯の移動様式について				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
8	矯正装置① 矯正装置の種類と用途について (可撤式矯正装置と固定式矯正装置)				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
9	矯正装置② 矯正装置の種類と用途について (機能的矯正装置～保定装置)				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
10	歯科矯正治療の実際① 上下顎の前後、垂直的不調和と小児～成人の矯正歯科治療				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
11	歯科矯正治療の実際② 口腔顎顔面の形成異常と歯の埋伏、歯数の異常				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
12	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割① 歯科矯正臨床における歯科衛生士の業務				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
13	歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割② 口腔保健管理と口腔筋機能療法				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
14	復習① 衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(成長発育、不正咬合の種類、矯正力)				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
15	復習② 衛生士国家試験問題を参考にした授業内容の復習(矯正装置、器具と材料)				事前学修: テキスト等の該当ページを必ず読み、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修: 授業後には内容の復習、関連資料の確認を行うこと。				30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり: キーワード ( )									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献										
備考	模範解答の配布、正解率の低い問題の説明を配布。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は歯科矯正学分野で5年以上の実務経験と、歯科医師資格を有しており、その経験を活かして学生が歯科矯正学について理解を深め、臨床で活用できる実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-08				
	●									
科目名	小児歯科学				単位認定者	丸谷 由里子		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに、臨床の場で対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患、予防法、診療補助等についての知識を習得する。									
到達目標	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。小児期の歯科医療について総合的に学ぶ。									
学修者への期待等	講義前後、該当箇所について教科書による予習復習を行うこと。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	小児歯科概論 小児歯科診療と歯科衛生士の役割について 教科書Ⅰ編1章小児歯科学概論、Ⅱ編3章小児歯科における診療体系①②				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
2	心身の発育Ⅰ 発達の概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達 教科書Ⅰ編2章心身の発育				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
3	心身の発育Ⅱ 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 顔面頭蓋の発育、顎の発育とその評価 教科書Ⅰ編3章小児の生理的特徴、4章顔面頭蓋の発育				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
4	歯の発育とその異常 教科書Ⅰ編5章歯の発育とその異常				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
5	歯列・咬合の発育と異常 教科書Ⅰ編6章歯列・咬合の発育と異常				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
6	小児の歯科疾患 う蝕 Ⅰ編7章①小児にみられるう蝕				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
7	小児の歯科疾患 歯周疾患、口腔軟組織の異常 編7章②小児にみられる歯周疾患、③小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
8	小児期の特徴と歯科の問題点 教科書Ⅰ編8章小児虐待、Ⅱ編1章小児期の特徴と歯科の問題点				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
9	小児歯科診療体系 教科書Ⅱ編3章小児歯科における診療体系③④、7章歯科診療室と器材の管理				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
10	患児の対応法Ⅰ 年齢別の小児の行動とその対応、不協力的小児の対応法 教科書Ⅱ編2章小児歯科における患者との対応法				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
11	患児の対応法Ⅱ 障害児の歯科治療 教科書Ⅱ編4章障害児の歯科治療				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
12	う蝕予防 教科書Ⅱ編5章う蝕予防、6章小児の口腔健康管理				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
13	小児の歯冠修復 教科書Ⅱ編3章⑤⑥小児の麻酔、歯冠修復				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
14	小児の歯内療法 教科書Ⅱ編3章⑦小児の歯内療法				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
15	小児の外科処置、外相、咬合誘導 教科書Ⅱ編3章⑧小児の外科的処置 ⑨外傷 ⑩咬合誘導				事前学修：教科書の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むこと 事後学修：教科書および配付資料を用いて復習すること				30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 小児歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	なし									
備考										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
・担当教員は、大学病院小児歯科で歯科医師として26年にわたり小児歯科診療に従事してきた。 [資格等] ・歯科医師免許 ・小児歯科学会専門医指導医										

<b>科目ナンバリング</b>
DH-2-DHC-09

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●									
科目名	高齢者口腔保健学				単位認定者	猪狩 洋平			試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
							授業時間数		20 時間	
				授業形態	講義	授業回数			10 回	
授業の概要	高齢者は、顎口腔機能はもとより身体的機能も低下していることが多く、全身疾患を有し、身体状況に個人差が大きいなどの特徴を有するため、それを踏まえた対応が必要となる。本科目では、高齢者について理解し、高齢者における口腔保健の基礎を学ぶ。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特性や社会的背景を説明できるようになる。</li> <li>2. 高齢者の状態に応じた口腔保健指導を実施できる。</li> <li>3. 高齢者の安全に配慮した歯科診療補助ができる。</li> <li>4. 高齢者との適切なコミュニケーションを図ることができる。</li> </ol>									
学修者への期待等	事前に教科書の該当箇所を熟読し、高齢者の心身の特性について理解を深めて授業に臨んでください。配布資料と教科書を併用して予習・復習を行い、臨床に役立つ知識を修得することが重要です。また、既習の基礎科目の復習も並行して行ってください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	高齢者をとりまく社会と環境①高齢社会と健康②高齢者にかかわる法制度 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患①加齢に伴う身体的機能の変化②高齢者の精神・心理的变化 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（主たる死因となる疾患）				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
3	加齢による身体的・精神的変化と疾患③高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（高齢者に特有な口腔の疾患）				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
4	高齢者の状態の把握①高齢者の生活機能の評価 高齢者歯科と臨床検査②高齢者の栄養状態、高齢者の薬剤服用				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
5	口腔のケア①高齢者に対する口腔のケア、有病高齢者への口腔のケア				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
6	口腔のケア②要介護高齢者への口腔のケア				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
7	摂食・嚥下リハビリテーション①高齢者のリハビリテーションの概要、摂食・嚥下の評価と対応 ②誤嚥性肺炎予防のための訓練				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
8	摂食・嚥下リハビリテーション③在宅訪問歯科診療における摂食・嚥下リハビリテーション、介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
9	高齢者に関わる医療と介護①在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 ②かかりつけ歯科の役割、訪問看護と歯科の役割				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30
10	高齢者歯科における歯科衛生過程 歯科衛生過程の概要				事前学修：教科書の該当箇所を読み、基礎知識を整理して授業に臨んでください。 事後学修：配付資料を用いて復習し、学んだ内容について考察をまとめてください。				30	30



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-10				
	●									
科目名	障害者口腔保健学				単位認定者	星 久美		試験（筆記）	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	<p>身体的、知的あるいは精神的な障害のある人を対象とした口腔保健管理のあり方を学ぶ。障害者の歯科治療では治療や指導及び患者管理に特別の配慮を必要とする。その際に必要な身体的、知的及び精神的特徴と特有の口腔機能障害について学ぶ。そして社会の一員である障害者の生活を知り、障害者の歯科医療について総合的に学修する。</p>									
到達目標	<p>①障害児・者の身体的、知的および精神的特徴と歯科の特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を説明できる。 ②障害児・者の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。</p>									
学修者への期待等	各専門分野で学んだ知識を展開していく科目であるため、各回の授業内容に関連する既習他科目の学修項目を復習した上で授業を受講することを望む。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	障害の概念及び地域における障害者歯科				事前学修：教科書第1章および第7章を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 I 精神発達・心理的発達と行動障害・運動障害（神経・筋系疾患）				事前学修：教科書第2章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 II 感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害				事前学修：教科書第2章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 III 脳神経障害・てんかん				事前学修：教科書第2章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
5	障害者の歯科医療と行動調整 コミュニケーションの方法及び行動療法（行動変容法）				事前学修：教科書第3章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
6	障害者の歯科医療と行動調整 体動コントロール・薬物的行動調整				事前学修：教科書第3章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
7	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 IV 口腔内に特徴のある疾患・精神および行動の障害				事前学修：教科書第2章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
8	健康支援と口腔衛生管理 介助者が行う口腔のケアへの支援、専門的口腔ケア 特別な配慮が必要な患者への口腔衛生管理				事前学修：教科書第4章を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
9	リスク評価と安全管理 障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食・嚥下障害と口腔管理、栄養管理、評価法				事前学修：教科書第5,6章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
10	障害児・者の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食機能療法、小児期の摂食・嚥下障害への対処法				事前学修：教科書第6章該当箇所を読む 事後学修：授業配布プリントの復習			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生士学シリーズ 障害者歯科学 第2版』 医歯薬出版株式会社									
参考文献	『スペシャルニーズデンティストリー-障害者歯科 第2版』 日本障害者歯科学会編、医歯薬出版株式会社 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 田角勝・向井美恵編著、医歯薬出版株式会社									
備考	授業は対面で実施する。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は障がい者歯科治療に9年以上従事し、日本障害者歯科学会認定医として様々な症例を経験してきました。その経験を活かし、臨床現場に繋がられるような実践的な授業を展開します。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●				

科目ナンバリング
DH-2-DHC-11

科目名	歯科放射線学				単位 認定者	飯久保 正弘 西條 佳奈		評価の方法	試験 (筆記)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たす役割を認識する。エックス線診断の基本を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。									
到達目標	エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たすべき役割を認識する。エックス線診断の基本を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。									
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかりと行ってほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	エックス線の基礎知識(講義)、エックス線写真の成立、写真処理				事前学修: 予習として「放射線」という言葉の意味を調べておく。		30	0	飯久保 正弘	
2	歯科用エックス線撮影法(1)口内法				事前学修: 前回の内容を復習して授業に臨むこと。		30	0	飯久保 正弘	
3	歯科用エックス線撮影法(2)口外法とX線写真の読み方				事前学修: 予習として放射線が人体に与える影響を調べておく。		30	0	飯久保 正弘	
4	歯放射線防護(講義) 放射線被曝、放射線の生体に対する作用、組織の放射線感受性、放射線障害				事前学修: 前回の内容を復習して授業に臨むこと。		30	0	飯久保 正弘	
5	歯科用エックス線撮影法(3)パノラマ撮影法				事前学修: 前回の内容を復習して授業に臨むこと。		30	0	飯久保 正弘	
6	その他の画像診断(CT、MRI、超音波)と放射線治療				事前学修: 前回の内容を復習して授業に臨むこと。		30	0	飯久保 正弘	
7	歯科用エックス線写真撮影における歯科衛生士の役割/ 歯科用エックス線写真撮影における歯科診療補助(平行法・二等分法)相互演習				事前学修: 2回目の授業内容について復習をして授業に臨むこと。 事後学修: 授業内で配布した実習記録を用いて復習すること。		30	30	西條 佳奈	
8	歯科用エックス線写真撮影における歯科診療補助(パノラマエックス線写真)相互演習/ 歯科用エックス線写真の読影(う蝕)グループワーク				事前学修: 5回目の授業内容について復習をして授業に臨むこと。 事後学修: 授業内で配布した実習記録を用いて復習すること。		30	30	小野寺 健 西條 佳奈	
9	歯科用エックス線写真撮影における歯科診療補助(咬翼法・咬合法)相互演習/ 歯科用エックス線写真の読影(歯周病)グループワーク				事前学修: 2回目の授業内容について復習をして授業に臨むこと。 事後学修: 授業内で配布した実習記録を用いて復習すること。		30	30	西條 佳奈	
10	歯科用エックス線写真撮影における歯科診療補助(インジケーターを使用した二等分法)相互演習/ 歯科用エックス線写真の読影(その他の歯科疾患)グループワーク				事前学修: 7回目の授業内容について復習をして授業に臨むこと。 事後学修: 授業内で配布した実習記録を用いて復習すること。		30	30	小野寺 健 西條 佳奈	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり: キーワード(相互演習・グループワーク)									
教科書	『歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版』飯久保正弘ほか著、株式会社学建書院									
参考文献	なし									
備考	1~6回目については、教室にて合同授業を実施する。7~10回目についてはクラス別での演習とし、実施する教室は授業前に周知を行う。また7~10回目の実習記録は、授業終了後に回収し、添削後返却する。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

飯久保: 28年前より教職に従事し、日本歯科放射線学会の指導医、専門医を有している。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目名	う蝕予防処置法（臨床基礎）				単位 認定者	鷲尾 純平 武山 真奈美		評価の方法	試験 (筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			

**授業の概要** 「歯科予防処置法」で学んだ知識や技術を踏まえ、専門教育分野と関連付けながら、う蝕の原因および食品とう蝕の誘発性を理解し、う蝕の予防法の基礎知識を修得する。また、う蝕予防処置業務における、フッ化物応用法、う蝕活動性試験等の目的を理解し、患者説明ができるようにする。

- 到達目標**
1. う蝕の成り立ちと予防法を説明できる。
  2. う蝕活動性試験のと特徴と実施方法を説明できる。
  3. フッ化物の特徴と応用法を説明できる。
  4. 代用甘味料の特徴と効果を説明できる。
  5. 個人または集団に合わせた各種う蝕予防処置業務を説明できる。

- 学修者への期待等**
- ①演習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。
  - ②提出物は、期日を守って提出すること。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	う蝕の基礎知識（う蝕はどのようにできるのか？） 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
2	う蝕の基礎知識（う蝕を予防するには？） 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
3	う蝕活動性試験（各種検査方法/具備すべき要件など）【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
4	う蝕活動性試験 演習① 各種試験の取り扱い 【クラス別演習】 グループワーク	事前学修：教科書Ⅲ編2章⑧-4.う蝕に関する検査を読むこと。また、前回までの講義内容をよく復習したうえで、演習に臨むこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	60	武山 真奈美
5	う蝕活動性試験 演習② データの解釈 【クラス別演習】 グループワーク	事前学修：シラバス4回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること	30	30	武山 真奈美
6	フッ化物（フッ化物とは？効果や使用方法など） 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
7	フッ化物（中毒など・洗口液の調整方法） 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
8	代用糖（代用糖とは？） 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平
9	代用糖の効果（基礎実験） 【クラス別演習】 グループワーク	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平 武山 真奈美
10	地域歯科保健とう蝕予防 【合同講義】	事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと。 事後学修：講義プリントの復習	30	30	鷲尾 純平

**アクティブ・ラーニング** 該当なし  
該当あり：キーワード（基礎実験、演習、グループワーク）

**教科書** 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社

**参考文献** 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社

**備考** 4回、5回、9回は2クラスに分かれて演習を行う。授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習（授業）記録、課題については、添削後に返却しフィードバックを行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

【鷲尾】歯科医師としての臨床経験、大学における教育経験を十分に有しており、その実務経験を活かし、う蝕予防及びその処置に関して具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	歯周病予防法（臨床基礎）				単位認定者	伊藤 恵美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	「歯科予防処置法」で修得した知識と技術をもとに、歯周組織の健康像と病的変化を把握し、歯周病予防法の専門的な知識と技術および態度を修得する。その手技として各検査法、予防的歯石除去法、歯面研磨・歯面清掃の技術について、安全で適切な操作技術を模型上および相互実習で修得する。									
到達目標	1. 口腔内の状態を観察し、必要な歯周病予防技術を選択できる 2. 歯周病予防を目的とした基本的器具操作を安全に行うことができる。 3. 安全・感染予防を意識して施術をすることができる。									
学修者への期待等	1. 身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2. 欠席・欠課をしないよう意欲的に臨んでほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	PTC・PMTCの基礎知識／マネキン演習 エバチップの使用法、PMTC模型演習				事前学修：教科書Ⅲ編3章②- 2.PTC、PMTCを読むこと、歯面 研磨について復習しておくこと 事後学修：実習記録をまとめる こと		30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
2	PMTC 相互演習／プロービング、スケーリング、 歯の動揺度マネキン演習① 相互演習の手順・留意事項説明／患者1人目				事前学修：シラバス1回目の内 容を復習しておくこと 事後学修：実習記録をまとめる こと		30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
3	PMTC 相互演習／プロービング、スケーリング、 歯の動揺度マネキン演習② 患者2人目						30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
4	PMTC 相互演習／プロービング、スケーリング、 歯の動揺度マネキン演習③ 患者3人目／実習まとめ						30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
5	口腔内の情報収集 相互演習① (プロービング、歯の動揺度) 患者1人目、2人目				事前学修：プロービング、歯の 動揺度の内容を復習しておくこ と 事後学修：実習記録をまとめる こと		30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 三浦 悦子 北村 麻衣	
6	口腔内の情報収集 相互演習② (プロービング、歯の動揺度) 患者3人目、実習まとめ						30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 三浦 悦子 北村 麻衣	
7	歯石除去 相互演習① (スケーリング、歯面研磨) 相互演習の手順・留意事項説明、患者1人目				事前学修：スケーリング、歯面 研磨の内容を復習しておくこと 事後学修：実習記録をまとめる こと		30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 三浦 悦子 北村 麻衣	
8	歯石除去 相互演習① (スケーリング、歯面研磨) 患者2人目、患者3人目、実習まとめ						30	30	武山 真奈美 伊藤 恵美 三浦 悦子 北村 麻衣	
9	シャープニング（シクルスケーラー）パワースケー ラー（エアスケーラー）、歯面清掃器について クラ ス別演習				事前学修：教科書の該当ページ をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習 記録をまとめること。		30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美	
10	パワースケーラー（エアスケーラー）、歯面清掃器の 基本操作について クラス別演習				事前学修：前回の実習記録で復 習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習 記録をまとめること。		30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
11	パワースケーラー（エアスケーラー）、歯面清掃器の 基本操作について クラス別演習				事前学修：前回の実習記録で復 習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習 記録をまとめること。		30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 穴戸 敦子 北村 麻衣	
12	パワースケーラー（エアスケーラー）、歯面清掃器の 基本操作について クラス別演習				事前学修：前回の実習記録で復 習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習 記録をまとめること。		30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 穴戸 敦子 北村 麻衣	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
13	グレーシータイプキュレットの基本操作、エキスプローラー基本操作 講義 マネキン演習 クラス別演習	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
14	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習（前歯）クラス別演習	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
15	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習（臼歯）クラス別演習	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
16	グレーシータイプキュレットの基本操作 マネキン実習（臼歯）クラス別演習、次回相互演習説明	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
17	グレーシータイプキュレットの基本操作（前歯部）（相互演習①・マネキン実習①）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
18	グレーシータイプキュレットの基本操作（前歯部）（相互演習②・マネキン演習②）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
19	グレーシータイプキュレットの基本操作（前歯部）（相互演習③・マネキン演習③）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
20	グレーシータイプキュレットの基本操作（左側臼歯部）（相互演習①・マネキン演習①）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
21	グレーシータイプキュレットの基本操作（左側臼歯部）（相互演習②・マネキン演習②）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
22	グレーシータイプキュレットの基本操作（左側臼歯部）（相互演習③・マネキン演習③）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
23	グレーシータイプキュレットの基本操作（右側臼歯部）（相互演習①・マネキン演習①）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
24	グレーシータイプキュレットの基本操作（右側臼歯部）（相互演習②・マネキン演習②）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
25	グレーシータイプキュレットの基本操作（右側臼歯部）（相互演習③・マネキン演習③）クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
26	プロービング、スケーリング（超音波スケーラー）、歯面研磨 相互演習 患者1人目	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
27	プロービング、スケーリング（超音波スケーラー）、歯面研磨 相互演習 患者2人目	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
28	プロービング、スケーリング（超音波スケーラー）、歯面研磨 相互演習 患者3人目	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
29	PMT相互演習 患者1人目、2人目 グループワーク	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
30	PMT相互演習 患者3人目 グループワーク まとめ	事前学修：前回の実習記録で復習し授業に臨むこと。 事後学修：授業を振り返り実習記録をまとめること。	30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美 宍戸 敦子 北村 麻衣
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、演習）				

<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士講座 歯周病学 第6版』永末書店
<b>参考文献</b>	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
<b>備考</b>	全てクラス別で授業を行う。1～12、17～30回目は8階演習室、13～16回目は7階演習室。2、3回、5、6回、7、8回は連続で授業を行う。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>	
歯科診療所に18年、大学病院に12年勤務し、歯周病患者の口腔管理を行ってきた経験から、歯周病における歯科衛生士の役割と手法について授業を行う。	



回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
18	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力判断 (実技試験)①	事前学修：症例に応じた患者説明ができるように準備しておく。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子
19	歯科衛生過程演習Ⅰ 客観的臨床能力判断 (実技試験)②	事前学修：症例に応じた患者説明ができるように準備しておくこと 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	大宮 由布子 宍戸 敦子
20	歯科衛生介入の考え方 (PBL課題発見・課題 解決の考え方)	事前学修： 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	佐藤 陽子
21	口腔清掃法演習 (症例：TBI、フロス) 患者①	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子
22	口腔清掃法演習 (症例：TBI、フロス) 患者②	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子
23	口腔清掃法演習 (症例：TBI、フロス) 患者②	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子
24	模擬患者実習①	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	伊藤 明日香 佐藤 陽子 大宮 由布子
25	模擬患者実習②③	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	宍戸 敦子
26	患者指導のための資料作成	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：患者指導が行える資料を完成させて提出すること	30	30	大宮 由布子
27	患者指導の実際	事前学修：患者説明のための資料を完成する。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香
28	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(7)/(術者1人目)	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	大宮 由布子 伊藤 明日香 佐藤 陽子
29	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(8)/(術者2人目)	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	大宮 由布子 伊藤 明日香 佐藤 陽子
30	口腔衛生指導演習Ⅱ TBI事例演習 相互演習(9)/(術者3人目)	事前学修：これまでの授業の復習をする。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。	30	30	大宮 由布子 伊藤 明日香 佐藤 陽子
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (プレゼンテーション PBL 体験学修)				
教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」全国士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社 「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」佐藤 陽子 齋藤淳編著 医歯薬出版株式会社				
参考文献	授業内で適宜紹介する				
備考	シラバス1～3, 8～11, 13, 17, 20, 26は合同講義。シラバス4・5, 18・19, 24・25は8階演習室で2限続き。シラバス21～23, 28～30はABクラス別8階演習室。シラバス6, 7, 14, 15, 16はクラス別7階演習室。シラバス12はクラス別で702, 703, 704, 605教室。シラバス27はクラス別教室				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かした授業を展開します。また、学生が歯科保健指導業務について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

科目ナンバリング
DH-2-DHP-10

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目名	口腔リハビリテーション論				単位 認定者	佐藤 陽子 江畑 綾		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。									
到達目標	摂食嚥下の正常なしくみと解剖・生理について理解し、摂食嚥下障害の概要を説明できる。摂食嚥下機能に関わる解剖・整理について説明できる。歯科衛生士の行う専門的な口腔ケアの必要性を理解する。									
学修者への 期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	摂食嚥下リハビリテーション概要 発達期の摂食嚥下機能				事前学修：P166～P178を読み、 専門用語を理解する 事後学修：授業記録をまとめて 提出する。		30	30	佐藤 陽子	
2	摂食嚥下障害の概要				事前学修：教科書P4～P25を読み、 専門用語を理解する。 事後学修：授業記録をまとめて 提出する。		30	30	佐藤 陽子	
3	摂食嚥下機能と口腔ケア（摂食嚥下のメカニズム）				事前学修：P10～P18を読み、専門 用語を理解する。 事後学修：授業記録をまとめて 提出する。		30	30	佐藤 陽子	
4	摂食嚥下障害の症状の特徴				事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：講義内容を復習する こと		30	30	江畑 綾	
5	摂食嚥下のアセスメント・評価方法				事前学修：教科書P74～93, P179 ～190を読むこと 事後学修：講義内容を復習する こと		30	30	江畑 綾	
6	摂食嚥下のアセスメント・評価(症例の観察)				事前学修：教科書P74～93, P179 ～190を読むこと 事後学修：講義内容を復習する こと		30	30	江畑 綾	
7	摂食嚥下障害の基礎訓練				事前学修：教科P191～237を読む こと 事後学修：講義内容を復習する こと		30	30	江畑 綾	
8	歯科衛生士が行う摂食嚥下障害へのアプローチ				事前学修：前回までの授業を復 習しておくこと 事後学修：講義内容を復習		30	30	佐藤 陽子	
9	摂食嚥下障害における症例展開				事前学修：前回までの講義内容 を復習する 事後学修：授業記録をまとめて 提出する。		30	30	佐藤 陽子	
10	摂食嚥下障害における訓練の目的と手段				事前学修：前回までの講義内容 を復習する。 事後学修：授業記録をまとめて 提出する。		30	30	佐藤 陽子	
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ディスカッション PBL）									
教科書	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第3版』日本歯科衛生士会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業内で適宜紹介する									
備考	適宜グループワークを実施する									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として5年以上の臨床経験ある教員および歯科衛生士として 歯科診療所、行政での実務経験と日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を持つ教員が教授する。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
DH-2-DHP-14

科目名	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）				単位認定者	花淵 静 西條 佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

**授業の概要**  
「歯科診療補助法（基礎知識）」、「歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）」で学んだ基礎知識、基本技術を踏まえ、歯科臨床現場を想定し各々の処置や治療に必要な歯科器材を的確に準備し、それらの取り扱いを安全に行うことができる実践的な臨床技術を修得する。また、来院時および診療内容に応じた患者対応について、具体的に実践できる能力を身につける。

- 到達目標**
- ① 各種歯科診療における歯科診療補助の役割と注意点を説明できる。
  - ② 保存修復、歯周治療、口腔外科処置等の診療内容を想定し、歯科医師の指示を理解した上で適切な歯科診療補助を実施できる。
  - ③ 歯科医師の動きを予測し、臨床場面を想定した円滑な共同動作を行うことができる。
  - ④ 各種歯科材料を診療目的に応じて適切に取り扱い、臨床を想定した補助ができる。
  - ⑤ 患者の不安や安全に配慮した声かけ・態度で対応することができる。
  - ⑥ 医療チームの一員としての自覚を持ち、周囲と連携しながら主体的に歯科診療補助に取り組む姿勢を示すことができる。

**学修者への期待等**

- ・欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。
- ・各授業の前には授業計画を確認し、教科書などに目を通してから授業に臨んで欲しい。
- ・演習を行う際には身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	ラバーダム防湿の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章②-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
2	ラバーダム防湿 マネキン演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章②-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。また、シラバス1回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
3	ラバーダム防湿 相互演習 (1) (演習手順説明／術者1人目)	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章②-ラバーダム防湿、『歯科機器』4章⑧-1.ラバーダム防湿用の器材を読み授業に臨むこと。また、シラバス1・2回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
4	ラバーダム防湿 相互演習 (2) (術者2人目、3人目／演習まとめ)				
5	アルジネート印象材各種練和法 基礎演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2.アルジネート印象材による概形印象、『歯科機器』第4章⑩-印象採得用機器を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 三浦 悦子
6	各種練和法による概形印象採得相互演習 (1) (演習手順説明／術者1人目)	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第7章①-2.アルジネート印象材による概形印象、『歯科機器』第4章⑩-印象採得用機器を読み授業に臨むこと。また、シラバス5回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花淵 静 三浦 悦子
7	各種練和法による概形印象採得相互演習 (2) (術者2人目、3人目／演習まとめ)				
8	保険医療制度の概要について	事前学修：保険医療制度について調べてくること。	30	0	伊藤 明日香
9	歯科診療録について（用語および保険解説）	事前学修：シラバス8回目の授業資料を読み授業に臨むこと。	30	0	伊藤 明日香

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	各症例別患者介助および特殊歯科器材の取り扱い演習 (1) (演習手順説明/術者1人目)	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編5章⑨小児歯科治療と歯科診療補助、⑩障害児・者の診療補助『歯科機器』第4章⑮-小児歯科用機器、『小児歯科学』Ⅱ編2章-小児歯科における患者との対応法を読み授業に臨むこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
11	各症例別患者介助および特殊歯科器材の取り扱い演習 (2) (術者2人目、3人目/演習まとめ)				
12	医療面接と各種検査の実践 相互演習 (1)	事前学修:『歯科機器』第4章検査・診断・治療用機器、『保存修復学・歯内療法学』Ⅰ編2章歯および歯周組織の検査を読み授業に臨むこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
13	医療面接と各種検査の実践 相互演習 (2)				
14	訪問歯科診療時の歯科診療補助について基礎知識	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅱ編6章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 伊藤 明日香
15	訪問歯科診療時の診療補助について症例検討 グループワーク	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅱ編6章歯科訪問診療における対応を読み授業に臨むこと。またシラバス第14回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 伊藤 明日香
16	間接法修復(インレー修復)の基礎知識マネキン演習	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章-③合着・接着の補助、Ⅰ編5章①-2.2)間接修復、『保存修復学』Ⅱ編4章間接修復法、『歯科機器』4章⑥切削用機器を読み授業に臨むこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
17	各種セメント余剰部除去法 相互実習 (1) (演習手順説明/術者1人目)	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章-③合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編4章合着材・接着材を読み授業に臨むこと。またシラバス第16回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
18	各種セメント余剰部除去法 相互実習 (2) (術者2人目、3人目/演習まとめ)	事前学修:『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章-③合着・接着の補助、『歯科材料』Ⅱ編4章合着材・接着材を読み授業に臨むこと。また、シラバス第16・17回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
19	診療録ならびに診療報酬明細書の概要について	事前学修:シラバス第8・9回目に配布された授業資料を読み授業に臨むこと。	30	0	伊藤 明日香
20	診療報酬明細書の記入方法および計算方法について	事前学修:シラバス8・9・19回目に配布された授業資料を読み授業に臨むこと。	30	0	伊藤 明日香
21	各症例別診療報酬明細書の記入および計算実践演習 (1)	事前学修:保険点数表を読み事前に点数を把握して演習に臨むこと。	30	0	伊藤 明日香
22	各症例別診療報酬明細書の記入および計算実践演習 (2)	事前学修:シラバス21回目の授業資料を読み授業に臨むこと。	30	0	伊藤 明日香
23	暫間修復物(直接法)作製演習 /口腔内写真撮影 相互演習 (1)	事前学修:2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編3章④-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章8-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花岡 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
24	暫間修復物(直接法)作製演習 /口腔内写真撮影 相互演習 (2)				
25	暫間修復物(直接法)作製実習 /口腔内写真撮影 相互演習 (3)	事前学修:2グループ交代で実習するため、該当実習前に各自『歯科材料』Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメント、『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編3章5-2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』Ⅲ編第2章⑧-2.写真・画像を読み授業に臨むこと。 また、シラバス第23・24回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修:授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	花岡 静 西條 佳奈 三浦 悦子 穴戸 敦子
26	暫間修復物(直接法)作製実習 /口腔内写真撮影 相互演習 (4)				

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
27	歯肉圧排の基礎知識／基礎演習	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編第4章-③. 歯肉圧排、『歯科材料』Ⅱ編11章②-1. 歯肉圧排用綿糸、2. 歯肉圧排用薬剤を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
28	寒天・アルジネートによる精密印象採得相互演習（応用演習） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章①-3. 寒天印象採得の補助を読みアルジネート練和から寒天印象注入、採得までの流れを術者のみで実施できるように事前準備をしておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
29	寒天・アルジネートによる精密印象採得相互演習（応用演習） （術者2人目、3人目／演習まとめ）	事前学修：『歯科診療補助論 第2版』Ⅰ編7章①-3. 寒天印象採得の補助を読みアルジネート練和から寒天印象注入、採得までの流れを術者のみで実施できるように事前準備をしておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
30	歯周外科治療について／各種歯周バック材料の取り扱いについて	事前学修：『歯周病学』第2部-10章歯周外科治療、『歯科材料』Ⅱ編第11章②-3. 歯周バックを読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（基礎演習、取り扱い演習、実践演習、作製演習、マネキン演習、相互演習、グループワーク）				
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 小児歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士講座 歯周病学第6版』永末書店				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
備考	8・9・14・15・19～22回は教室にて合同講義。他はすべてクラス別に講義・演習を8階実習室で行う。3・4回、6・7回、10・11回、12・13回、23・24回、25・26回、28・29回は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。 授業内で配布する実習記録については、授業終了後回収し添削後返却する。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と、歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かして学生が器材の安全な取り扱いと診療に応じた患者対応を修得できるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	臨床検査法				単位認定者	花 潤 静 伊藤 明日香		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	<p>歯科衛生士が、医療現場において臨床検査の基本的知識と、病気をもつ患者に対応するうえでの必要な基本的な態度と技能を修得する。また、人の病態を臨床検査というエビデンスをもって知り、歯科衛生士としてその臨床データという根拠をもって歯科衛生診断、治療、メンテナンスに関わることの重要性について講義、演習を通して理解する。</p>									
到達目標	<p>①臨床検査の目的と医療における役割を説明できる。          ②基本的な検査方法・手順を理解し、正確に実施できる。          ③医療従事者としての倫理観と責任感をもって臨床検査に臨むことができる。</p>									
学修者への期待等	<p>歯科衛生士学生として、臨床検査が口腔や全身の健康を知るために大切であることを理解し、歯科診療補助にどのように活かせるかを考えながら学修に取り組んでほしい。          また、医療に携わる者として、感染対策や安全管理の重要性を意識し、丁寧な姿勢で授業に参加することを期待します。</p>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	1章 臨床検査とは 臨床検査の概要 臨床検査の種類、臨床検査と歯科衛生士の役割				事前学修：vi「臨床検査」執筆の序、第1章 臨床検査とはを読んで授業に臨んでください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	90	花 潤 静	
2	2章 生体検査 生体検査（生理機能検査）について				事前学修：第2章生体検査（生理機能検査）を読んで授業に臨んでください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	60	伊藤 明日香	
3	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度測定）演習（1）				事前学修：シラバス2回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	60	伊藤 明日香 花 潤 静	
4	生体検査（各種検査：体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度測定）演習（2）				事前学修：シラバス2回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	60	伊藤 明日香 花 潤 静	
5	【遠隔（オンデマンド）】 3章 血液学的検査／7章 糖尿病の検査 ／6章 腎機能の検査				事前学修：第3章 血液学的検査／7章 糖尿病の検査／6章腎機能の検査を読んで授業に臨んでください。 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	90	花 潤 静	
6	検体検査（各種検査：尿検査、自己血糖測定）演習				事前学修：シラバス5回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	60	花 潤 静 伊藤 明日香	
7	【遠隔（オンデマンド）】 4章 感染症の検査／9章 免疫・血清学的検査				事前学修：第4章 感染症の検査、9章免疫・血清学的検査を読んで授業に臨んでください。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	90	花 潤 静	
8	1 2章 口腔領域の臨床検査（1）：口臭検査・味覚検査／カンジタ症、シェーグレン症候群の臨床検査 演習				事前学修：1 2章 口腔領域の臨床検査－口臭検査、味覚検査、カンジタ症に臨床検査内容を読んで授業に臨んでください 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	60	花 潤 静 伊藤 明日香	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	1 2 章 口腔領域の臨床検査(2) : 口腔機能低下症に関する検査内容について 演習	事前学修 : 1 2 章 口腔領域の臨床検査 - 口腔機能低下症の診断につながる臨床検査内容を読んで授業に臨んでください 事後学修 : 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	伊藤 明日香 花渕 静
10	1 2 章 口腔領域の臨床検査(3) : 摂食・嚥下スクリーニング検査内容について 演習	事前学修 : 1 2 章 口腔領域の臨床検査 - 摂食嚥下障害の診断につながるスクリーニング検査、精密検査内容を読んで授業に臨んでください 事後学修 : 内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	30	60	伊藤 明日香 花渕 静
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード ( 演 習 )				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 臨床検査』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>備考</b>	シラバス1回目は合同講義/シラバス5・7回目は、遠隔(オンデマンド)による講義/2回目は、合同講義、他、3・4・6・8・9・10回目は、クラス別による講義・演習				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

臨床経験5年以上。歯科診療に従事する中で、臨床検査の重要性を実感しています。また、短大、専門学校での教育経験を基盤とし、授業では臨床現場の知識と最新の研究結果を交え、学生が理解しやすいように授業することを心がけています。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-19				
	●	●								
科目名	介護技術の基礎				単位認定者	高橋 彰彦		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	介護福祉における基礎知識を理解し、高齢者の口腔機能の保持増進へ向けて、その支援に役立つ考え方を理解する。また、臨床の場において対応できる基礎的介護技術を習得する。介護の基本的な考え方や理念を理解し、介護の対象者の特徴を理解するとともに生活支援の考え方を学ぶ。また、自立支援を基にした支援技術を体験する。									
到達目標	1. 介護福祉における基礎知識を説明できる 2. 介護の対象者の特徴を理解し、生活支援の考え方と関連づけて説明できる 3. 自立支援を基にした支援技術（衣服の着脱支援、移動の支援、食事支援）が体験できる									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>“なぜ”の疑問を持ちながら授業に臨み、介護福祉における基礎知識を理解して、その支援に役立つ考え方を学んでほしい。</li> <li>今後、生活や仕事上で高齢者・障害者と関わる上での基本姿勢を学んでほしい。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	介護の基本となるもの（介護の目的、機能、変遷・介護保険）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
2	介護の対象者の理解（高齢者、要介護者、障害者）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
3	介護の場の理解（地域包括ケアシステム、施設・在宅）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
4	介護に必要な視点				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
5	共に働く人々との連携				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
6	利用者の状態に応じた介護（寝たきり）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
7	利用者の状態に応じた介護（認知症）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
8	利用者の状態に応じた介護（視覚・聴覚障害）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
9	利用者の状態に応じた介護（看取り）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
10	利用者の状態に応じた介護（緊急時）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
11	生活支援の介護（動作への援助）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
12	生活支援の介護（食事介助・衣類の着脱）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
13	【演習】生活支援の介護① 衣服の着脱支援				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
14	【演習】生活支援の介護② 移動の支援（車椅子・歩行介助）				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
15	【演習】生活支援の介護③ 食事支援				事前学修：テキストを読む 事後学修：書き取ったノートを読む			5	5	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 演習 ）									
教科書	『新版 写真とイラストですぐわかる！ 安全・やさしい介護術』 橋本正明／監 西東社									
参考文献	適宜、参考資料を配布します。									
備考	授業内課題とは、授業での学びをまとめUNIPA等に提出することを指します。授業内課題は、次回の授業でフィードバックします。13～15回目は2クラスに分かれて授業を実施します。									

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

介護福祉士として23年の実務経験を活かし、実践的な内容を取り入れて講義・実技演習を行う。

<b>科目ナンバリング</b>
DH-2-CLT-02

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

<b>科目名</b>	臨地実習Ⅱ（臨床応用）				<b>単位認定者</b>	伊藤 恵美 佐藤 陽子 大宮 由布子 花淵 静 武山 真奈美 西條 佳奈 伊藤 明日香		<b>評価の方法</b>	実習内容	100 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	歯科衛生学科	必修	2年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	8 単位			
				<b>授業形態</b>	実習	<b>授業時間数</b>	360 時間			
						<b>授業回数</b>	集中			

**授業の概要**  
 本科目では、1年次で修得した学修内容を応用し、より高度で実践的な知識・技術を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。医療機関での臨床実習では、より高度な知識・技術を修得し、自らの歯科保健業務に活かすことについて学ぶ。教育機関、保育機関、福祉施設において、各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。

**学修者への期待等**  
 臨地実習では、学校で学んだ知識や技術を活かし、歯科衛生士の役割を理解しようとする姿勢を大切にしてください。また、医療の現場に立つ一員として、患者さんへの思いやりある態度や言葉遣いを心がけ、責任ある行動をとることを期待します。分からないことはそのままにせず、学ぼうとする気持ちを持って実習に取り組んでください。

授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
<p>1. 実習期間</p> <p>1) 歯科診療所臨床実習：6月～7月、11～12月            2) 東北大学病院実習：11～12月            3) 保育園実習、幼稚園実習：8月～9月（3日間）            保育園実習、幼稚園実習：8月～9月（3日間）            4) 小学校実習：1日間</p> <p>2. 実習の目標</p> <p>1) 歯科診療所実習            医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。            (1) 歯科診療の流れを理解し、それに必要な診療介助技術を習得する。            (2) 歯科衛生士が行う歯科予防処置、歯科保健指導の具体的な内容を理解し、自らも実践できる。修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを体得する。            (3) 1年次、2年次に学内で学んだ知識、技術を臨床現場で実践することにより自己の学習成果を確認する。</p> <p>2) 東北大学病院実習東北大学病院歯科部門において、医科・歯科連携の下で高度な歯科医療に接し、歯科医療チームの一員としての知識・技術・態度を修得する。            (1) 社会人・医療人としての基本的な態度で行動する。            (2) 各診療科の専門性を理解し、他科との連携について学ぶ。            (3) 各診療科の特徴を理解し、歯科衛生業務における共同動作を学ぶ。            (4) 大学病院における医療安全・感染対策の基本を理解する。</p> <p>3) 幼稚園・保育園・こども園実習園児の1日の活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、園児とのコミュニケーション能力を身につける。園児に対する歯科保健指導法を修得する。            (1) 園児の1日の活動の流れを理解する。            (2) 各年齢に合わせて園児とコミュニケーションを取ることができる。            (3) 園児の発達段階による食事内容を理解し、その介助方法を修得する。</p>	<p>事前学修：臨地実習指導の内容、事前準備の確認をして臨むこと。            事後学修：実習の振り返りと自身の課題について取り組むこと。</p>	60	60

授業計画		準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
<p>(4) 年齢に合わせた歯科保健指導計画案を作成することができる。</p> <p>(5) 歯科保健指導計画案に沿った教材を作製し、指導することができる。</p> <p>(6) 各園児に対する個別口腔清掃指導法を修得する。</p> <p>(7) 園児の集団に対する歯科保健指導法を修得する。</p> <p>4) 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習学校歯科健康診断における健診の流れおよび歯科衛生士の事後指導について理解を深め、児童に対する歯科健康教育の具体的な方法を学ぶ。</p> <p>(1) 歯科健康診断の流れを理解し、健診介助ができる。</p> <p>(2) 健診後の結果に基づき児童に合わせた事後指導ができる。</p> <p>(3) 対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。</p> <p>(4) 指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。</p> <p>(5) 対象学年の児童にわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。</p> <p>(6) 歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。</p> <p>3. 実習計画</p> <p>1) 歯科診療所臨床実習 実習項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療室内の環境整備</li> <li>・患者誘導</li> <li>・使用器具・器材・材料の準備・後片付け</li> <li>・診療介助（バキューム／ライティング／器具・器材の受け渡し）</li> <li>・各種検査記録（歯式、歯周検査、O' Leary）・印象採得介助および概形印象採得</li> <li>・各種セメントの取り扱い（合着・仮着・仮封）</li> <li>・各種仮封材の取り扱い</li> <li>・口腔内写真撮影補助</li> <li>・スケーリング（シックルタイプ・超音波スケーラー）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PMT CおよびPT C</li> <li>・う蝕予防処置補助（シーラント／フッ化物塗布）</li> <li>・T B Iおよび保健指導</li> </ul> <p>2) 東北大学病院実習 実習項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指消毒及び器材器具の消毒・滅菌、管理</li> <li>・術前・術後の患者指導及び対応</li> <li>・患者対応及びコミュニケーション</li> </ul> <p>3) 幼稚園・保育園・こども園実習 実習項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児及び保護者、保育士とのコミュニケーション</li> <li>・園児の発達段階に応じた食事内容、摂食方法の理解と食事介助</li> <li>・各園児に対する昼食後の口腔清掃指導及び介助</li> <li>・集団保健指導における指導教材の作製および活用</li> </ul> <p>4) 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習 実習項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科健康診断時の健診介助と事後指導</li> <li>・集団歯科保健指導における各学年に合わせた歯科保健指導案の作成</li> <li>・各学年に合わせた歯科保健指導の実施</li> </ul>			60	60
教科書	1、2年次で、専門展開科目で使用される各教科書			
参考文献	なし			
備考	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。			

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-11				
		●	●	●						
科目名	臨地実習指導（臨床応用）				単位認定者	大宮 由布子		レポート	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	臨地実習Ⅱ（臨床応用）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅰ（臨床基礎）を踏まえ、2年生で必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、必要となる事柄の修得のための学びを深める。									
到達目標	①臨地実習の目的・概要および各施設の特徴、対象者について理解できる。 ②実習に向けて必要な知識・準備を整理し、他者と協力しながら信頼関係を大切にされた態度で実習に臨むことができる。 ③事前課題や実習後の振り返りを通して、自己の課題を明確にし改善できる。									
学修者への期待等	1年次の学修成果を活かし、集団指導では各実習施設や対象者の特徴を理解したうえで、実習メンバーと協力しながら、それぞれに合わせた指導内容を計画し実践できること。臨床では、様々な患者さんへの対応やスタッフとの連携がとれるコミュニケーション能力を身につけ、責任感を持って行動できるように、事前課題や事後の振り返りを行い、常に学ぶ姿勢を忘れずに取り組むことを期待しています。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	相互台小学校・通町小学校 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習の 目的および概要				事前学修：歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』V編2章P405表V-2-1「歯・口の健康づくりのねらいと内容例」、P406表V-2-2「歯・口の健康づくりと食育内容」、表V-2-3発達段階に即した歯みがき指導の重点のを読んでおくこと。事後学修：指導案内に沿って準備に取り組むこと。		30	30	伊藤 明日香	
2	相互台小学校・通町小学校 学校歯科健診・集団歯科保健指導実習 指導案作成 グループワーク						30	30	伊藤 明日香	
3	歯科診療所実習Ⅰ 目的および概要				事前学修：1年次の歯科診療所実習について振り返り、自身の課題を確認しておくこと。各自の実習施設について、特徴および主な診療内容を調べておくこと。事後学修：目的、概要をまとめ課題に取り組むこと。		30	30	大宮 由布子	
4	歯科診療所実習Ⅰ 留意事項の確認 事例検討				事前学修：前時授業内容について復習しておくこと。事後学修：留意事項、事例について復習すること。		30	30	大宮 由布子	
5	歯科診療所実習Ⅰ 報告会①				事前学修：各自、歯科診療所実習Ⅰの振り返りを行いプレゼンテーションの準備をしておくこと。事後学修：実習日誌を確認し、課題への取り組みを行うこと。		60	30	大宮 由布子 伊藤 恵美 佐藤 陽子 花淵 静 武山 真奈美 西條 佳奈 伊藤 明日香	
6	歯科診療所実習Ⅰ 報告会②									
7	保育園実習の目的および概要				事前学修：歯科衛生学シリーズ『歯科予防処置論・歯科保健指導論』V編2章P405表V-2-1「歯・口の健康づくりのねらいと内容例」、P406表V-2-2「歯・口の健康づくりと食育内容」、表V-2-3発達段階に即した歯みがき指導の重点のを読んでおくこと。事後学修：		30	30	花淵 静 武山 真奈美	
8	保育園実習 対象者の理解 保育士の立場から				事前学修：前時の実習指導内容を復習しておくこと。事後学修：授業内容をまとめ、課題に取り組むこと。		60	30	鈴木 享之	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
9	保育園実習 報告会 グループワーク	事前学修：グループ発表の準備をしておくこと。 事後学修：自身の課題や改善点など今後の臨床実習に活かせるように取り組むこと。	60	30	大宮 由布子 伊藤 恵美 佐藤 陽子 花渕 静 武山 真奈美 西條 佳奈 伊藤 明日香
10	保育園実習 報告会 グループワーク				
11	東北大学病院歯科部門臨床実習の目的および概要	事前学修：東北大学病院歯科部門について概要および各診療科の特徴を調べておくこと。 事後学修：目的、概要をまとめ、次回までの課題に取り組むこと。	30	30	佐藤 陽子 伊藤 恵美
12	歯科診療所実習Ⅱの目的および概要	事前学修：歯科診療所実習Ⅰを振り返り、自身の課題を確認すること。歯科診療所実習Ⅱについて、各自の臨床実習施設の特徴および主な診療内容を調べておくこと。 事後学修：目的、概要をまとめ、次回までの課題に取り組むこと。	30	30	大宮 由布子
13	東北大学病院歯科部門臨床実習・歯科医院実習Ⅱ 留意事項および事例検討	事前学修：前時の復習と留意事項の確認、事前課題について取り組んでおくこと。 事後学修：目的、概要をまとめ、次回までの課題に取り組むこと。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子
14	東北大学病院歯科部門臨床実習 報告会	事前学修：各自、実習の振り返りを行い発表の準備をしておくこと。 事後学修：自身の課題や改善点など今後の臨床実習に活かせるように取り組むこと。	30	30	佐藤 陽子 大宮由布子 伊藤恵美 花渕静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香
15	歯科診療所実習Ⅱ 報告会		30	30	
<b>アクティブ・ラーニング</b>	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、プレゼンテーション）				
<b>教科書</b>	専門展開科目で使用する教科書				
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。				
<b>備考</b>	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。 シラバス1・2回、5・6回、9・10回は連続の授業とする。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

各講師は臨床経験豊富な歯科衛生士と保育士教育において教育歴が10年以上の講師で構成され、それぞれの専門分野（感染予防、周術期、摂食嚥下、歯科保健指導、歯科診療補助、歯科予防処置、幼児とのコミュニケーションなど）に特化した内容の授業を行います。学生が臨床現場において安全・確実に実践力を身につけられるような授業を展開します。

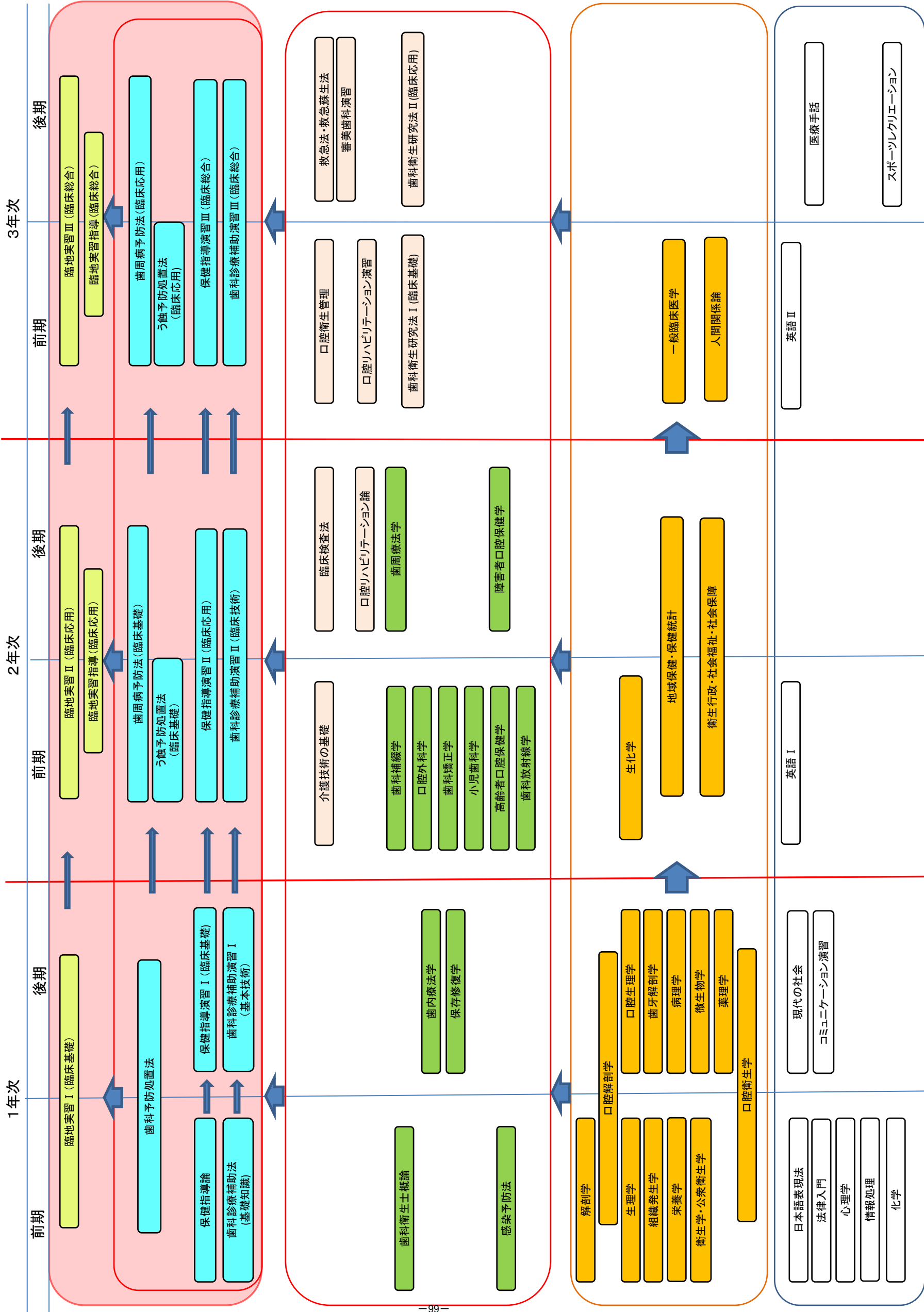
# 歯科衛生学科 3年生

(2024年度入学生)

- カリキュラムツリー
- カリキュラムマップ
- 年間予定表
- シラバス

# 2026年度歯科衛生学科3年生 カリキュラムツリー

- 教養教育分野
- 専門支持科目
- 専門展開科目(講義)
- 専門展開科目(演習)
- 実習



2026年度歯科衛生学科3年 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

- 【基礎力】：一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
  - ①全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
  - ②口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
  - ③自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。
- 【実践力】：各分野の実際の場面に対応できる力
  - ①疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
  - ②安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけて実践できる。
  - ③社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。
- 【人間関係力】：専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
  - ①社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
  - ②保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
  - ③他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。
- 【生涯学習力】：生涯にわたって学び、成長できる力
  - ①学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
  - ②専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
  - ③専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。
- 【地域理解力】：地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
  - ①地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
  - ②地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

学修成果：1 基礎力 2 実践力 3 人間関係力 4 生涯学習力 5 地域理解力  
 学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。  
 ●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分	授業科目の名称	授業回数	履修年次															単位数									
			1年		学修成果					2年		学修成果					3年		学修成果								
			前	後	1	2	3	4	5	前	後	1	2	3	4	5	前			後	1	2	3	4	5		
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	15	○		●																			1		
		英語Ⅰ	15							○		●														1	
		英語Ⅱ	10														○				●					1	
		医療手話	10														○				●	●				1	
		法律入門	15	○		●																				2	
	人間と社会	現代の社会	15		○	●																				2	
		コミュニケーション演習	10		○		●	●																		1	
		心理学	10	○		●		●																		1	
	人間と科学	情報処理	15	○		●																				1	
		化学	10	○		●																				1	
スポーツレクリエーション		10															○		●	●					1		
専門支持科目	人体の構造と機能	解剖学	15	○		●																				2	
		生理学	15	○		●																				1	
		組織発生学	10	○		●																				1	
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	20		○	●																					2
		口腔生理学	15		○	●																					2
		歯牙解剖学	10		○	●																					1
		病理学	15		○	●																					1
	疾病の成り立ちと回復	微生物学	15		○	●																					1
		薬理学	15		○	●																					1
		栄養学	10		○	●																					1
		生化学	10								○		●														1
	健康と予防に関わる人間の社会の仕組み	一般臨床医学	10								○		●														1
		衛生学・公衆衛生学	15		○	●												○		●							1
		口腔衛生学	30		○	●																					2
		地域保健・保健統計	20								○		●														2
		衛生行政・社会福祉・社会保障	20								○		●														2
		人間関係論	10															○		●		●					1
		歯科衛生士概論	15		○	●			●																		2
	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	15		○	●			●																		2
		歯内療法学	10		○	●																					1
		保存修復学	10		○	●																					1
		歯周療法学	15								○		●														1
		歯科補綴学	15								○		●														1
		口腔外科学	15								○		●														1
		歯科矯正学	15								○		●														1
		小児歯科学	15								○		●														1
		高齢者口腔保健学	10								○		●														1
		障害者口腔保健学	10								○		●														1
		歯科放射線学	15								○		●														1
		口腔衛生管理	10															○		●							1
歯科予防処置論		歯科予防処置法	30		○	●																					2
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	10																								1
	歯周病予防法（臨床基礎）	30								○		●	●													2	
	う蝕予防処置法（臨床応用）	10															○		●							1	
	歯周病予防法（臨床応用）	20															○		●							2	
	保健指導論	15		○	●																					1	
	保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	15		○	●	●	●																			1	
歯科保健指導論	保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	30								○		●	●													2	
	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	30									○		●	●												2	
	口腔リハビリテーション論	10										○	●													1	
	口腔リハビリテーション演習	10										○	●													1	
歯科診療補助論	歯科診療補助法（基礎知識）	20		○	●																					2	
	歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	20		○	●	●																				2	
	歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	30									○		●	●												2	
	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	20															○		●	●						2	
	感染予防法	10		○	●	●																				1	
	臨床検査法	10									○		●	●												1	
実習	救急法・救急蘇生法	15															○		●	●						1	
	介護技術の基礎	15								○		●	●													1	
	審美歯科演習	10															○		●	●						1	
	臨床実習Ⅰ（臨床基礎）	集中		○	●	●	●																			4	
	臨床実習Ⅱ（臨床応用）	集中									○		●	●	●	●										8	
	臨床実習指導（臨床応用）	15									○		●	●	●											1	
特別科目	臨床実習Ⅲ（臨床総合）	集中															○		●	●	●	●			8		
	臨床実習指導（臨床総合）	15															○		●	●	●				1		
	歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	15															○		●						1		
	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	15															○		●						1		
総計（卒業要件100単位以上）													93	9													

## 2026年度 歯科衛生学科3年生 年間予定表

### 前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2 オリエン テーション	3	4
	5	6	校内模擬試験	7	8	健康診断	9	10	11
	12	13		14	15		16	17	18
	19	20		21	スポーツ大会	22	23	24	25
	26	27		28		29	昭和の日	30	1
5月	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7
	10		11		12		13	14	15
	17	18	校内模擬試験	19	歯科医院実習	20	歯科医院実習	21	歯科医院実習
	24	25	歯科医院実習	26	歯科医院実習	27	歯科医院実習	28	歯科医院実習
	31	1	歯科医院実習	2	歯科医院実習	3	歯科医院実習	4	歯科医院実習
6月	7	8	歯科医院実習	9	歯科医院実習	10	歯科医院実習	11	歯科医院実習
	14	15	実習報告会	16		17		18	19
	21	22		23		24		25	26
	28	29		30		1		2	3
7月	5	6		7	8		9	10	11
	12	13	歯科医院実習	14	歯科医院実習	15	歯科医院実習	16	歯科医院実習
	19	20	海の日	21	歯科医院実習	22	歯科医院実習	23	歯科医院実習
	26	27	歯科医院実習	28	歯科医院実習	29	歯科医院実習	30	歯科医院実習
8月	2	3	歯科医院実習	4	歯科医院実習	5	歯科医院実習	6	歯科医院実習
	9	10		11	山の日	12		13	14
	16	17	実習報告会	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験
	23	24	追試験	25	夏休み	26	夏休み	27	夏休み
	30	31	夏休み	1	夏休み	2	不合格者発表	3	夏休み
9月	6	7	再試験	8	再試験	9	夏休み	10	夏休み
	13	14	夏休み	15	再試験結果発表 /夏休み	16	夏休み	17	夏休み
	20	21	敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	模擬試験
	27	28	歯科医院実習	29	歯科医院実習	30	歯科医院実習		

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。  
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。  
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

## 2026年度 歯科衛生学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1 歯科医院実習	2 歯科医院実習	3
	4	5 歯科医院実習	6 歯科医院実習	7 歯科医院実習	8 歯科医院実習	9 歯科医院実習	10	
	11	12 スポーツの日	13 歯科医院実習	14 歯科医院実習	15 歯科医院実習	16 歯科医院実習	17	
	18	19 歯科医院実習	20 歯科医院実習	21 歯科医院実習	22 歯科医院実習	23 実習報告会	24	
	25	26	27	28	29	30	31 せいよう祭	
11月	1	2	3 文化の日	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23 勤労感謝の日	24	25 上杉山通小学校実習	26 上杉山通小学校実習	27	28	
	29	30	1	2	3 模擬試験	4	5	
12月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23 模擬試験	24 冬休み	25 冬休み	26	
	27	28 冬休み	29 冬休み	30 冬休み	31 冬休み	1 冬休み	2	
1月	3	4 冬休み	5 冬休み	6 定期試験	7 定期試験	8 定期試験	9	
	10	11 成人の日	12 模擬試験	13 追試験	14	15	16	
	17	18	19	20 不合格者発表	21	22	23	
	24	25 再試験	26 再試験	27	28 再試験結果発表	29	30	
	31	1	2	3	4	5	6	
2月	7	8	9	10	11 建国記念日	12	13	
	14	15	16	17	18 模擬試験	19	20	
	21	22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	
	28	1	2	3	4	5	6	
3月	7 国家試験	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16 前日登校日	17 卒業式	18	19	20	
	21	22 春分の日	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HCU-01				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位認定者	細川 亮一		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	歯科医療現場に必要な単語を使った英会話を学ぶ。歯科医療現場で外国人の患者さんと接する機会が増えているが、そうした場面で、外国人の方々の不安や苦痛を理解し、的確な質問や説明を英語でできるようになることを目指す。									
到達目標	英語を用いたコミュニケーションのツールを作成することを通して、安心した歯科医療を提供できるスキルを身につける。									
学修者への期待等	コミュニケーション能力を伸ばすため、積極的な授業への参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	授業のイントロダクション (授業概要・受講上の留意点)、英語で自分の特徴を知ろう				事前学修：アクティブワークを行います。7.5X2.5cmの付箋紙の束を用意してください。			0	0	
2	歯科治療で用いる英単語				事後学修：これまでに習った歯科の単語の英語表現を調べてください。			0	30	
3	受付と電話での英会話 1 初診患者				事後学修：日本語で良いので問診票などのようなことを患者さんに聞かまともめてください			0	30	
4	受付と電話での英会話 2 予約の変更				事後学修：覚えたフレーズの発音の練習をしてください。			0	30	
5	ユニットでの英会話 1 初診の問診 ユニットの動かす				事後学修：日本語で良いので患者さんに聞かまともめてください。			0	30	
6	ユニットでの英会話 2 アシスタントワーク				事後学修：覚えたフレーズの発音の練習をしてください。			0	30	
7	これまでのまとめ (外国人が来院したことを想定して) グループワーク				事後学修：覚えたフレーズの発音の練習をしてください。			0	30	
8	治療の説明 1 歯周治療の原因と流れを説明				事後学修：覚えたフレーズの発音の練習をしてください。			0	30	
9	治療の説明 2 う蝕とその予防についての説明				事後学修：覚えたフレーズの発音の練習をしてください。			0	30	
10	まとめ 授業内課題のフィードバック				事前学修：これまでの疑問点をまとめてください。			30	0	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ( グループワーク )									
教科書	適宜資料を配布する。									
参考文献										
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
University Southern Californiaにて、学生指導歴 (5年) 開業歯科医師として英語による診療 (8年)

科目ナンバリング
DH-0-HCU-02

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目名	医療手話				単位認定者	奥田 育代		評価の方法	試験 (筆記、実技)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	10 回			

**授業の概要** 聴覚障害者の言語である手話について、日本語とは異なる言語体系であることを理解し、手話での簡単な挨拶や会話を修得する。「ろう者」の価値観、障害の特徴などを理解し、「ろう者」とのコミュニケーションについて知る。また、歯科医療現場で聴覚障害者の患者と接する場面での対応について学ぶ。

**到達目標** 日常生活に必要な手話単語や指文字を自然な順序で習得、聴覚障害やろう文化を理解し、手話の読み取り力や表現力を身につけてコミュニケーションの原点とは何かを体験的に知ることができる。手話での簡単な挨拶や会話ができるようになる。

**学修者への期待等** 手話は言語コミュニケーションに「目」や「身体」を使います。音声なしで授業を進めますので、「音のない世界」で体感してください。授業外でも友達と手話を使って会話する反復訓練が効果的です。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	名前（自分の名前、友達の名前、挨拶、数字など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：手話は目で見ることばである。メガネ等の必要な方は準備して授業に臨むこと。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	0	60	奥田 育代
2	家族（親族名称、家族構成など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：予習として「指文字」から自分の名前を調べて授業に臨むこと。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
3	自己紹介（出身地（都道府県）、現住所（市町村）など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「名前」「家族」を復習しておくこと。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
4	カレンダー（月日、曜日、休日、一日の流れなど） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「自己紹介」を復習すること。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
5	タイムテーブル（時刻、家、学校での行動など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「カレンダー」を復習すること。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
6	通勤通学（交通手段、交通経路、天候など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「タイムテーブル」を復習すること。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
7	食習慣（食べ物、好き/嫌い、回数など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「通勤通学」を復習すること。 事後学修：配布プリントを用いて復習しておくこと。	30	30	奥田 育代
8	趣味（趣味、回数など） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「食習慣」を復習すること。 事後学修：小テストや配布プリントを用いて復習しておくこと。	60	30	奥田 育代
9	まとめ（医療手話） ペアワーク、グループワークで実践する	事前学修：「趣味」を復習すること。 事後学修：小テストや配布プリントを用いて復習しておくこと。	60	30	奥田 育代
10	ろう者と会話（自己紹介、質問回答）	事前学修：ろう者と直接コミュニケーションを図るため、これまで学習してきた手話、指文字を復習すること。 事後学修：これまで配布したプリントをまとめて、復習しておくこと。	60	30	奥田 育代 半澤 啓子 石黒 節子 遠藤 里美

**アクティブラーニング** 該当なし  
該当あり：キーワード（ ペアワーク、グループワーク ）

**教科書** 『手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう【全面改訂版】』 全国手話研修センター

**参考文献** 『改訂新版 はじめての手話 初歩からやさしく学べる手話の本』 木村晴美・市田泰弘著 生活書院

**備考** 2クラスに分かれて授業を実施します。いすのみを半円型に設営し、学修を進めます。授業内課題は、添削後に授業内でフィードバックを行います。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**  
教員は宮城県手話通訳者養成講座における6年の実務経験に加え、専門学校や大学にて非常勤講師として手話指導を行っています。また、盲ろう通訳・介助員としての経験も有しており、これらの経験を活かした実践的な授業を提供します。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-0-HSC-01				
	●	●								
科目名	スポーツレクリエーション				単位認定者	菅原 一昭		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	スポーツレクリエーションを通じて、集団活動での協調性、安全についての理解を深めるとともに、集団活動から全体の規律・態度を学ぶ。また、子どもから高齢者・障がい者及び幅広いライフステージでの心身の発育とその特徴を学修し、歯科保健活動の際の導入段階としてレクリエーションを楽しく活用できる能力を養う。更に、運動の楽しさや喜びを深く体験することを通して、心身ともに健康な生活が送れる習慣を身につける。									
到達目標	レクリエーション支援活動を通じて、幼児・児童、高齢者、障がい者に対する理解を深め、歯科保健活動において積極的にレクリエーション支援活動を取り入れる。また、自分自身でも生涯を通じて心身ともに健康を送れるような生活習慣が身につけること。									
学修者への期待等	幼児・児童・高齢者・障がい者に対するレクリエーション支援の方法を学習し、実践すること。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンス（講義の概要・バス・体育館説明・評価方法等） レクリエーション支援に関わる諸理論 レクリエーションの意義と役割 アイスブレイキング、ホスピタリティ理論 （地下ラウンジ）				事前学修：レクリエーションとは何か。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
2	歯科保健活動での幼児・児童に対するレクリエーション理解 身近にある知育のアイデア 知育の効果を上げるプランニング等 （地下ラウンジ）				事前学修：幼児・児童に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
3	歯科保健活動での高齢者に対するレクリエーション理解 楽しむためのサポートポイント レクリエーション支援の組み立て方、展開方法 （地下ラウンジ）				事前学修：高齢者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
4	歯科保健活動での幼児・児童を対象とした計画・実施の流れ 企画書作成、グループ発表 （地下ラウンジ）				事前学修：各対象者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
5	高齢者に対するレクリエーション支援活動 高齢者の介護予防支援におけるスポーツレクリエーションの取り組み事例から学ぶ （体育館）				事前学修：各対象者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
6										
7	障がい者に対するレクリエーション支援活動 障がい者の自立支援におけるスポーツレクリエーションの 取り組み事例から学ぶ （体育館）				事前学修：各対象者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
8										
9	生涯に繋がるスポーツレクリエーション活動 多様なスポーツレクリエーションの実践事例から学ぶ 総括 （体育館）				事前学修：各対象者に対するレクリエーション支援活動についての意義について理解を深めておく。 事後学修：配布されたプリントは、回収し授業内課題として評価する。			30	30	
10										
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	なし									
参考文献	必要に応じて文献・資料を用意する。									
備考	1～4回目は、地下ラウンジにて実施。（座席については、初回時スライドに投影いたしますので、各自確認すること）。 5～10回目は、体育館にて実施。（上下運動着、上靴持参）。土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。 授業内課題は、添削後に授業内でフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。福祉レクリエーション・ワーカー資格取得。										

科目ナンバリング
DH-1-DHB-12

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●				

科目名	一般臨床医学				単位認定者	小野寺 健		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	歯科を受診する患者の多くが生活習慣病などの何らかの疾患を持っていると考える必要がある。その対応のために、口腔内のみならず、全身管理の視点を持つ必要がある。本科目では歯科衛生士として必要な一般的な臨床医学の知識と主要な疾患の概要を理解する。									
到達目標	歯科衛生士として学ぶべき全身疾患の基礎知識を身につける。また、全身疾患がある患者さんに対しての歯科治療を行う際の注意点を学ぶ。									
学修者への期待等	多様な価値観と様々なライフステージの対象を理解するため、「人間」「環境」「健康」について知識を身につけ、人々の健康保持・増進に向けて歯科衛生士としての役割を考えてほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	代謝性疾患—先天性代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、痛風など。内分泌疾患—視床下部・下垂体系、副腎疾患、甲状腺疾患など				事前学修：教科書の代謝・内分泌疾患に目を通しておくこと。		20	0	伊藤 恵美	
2	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解				事前学修：教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。		30	0	佐藤 理恵	
3	老化と加齢変化、精神・神経障害、認知症、脳血管障害、パーキンソン病など				事前学修：教科書の神経疾患、精神疾患に目を通しておくこと。		30	0	伊藤 恵美	
4	妊娠・出産・産褥の理解				事前学修：教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。		30	0	佐藤 理恵	
5	アレルギー性皮膚疾患				事前学修：事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通すこと。		30	0	柿沼 誉	
6	皮膚感染症、皮膚腫瘍				事前学修：事前に配布される教科書の「皮膚疾患」の項に目を通すこと。		30	0	柿沼 誉	
7	子どもの成長発達・食行動の発達の理解								佐藤 幸子	
8	基本的な聴覚系・前庭系の生理解剖を学ぶ				事前学修：聴覚器の構造を把握しておくこと。		20	0	渡邊 弘人	
9	子どもの健康教育・指導に必要な基礎知識、感染症・発達障害など								佐藤 幸子	
10	聴覚系・前庭系の疾患、治療、対応を学ぶ				事前学修：自分が耳鼻咽喉科疾患になった時の症状を思い出すこと。		20	0	渡邊 弘人	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』橋本賢二・増本一真編著、医歯薬出版株式会社 他に適宜プリントを配布する。									
参考文献	なし									
備考	レポート課題などが出題された場合は回収後、採点し、次回総括する。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

各講師は、専門分野における臨床経験と教育歴があり、歯科臨床において必要な全身疾患の基礎知識について授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-1-DHB-18				
	●		●							
科目名	人間関係論				単位認定者	今井 恵美子		試験 (最終レポート)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	事前・事後課題	35	%
				授業形態		講義	授業時間数		20 時間	ロールプレイ演習 振り返りシート
	授業回数	10 回	受講態度	10	%					
授業の概要	良好な人間関係の構築には互いを理解する必要がある。日常生活や臨床の場において経験する人間関係のプロセスやメカニズムについて社会心理学的視点を通して理解を深める。さらに、臨床の場における患者—治療者関係は信頼が基盤となる。治療の関係と個人的関係を明確に区別できることが大切で、そこに生じる医療倫理について学ぶ。									
到達目標	医療現場における人間関係の重要性を理解し、スタッフや患者との信頼関係を築くためのコミュニケーション技法を習得する。チーム医療における協働の在り方を理解する。実践的なロールプレイを通じて対応力を高める。									
学修者への期待等	実践につながる講義と実践できるロールプレイ演習をペアワーク等で実施していきます。学修者間の関係が緩いと相互学修の成果が高まりにくくなります。授業環境も学修者一人ひとりの意識と認識によるものと捉え、相互の意識変容と行動変容につながる学修態度を期待する。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	オリエンテーション 社会・医療における人間関係の意義（関係性の基本）				事前学修：人間関係とは何か短文にまとめて参加 事後学修：本科目の目標を設定し提出				30	30
2	自己理解と他者理解（ジョハリの窓、自己開示、アイデンティティ）				事前学修：ジョハリの窓について調べて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
3	コミュニケーションの基本（バーバル・ノンバーバルメッセージ）				事前学修：相手に与える印象についてまとめて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
4	患者とのコミュニケーション①理論編（傾聴、共感、説明責任、インフォームドコンセント）一部ペアワークを含む				事前学修：話の聞き方と話し方の課題をまとめて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
5	患者とのコミュニケーション②一部ロールプレイング（初診対応、緊張する患者への声掛けの演習）				事前学修：4回目の復習をして参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
6	医療スタッフ間の関係性（チーム医療、役割分担、連携）一部ペアワーク				事前学修：実習時に感じた自己の課題をまとめて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
7	コンフリクトとその対処（対立の原因、アサーティブコミュニケーション）一部ペアワーク				事前学修：心地よくないと感じる言葉を2つあげて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
8	患者対応ロールプレイ応用編（クレーム対応）				事前学修：7回目の復習をして参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
9	キャリアと人間関係（感情労働、バーンアウト、セルフケア、ディーセントワーク）				事前学修：この職業を目指した理由をまとめて参加 事後学修：指定した課題を提出				30	30
10	まとめと振り返りと最終レポートについて（自己評価、今後の課題）				事前学修：これまでの講義で一番印象に残った回について、その理由を含めまとめて参加 事後学修：最終レポートを作成し提出				30	90
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ロールプレイング、ペアワーク）									
教科書	なし									
参考文献	ケア・コミュニケーション（ウイネット）他、必要に応じて提示する。									
備考	1. 受講者の理解度・効果等により講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 2. フィードバック方法は、授業内にて実施する。									

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医療系専門学校で教員として20年、主に秘書実務・医療秘書実務・患者接遇等の科目を担当しました。秘書検定1級・サービスマン接遇検定1級・キャリアコンサルタント資格を有しており、その知識と経験をいかし実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHC-12				
	●									
科目名	口腔衛生管理				単位 認定者	伊藤 恵美		試験 (筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		20 時間	
				授業回数		10 回				
授業の概要	う蝕や歯周疾患の口腔疾病の予防だけではなく、周術期や病院の病棟でのオーラルマネージメントおよびチーム医療の一員として他職種との連携に必要な基礎知識を学び、全身疾患を持つ患者に合わせた口腔衛生管理を実践できる能力を養う。今後は病院だけでなく、診療室または在宅での口腔衛生管理の質を高める必要がある。本科目では、術後の肺炎の予防、手術部位の感染予防、口腔疾患の予防、全身麻酔の挿管時における動揺歯や抜歯すべき歯の発見、抗がん剤治療に伴う口腔衛生管理の知識、緩和ケアにおける口腔衛生管理の技術を修得する。									
到達目標	1. 周術期における口腔管理の目的を理解し、チーム医療の意義と歯科の役割を理解する。 2. 全身疾患を持つ患者の口腔の特徴を理解し、対象者に合わせた口腔衛生管理の手技を修得する。									
学修者への期待等	歯科衛生士の視点から、患者の管理をながら欠席せず、予習・復習をして意欲的に臨んで欲しい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	有病者の口腔管理について（概要） 全身疾患と歯科診療における注意点・対応（代謝内分泌疾患）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
2	全身疾患と歯科診療における注意点・対応（消化器疾患、循環器疾患）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
3	全身疾患と歯科診療における注意点・対応（血液疾患）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
4	全身疾患と歯科診療における注意点・対応（呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患）、全身麻酔下での手術における口腔衛生管理				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
5	全身疾患と歯科診療における注意点・対応（免疫疾患・膠原病、感染症、神経症、精神疾患）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
6	周術期における口腔管理（概要） 周術期における口腔衛生管理（がん薬物療法における口腔健康管理）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
7	周術期における口腔衛生管理（頭頸部放射線療法、終末期医療における口腔衛生管理）				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
8	周術期における口腔衛生管理の実際 クラス別演習 演習室 グループワーク				事前学修：教科書の該当ページを読んでおくこと。 事後学修：本日の復習をしておくこと。		30	30	伊藤 恵美	
9	周術期患者の口腔管理について（歯科の役割） グループワーク				事前学修：周術期患者の口腔状況について調べておくこと。		30	30	伊藤 恵美 小野 ゆかり	
10	周術期における口腔管理の実際 グループワーク				事前学修：病院の歯科衛生士の役割について調べてくること。		30	30	伊藤 恵美 小野 ゆかり	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』 医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版』 医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック』 医歯薬出版株式会社									
参考文献	『周術期口腔機能管理の基本がわかる本 ～基礎知識から口腔管理の実際まで～』 株式会社シエン社 『これからはじめる周術期口腔機能管理マニュアル』 株式会社永末書店									
備考	シラバス1～7、9・10回目は合同授業、8回目はクラス別で7階実習室で実施する。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。 授業の進捗状況により順番が前後することがある。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科衛生士として大学病院にて12年以上従事してきた経験から、有病者および周術期患者の口腔衛生に関わる具体的な事例を示しながら授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-04				
		●								
科目名	う蝕予防処置法（臨床応用）				単位認定者	鷺尾純平 佐藤聡子 伊藤恵美 武山真奈美		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		20 時間	
				授業回数		10 回				
授業の概要	「歯科予防処置法」「う蝕予防処置法（臨床基礎）」で学んだ、う蝕予防法の基本的知識・技術をもとに、フッ化物の応用法と小窩裂溝処置法の手技を修得する。また、歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメンテナンスの必要性を理解し、う蝕予防プログラムの実践の手技を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>う蝕予防処置の方法と特徴を説明できる。</li> <li>各種う蝕予防処置法の手順を理解し、安全かつ正確に実施できる。</li> <li>う蝕予防プログラム立案までのプロセスを説明できる。</li> <li>対象者に合わせたう蝕予防プログラムの立案を実践できる。</li> </ol>									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。</li> <li>②提出物は、期日を守って提出すること。</li> </ol>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	小窩裂溝充填法とは？ 【合同講義】				事前学修：テキストの該当部分を通読し、自分なりの不明点や疑問点を抽出しておくこと 事後学修：講義プリントの復習			30	30	佐藤 聡子
2	小窩裂溝充填法 模型実習 【クラス別演習】				事前学修：前回までの講義をよく復習したうえで、演習に臨むこと 事後学修：講義プリントの復習			30	30	佐藤 聡子 武山 真奈美 西條 佳奈
3	フッ化物の応用（フッ化物歯面塗布・フッ化物洗口の方法及び効果、フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法） 【クラス別演習】				事前学修：教科書Ⅲ編3章③-フッ化物の応用を読み、内容を復習して演習に臨むこと 事後学修：実習記録をまとめること			30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
4	フッ化物歯面塗布法／フッ化物洗口 相互演習① 【クラス別演習】 グループワーク				事前学修：シラバス3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと 事後学修：実習記録をまとめること			30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
5	フッ化物歯面塗布法／フッ化物洗口 相互演習② 【クラス別演習】 グループワーク				事前学修：シラバス3回の授業資料および実習記録を確認しておくこと 事後学修：実習記録をまとめること			30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
6	う蝕活動性試験 演習① 各種試験の取り扱い 【クラス別演習】 グループワーク				事前学修：教科書Ⅲ編2章⑧-4. う蝕に関する検査を読み、う蝕活動性試験の復習して演習に臨むこと 事後学修：実習記録をまとめること			30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
7	う蝕活動性試験 演習② データの解釈 【クラス別演習】 グループワーク				事前学修：シラバス6回の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：実習記録をまとめること			30	30	伊藤 恵美 武山 真奈美
8	う蝕予防プログラムの立案（基本） 【合同講義】				事前学修：事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい 事後学修：講義プリントの復習			30	30	鷺尾 純平
9	う蝕予防プログラムの立案（アドバンス） 【合同講義】				事前学修：事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい 事後学修：講義プリントの復習			30	30	鷺尾 純平
10	まとめ・総復習				事前学修：事前の指示に沿って、予習を行ったうえで、講義に臨むことが望ましい 事後学修：講義プリントの復習			30	30	鷺尾 純平
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 演習、グループワーク ）									
教科書	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社									
備考	2～7回は2クラスに分かれて演習を行う。2～7回目は8階演習室。授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。実習（授業）記録課題については、添削後に返却しフィードバックを行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

【鷺尾】歯科医師としての臨床経験、大学における教育経験を十分に有しており、その実務経験を活かし、う蝕予防及びその処置に関して具体的な授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-05				
		●								
科目名	歯周病予防法（臨床応用）				単位認定者	伊藤 恵美		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		40 時間	
				授業回数		20 回				
授業の概要	「歯科予防処置法」「歯周病予防法（臨床基礎）」で学んだ、歯周病予防法の知識・技術をもとに、歯科衛生士としての専門知識・技術を修得し、相互演習を通して実践する力と態度を学ぶ。また、歯と口腔の健康を維持・増進のために継続的なメンテナンスの必要性を理解し、歯周管理の実践の手技を修得する。									
到達目標	1. 対象者の口腔内状態や生活背景を踏まえ、歯周病予防に必要な技術を適切に選択・応用し、継続的な口腔衛生管理を実践できる能力を身につける。 2. 安全性と効果を考慮しながら施術することができる。									
学修者への期待等	1. 身だしなみをきちんと整え、教科書等の忘れ物がないように授業に臨むこと。 2. 欠席・欠課をしないよう意欲的臨んでほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	歯周治療における歯科衛生士の役割（歯周治療の流れと歯科衛生士業務）、メンテナンス、SPTの実際（歯周組織検査）、業務記録の書き方 プロローピングマネキン演習				事前学修：教本Ⅱ編「③歯周病」をよく読んでおくこと。 事後学修：本日の復習を行う。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美	
2	歯周組織検査演習（患者1、2、3） グループワーク				事前学修：歯周組織検査について復習をしていくこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
3	歯周組織検査演習（1、3年合同演習） グループワーク 相互実習説明（流れ、記録の記入について）				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
4	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者1人目）、確認染め出し				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
5	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者2人目）、確認染め出し				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
6	歯周組織検査、PTC演習（手用スケーラー、超音波スケーラー、歯面研磨）グループワーク（患者3人目）、確認染め出し				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
7	PTC相互演習 患者1人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
8	PTC相互演習 患者2人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	
9	PTC相互演習 患者3人目（上下 術者交代） クラス別演習 グループワーク				事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。		30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	S R P後の評価と処置 演習1 ①イリゲーション、②手用スケーラー、EPP、③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
11	S R P後の評価と処置 演習2 ①イリゲーション、②手用スケーラー、EPP、③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
12	S R P後の評価と処置 演習3 ①イリゲーション、②手用スケーラー、EPP、③超音波スケーラー クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
13	PTC相互演習 患者1人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
14	PTC相互演習 患者2人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
15	PTC相互演習 患者3人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
16	PTC相互演習 患者1人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
17	PTC相互演習 患者2人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
18	PTC相互演習 患者3人目 クラス別演習 グループワーク	事前学修：前回の復習をして授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
19	手用スケーラーの固定法（口腔外固定、保持固定） クラス別演習 グループワーク	事前学修：教本の「固定法」をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美 北村 麻衣
20	手用スケーラー シャープニング クラス別演習 まとめ	事前学修：教本の「シャープニング」をよく読んで授業に臨むこと。 事後学修：本日の演習を振り返り実習記録を書いて提出する。	30	30	伊藤 恵美 武山真奈美
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、演習）				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士講座 歯周病学 第5版』永末書店				
<b>参考文献</b>	『歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>備考</b>	全てクラス別演習を行う。 授業の冒頭で目標を示し授業の最後にまとめを行う。演習レポート・課題は提出期限厳守。添削後、返却する。授業の進捗状況により順番が前後することがある。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科診療所に18年、大学病院に12年勤務し、歯周病患者の口腔管理を行ってきた経験から、歯周病における歯科衛生士の役割と手法について授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-09				
		●	●							
科目名	保健指導演習Ⅲ（臨床総合）				単位 認定者	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香		評価の方法	試験（筆記）	70 %
									試験（実技）	10 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回	授業内課題	10 %	
授業の概要	「保健指導論」、「保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）」、「保健指導演習Ⅱ（臨床応用）」を通して学んだ内容について、歯科衛生過程を用いて、実践する能力を身につける。									
到達目標	①歯科衛生過程（歯科衛生ケアプロセス）に基づいた思考および実践ができる。 ②各症例または事例における問題発見、解決方法を選択できる。 ③口腔健康管の意義を理解し、口腔清掃指導を実践できる。									
学修者への期待等	1年次、2年次に学んだ基礎および臨床科目の内容について、より実践的に取り組む授業です。欠席せず、予習・復習をしっかりと行い、意欲的に受講してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	歯科衛生過程 事例検討				事前学修：歯科衛生ケアプロセス実践ガイドⅡ編「歯科衛生ケアプロセスを臨床に活かしてみよう」、1年次～2年次の保健指導演習で学んだ内容を復習して授業に臨むこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	佐藤 陽子	
2	歯科衛生過程 事例検討（グループワーク）				事前学修：前時授業の復習とグループワークにむけ予習をすること。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	佐藤 陽子	
3	歯科衛生過程演習Ⅰ 1・3合同実習概要説明				事前学修：前時の講義内容および歯科衛生ケアプロセス実践ガイドⅡ編 歯科衛生ケアプロセスを臨床に活かしてみようP20～82を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	佐藤 陽子	
4	歯科衛生過程演習Ⅰ 相互演習(1)/（術者1人目）				事前学修：前時の授業内容および1・3合同実習の概要資料を確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
5	歯科衛生過程演習Ⅰ 相互演習(2)/（術者2、3人目）				事前学修：前時の授業内容および1・3合同実習の概要資料を確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
6	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 前半 相互演習(1)/（術者1人目）				事前学修：前時の授業内容および1・3合同実習の概要資料を確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
7	歯科衛生過程演習Ⅱ 1・3合同実習 前半 相互演習(2)/（術者2、3人目）				事前学修：前時の授業内容および1・3合同実習の概要資料を確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
8	歯科衛生過程演習Ⅲ 1・3合同実習 後半 相互演習(1)/（術者1人目）				事前学修：歯科衛生過程演習Ⅰで実践した内容を復習し、対象者に合わせた歯科保健指導について予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
9	歯科衛生過程演習Ⅲ 1・3合同実習 後半 相互演習(2)/（術者2、3人目）				事前学修：歯科衛生過程演習Ⅰで実践した内容を復習し、対象者に合わせた歯科保健指導について予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。		30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子	
10	歯科衛生過程演習Ⅳ （口腔衛生指導の評価） プレゼンテーション演習(1)/Aグループ				事前学修：歯科衛生過程演習Ⅱで実施した内容についてプレゼンテーションできる準備をしておくこと。 事後学修：実施した感想、改善点などを授業記録にまとめること。		60	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香	
11	歯科衛生過程演習Ⅳ （口腔衛生指導の評価） プレゼンテーション演習(2)/Bグループ				事前学修：歯科衛生過程演習Ⅱで実施した内容についてプレゼンテーションできる準備をしておくこと。 事後学修：実施した感想、改善点などを授業記録にまとめること。		60	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	要介護高齢者の口腔管理 (義歯の取り扱い、スポンジブラシ)	事前学修：2年次に学んだライフステージ(要介護高齢者)について復習し、教科書Ⅲ編4章①-2、5)スポンジブラシ、7)義歯用ブラシ、4義歯洗浄剤、安定剤を読んでおくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
13	在宅訪問口腔衛生管理 (車椅子上での口腔清掃方法、清掃用具の選択他)	事前学修：2年次に学んだライフステージ(要介護高齢者)、高齢者歯科学、前時の授業について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
14	在宅訪問口腔衛生管理 相互実習	事前学修：2年次に学んだライフステージ、高齢者歯科学、前時の授業について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
15	要介護高齢者における食支援の考え方	事前学修：2年次のライフステージ、高齢者歯科学について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子
16	要介護高齢者における食支援・食介助	事前学修：前時の授業について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子
17	ライフステージ別ブラッシング指導(各種歯ブラシの特徴)	事前学修：2年次に学んだライフステージ、各種口腔清掃用具について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
18	ライフステージ別ブラッシング指導の実際	事前学修：2年次に学んだライフステージ、各種口腔清掃用具について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
19	禁煙支援 喫煙による口腔への影響について (演習)	事前学修：2年次に学んだライフステージ(成人期)について復習し、教科書Ⅲ編4章③生活習慣の指導を予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
20	口腔衛生管理 口腔清掃指数(OHI、OHI-S、PII、PHP)	事前学修：教科書Ⅲ編2章⑧分析のためのデータを読んで予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
21	洗口剤の取り扱い	事前学修：教科書Ⅲ編4章①-3。洗口剤、洗口液を予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子
22	地域歯科保健活動 災害時の歯科保健 大規模災害時の保健医療対策	事前学修：教科書Ⅳ編2章③大規模災害被災者を予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子 阿部 夕
23	地域保健活動 災害時の歯科保健 グループワーク	事前学修：教科書Ⅳ編2章③大規模災害被災者を予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子 阿部 夕
24	症例検討 X線読影 グループワーク	事前学修：2年次の臨床科目(放射線学、歯周病学他)を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子
25	歯科衛生過程演習Ⅴ 客観的臨床能力の判断 概要説明	事前学修：歯科衛生過程演習について復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	佐藤 陽子
26	歯科衛生過程演習Ⅴ 客観的臨床能力の判断 (実技試験)①	事前学修：前時の授業内容、客観的能力試験の概要について確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	60	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子
27	歯科衛生過程演習Ⅴ 客観的臨床能力の判断 (実技試験)②	事前学修：前時の授業内容、客観的能力試験の概要について確認しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	60	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子
28	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(1)/術者1人目	事前学修：3年間で学んだ内容を復習し、実践できるよう予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子
29	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(2)/術者2人目	事前学修：3年間で学んだ内容を復習し、実践できるよう予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
30	口腔衛生管理 (PCR、TBI) 相互演習(3)/術者3人目	事前学修：3年間で学んだ内容を復習し、実践できる よう予習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめること。	30	30	大宮 由布子 佐藤 陽子 伊藤 明日香 宍戸 敦子
<b>アクティブ・ ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、プレゼンテーション、相互演習）				
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤陽子 齋藤淳編著 医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。				
<b>備考</b>	シラバス1～3, 19, 20, 24, 25は教室で合同講義、シラバス22, 23は教室で合同2限続き、シラバス4～9, 26, 27は8階演習室でクラス別2限続き、シラバス28～30回目は8階実習室でクラス別、シラバス10, 11はクラス別教室（801, 802, 704教室）、シラバス17, 18は合同で2限続き（801, 802, 7階演習室）、シラバス12, 21回目は7階演習室でクラス別、シラバス13～16は7階演習室でクラス別2限続き。授業記録、レポートおよび課題は添削後、授業内で総括する。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かした授業を展開します。また、学生が歯科保健指導業務について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●			

科目ナンバリング
DH-2-DHP-11

科目名	口腔リハビリテーション演習				単位認定者	佐藤 陽子		評価の方法	試験 (筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
						授業時間数	20 時間		授業内提出物	10 %
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士としての役割を理解する。摂食嚥下障害を克服する口腔リハビリテーションについて障害別に学び、ディスカッションを交えてプログラムを立案する。さらに相互演習を通じて技術の修得に努める。									
到達目標	口腔リハビリテーションチームの中での歯科衛生士の役割を理解する。									
学修者への期待等	口腔リハビリテーションは、患者様の健康とQOLに密接に関わる領域であり、チームの一員として患者様の食に関わります。真摯な態度で学んでいただくことを希望します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	摂食嚥下障害に対する訓練計画 症例検討準備				事前学修：2年時に学習した摂食嚥下に関する解剖生理について復習する。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
2	摂食嚥下障害の対応1 症例検討 他職種とのディスカッション				事前学修：症例に対する自分自身の考えをまとめておく。 事後学修：グループ発表の準備をしてください。			60	60	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
3	摂食嚥下障害の対応2 他職種との合同発表				事前学修：グループ発表のスライドを準備する 事後学修：授業アンケートの記載をお願いします。			30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
4	摂食嚥下障害とは 摂食嚥下障害の概要				事前学修：教科書Chapter摂食嚥下のメカニズムP34～55を読んでおくこと 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子
5	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア1 リスクマネジメント概要				事前学修：教科書Chapter7リスクマネジメントを読んでおくこと 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子
6	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア2 吸引器の取り扱い 相互実習				事前学修：前回の授業の内容を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
7	歯科衛生士の行う専門的な口腔ケア3 臥床時の口腔ケア 相互実習				事前学修：前回の授業の内容を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香
8	急性期・回復期の摂食嚥下リハビリテーション「歯科衛生士の役割」				事前学修：前回の授業内容を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	児玉 俊恵
9	摂食嚥下リハビリテーションへの取り組み（症例：小児障害児）				事前学修：教科書Chapter12歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本を読んでおくこと 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子
10	摂食嚥下リハビリテーションへの取り組み（総括）				事前学修：前回までの授業内容を復習しておくこと。 事後学修：授業記録をまとめて提出する。			30	30	佐藤 陽子
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ディスカッション グループワーク）									
教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版株式会社									
参考文献	講義の中で適宜紹介する									
備考	シラバス1, 4, 5, 8～10回は教室で合同講義。シラバス2, 3回は言語聴覚学科と合同授業。シラバス6, 7回は4階言語聴覚学科演習室にて実習。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

歯科診療所、行政での実務経験あり。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を持つ教員が教授する。

科目ナンバリング
DH-2-DHP-15

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●							
科目名	歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）				単位認定者	花渕 静 西條 佳奈		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	演習	授業回数	20 回			
授業の概要	<p>歯科衛生士が歯科臨床現場で求められる個々の知識や技能を高めるため、小児から高齢者までの各年齢での設定、患者の全身疾患の種類の設定、さらには臨床歯科医学に相当するさまざまな歯科治療の設定をした模擬患者症例に対して、その患者中心とした歯科診療の展開を具体的にマネジメントできる応用力を身につける。</p>									
到達目標	<p>① 診療内容および患者状況を把握し、必要な器材・材料・機器を総合的に判断して準備し、適切な歯科診療補助および患者対応をすることができる。          ② 各診療分野における歯科診療補助の役割と留意点を総合的に説明できる。          ③ 標準予防策（スタンダード・プリコーション）を踏まえ、臨床を想定した感染防止対策を一連の診療の中で実践できる。          ④ 患者の安全・安心に配慮した適切な声かけ、態度、対応を一連の診療を通して実践できる。</p>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席・欠課をしないよう意欲を持って授業に臨んで欲しい。</li> <li>・各授業の前には授業計画を確認し、教科書などに目を通してから授業に臨んで欲しい。</li> <li>・演習を行う際には身だしなみをきちんと整え、教科書等忘れ物をしないようにして欲しい。</li> </ul>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	バイアル・アンプルの取り扱い N95マスク装着方法／滅菌ガウンの着脱演習				事前学修：『口腔外科・歯科麻酔学第2版』Ⅲ編2章-2局所麻酔時の業務、Ⅰ編10章-7縫合処置について読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			30	30	花渕 静 西條 佳奈
2	口腔外科器材の取り扱い演習									
3	アルジネート印象材による概形印象採得 ／各種咬合採得材料による咬合採得 相互演習				事前学修：『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章-2. アルジネート印象材による概形印象採得を読み、術式および使用器材を理解し、授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
4	アルジネート印象材による概形印象採得 ／各種咬合採得材料による咬合採得 相互演習 (術者2人目、3人目／演習まとめ)				事前学修：『歯科診療補助論』Ⅰ編第5章-2. アルジネート印象材による概形印象採得を読み、術式および使用器材を理解し、授業に臨むこと。シラバス第3回目で配布した授業資料および実習記録を確認し授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			30	30	西條 佳奈 三浦 悦子 宍戸 敦子
5	光学印象（口腔内スキャナー） 基礎講義				事前学修：光学印象（口腔内スキャナー）がどのような場面で使用されているか、また、その他の印象採得法との違いを調べてくること。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			30	30	西條 佳奈
6	光学印象（口腔内スキャナー）マネキン 演習（1） (演習内容説明／術者1人目) ／暫間被覆冠作製演習				事前学修：シラバス5回目の授業資料および実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録を用いて復習を行うこと。			30	30	花渕 静 西條 佳奈
7	光学印象（口腔内スキャナー）マネキン 演習（2） (術者2人目／演習まとめ) ／暫間被覆冠作製演習									

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	歯科矯正治療時の診療補助 基礎知識（使用器材の名称と用途）	事前学修：『歯科矯正学 第2版』Ⅰ編 6章矯正装置を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静
9	歯科矯正治療時の診療補助 器材の取り扱い演習（ブラケット装着方 法）	事前学修：『歯科矯正学 第2版』Ⅲ編 2章矯正歯科診療時の業務を読み授業 に臨むこと。また、シラバス第8回の 授業資料および実習記録を確認してお くこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静
10	歯科矯正治療時の診療補助 器材の取り扱い演習（ブラケット撤去方 法）	事前学修：『歯科矯正学 第2版』Ⅰ編 6章矯正装置、Ⅲ編2章矯正歯科診療時 の業務を読み授業に臨むこと。また、 シラバス第8・9回の授業資料および実 習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静
11	接着性レジンセメントの基礎知識／暫間 固定マネキン実習	事前学修：『歯科診療補助論』Ⅰ編5 章3-合着・接着の補助、『歯科材料』 Ⅱ編第4章3-接着性レジンセメントの 種類と用途を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈
12	寒天・アルジネートによる精密印象採得 相互演習（応用演習） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：『歯科診療補助論』Ⅰ編5 章1-3.寒天印象採得の補助を読みアル ジネート練和から寒天印象注入、採得 までの流れを施術者のみで実施できる ように事前準備をしておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	西條 佳奈 三浦 悦子
13	寒天・アルジネートによる精密印象採得 相互演習（応用演習） （術者2人目、3人目／演習まとめ）				
14	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（1） （演習手順説明／術者1人目）	事前学修：2グループ交代で実習する ため、該当実習前に各自『歯科材料』 Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメン ト、『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章5- 2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置 論・歯科保健指導論』Ⅲ編第2章8-2. 写真・画像を読み授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 西條 佳奈 三浦 悦子 三浦 敦子
15	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（2） （術者2人目）				
16	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（3） （術者3人目）	事前学修：2グループ交代で実習する ため、該当実習前に各自『歯科材料』 Ⅱ編第7章暫間修復材と仮着用セメン ト、『歯科診療補助論』Ⅰ編第3章5- 2.口腔内写真撮影、『歯科予防処置 論・歯科保健指導論』Ⅲ編第2章8-2. 写真・画像を読み授業に臨むこと。シ ラバス第14・15回で配布した使用およ び実習記録を確認しておくこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静 西條 佳奈 三浦 悦子 三浦 敦子
17	暫間被覆物作製演習 ／口腔内写真撮影 相互演習（4） （演習まとめ）				
18	補綴歯科治療における各種検査 基礎知識	事前学修：『歯科補綴学』Ⅱ編1章4. 咬合と顎口腔機能の検査を読んで授業 に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静
19	補綴歯科治療における各種検査 相互演習				
20	歯間分離法および成形歯冠修復材 マネキン演習	事前学修：『保存修復学・歯内療法 学』Ⅱ編1章5-3.歯間分離法、7.隔壁 法、『歯科診療補助論』Ⅰ編4章1-2. 保存修復時の例と診療補助の流れ読み 授業に臨むこと。 事後学修：授業内で配布した実習記録 を用いて復習を行うこと。	30	30	花瀨 静

<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（着脱演習、取り扱い演習、作製演習、マネキン演習、相互演習）
<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社
<b>参考文献</b>	授業の中で適宜紹介する。
<b>備考</b>	1～4回目、6～20回目はクラス別で8階演習室で演習を行う。5回目は教室にて合同講義を行う。1・2回、6・7回、12・13回、14・15回、16・17回、18・19回は連続で演習を行う。なお、授業の進捗状況により順番が前後することがある。 授業内で配布する実習記録については、授業終了後回収し添削後返却する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は歯科医院で5年以上の実務経験と、歯科衛生士資格を有しており、その経験を活かして歯科診療で取り扱う材料と機器について臨床の場に対応できる技術を修得できるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-DHP-18					
	●	●									
科目名	救急法・救急蘇生法				単位認定者	下田 元 菅原 一昭		試験（筆記）	35	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	試験（実技）	65	%
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	救急処置と蘇生法の基礎を学び、歯科医療スタッフの一員として現場で応用できるようになることを目的とする。										
到達目標	歯科の臨床現場で、緊急時、正しい救急処置と心肺蘇生法を行うことができるようにする。										
学修者への期待等	教科書などで関連内容を熟読し復習してください。歯科口腔外科臨床で患者さんの安心、安全な全身管理を行うための重要な科目です。身近な人が突然倒れたときに、救急救命の知識があれば命を救うことができます。無知であれば、救急車が到着するまでなすすべがなく救うことができません。後で後悔しない為にも、救急救命法を学んで頂きたい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	ガイダンス（評価方法。受講するにあたっての心構え）応急手当の重要性。（目的・必要性・救命処置・心肺蘇生）				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
2	応急手当の重要性。救命の処置（心肺蘇生・AEDについて）				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
3	特殊な傷病とその応急手当（歯の損傷・溺水・熱中症・感電 アキレス腱断裂・RICE処置）、気道異物除去（成人）				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
4	気道異物除去（乳児）、搬送法・保温法・応急担架				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
5	心肺蘇生法について、胸骨圧迫（成人）				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
6	止血法、心肺蘇生法（成人）の手順				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
7	子どもの応急手当（止血法）				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
8	心肺蘇生法の実技（成人） 乳幼児の一次救命処置（PBLs）の手順				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
9	心肺蘇生法の実技（成人）実技、AED				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
10	実技効果確認、総括				事前学修：実技効果確認の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	菅原一昭	
11	バイタルサインの評価、心肺蘇生法(BLS)の知識・手技の修得				事前学修：本時配布資料内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	下田 元	
12	歯科口腔外科診療時の局所的・全身的偶発症、その症状、重症度評価、救急初期対処法、全身管理の修得				事前学修：本時配布資料内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	下田 元	
13	全身的基礎疾患を有する歯科口腔外科患者の病態評価、全身管理、発症時の緊急処置、救急対処法の修得				事前学修：本時配布資料内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	下田 元	
14	局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法、および、周術期患者管理、周術期合併症と緊急処置、救急対処法の修得				事前学修：本時配布資料内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	下田 元	
15	インシデント・アクシデント報告、医療事故と法的責任、歯科口腔外科患者の全身管理で歯科衛生士に期待される役割についての理解				事前学修：本時配布資料内容の予習 事後学修：本時内容の復習			30	30	下田 元	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）										

<b>教科書</b>	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 菅原担当分はテキストは特に指定せず、随時プリントをこちらで準備する。
<b>参考文献</b>	特に指定しない
<b>備考</b>	下田:講義ごとにその講義内容に関連する資料を配布します。知識の整理、復習、応用に繋げる習慣を身に付けてください。 菅原:◎実技時、服装は白衣。ナースシューズ。髪は後ろで結ぶ。必要に応じ授業内容に関連する資料を配布します。(菅原担当分はクラス別で授業を実施する)

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

【下田】 歯科麻酔専門医、日本蘇生学会指導医として、歯科口腔外科周術期の麻酔科臨床（全身麻酔管理・静脈内鎮静管理など）、救急対処、および全身的基礎疾患患者の全身管理・緊急処置などに携わってきた。その多様な臨床症例の実務経験を基盤に、救急法・救急蘇生法に関する講義を系統的に分かりやすく実践する。

学修成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
	●	●								
科目名	審美歯科演習				単位認定者	花淵 静		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	顎口腔系における形態美、色彩美、機能美の調和など審美歯科学の概要を学び、審美歯科治療における歯科衛生士の関わり方を理解する。また、現在多くの歯科医院で行われているホワイトニングについての基本的な知識を学び、各メーカー別のホワイトニング材の効果や安全性について演習を通して理解する。									
到達目標	①審美歯科学の基礎用語・概念を理解し説明できる ②審美的観点から口腔内の特徴を説明できる ③審美歯科治療における歯科衛生士の役割を理解し適切に行動できる									
学修者への期待等	本講義では、審美歯科学の基本的な考え方を学びながら、歯や口元の美しさが患者さんの生活の質にどのように関わっているかを考えてほしいと思います。歯や口元の美しさについて興味をもち、将来の歯科衛生士としての仕事にどう活かせるかを考えながら学んでいきましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修：時間(分)	事後学修：時間(分)	担当教員
1	<b>遠隔【オンデマンド】</b> 審美歯科学総論				事前学修：審美歯科学の基礎用語を調べてくること 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			0	60	花淵 静
2	<b>遠隔【オンデマンド】</b> 審美歯科治療における歯科衛生士の役割				事前学修：審美歯科で実施されるホワイトニングの種類を調べてくること 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	花淵 静
3	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習(1)(実習手順説明/術者1人目)				事前学修：シラバス2回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
4	ホームホワイトニングカスタムトレー作製実習(2)(術者2人目/3人目/実習まとめ)				事前学修：シラバス2回目の授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
5	オフィスホワイトニング(ティオンオフィス)相互実習(1)(実習手順説明/術者1人目)				事前学修：事前に配布する授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
6	オフィスホワイトニング(ティオンオフィス)相互実習(2)(術者2人目/3人目/実習まとめ)				事前学修：事前に配布する授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
7	オフィスホワイトニング(オパールエッセンスBOOST)相互実習(1)(実習手順説明/術者1人目)				事前学修：事前に配布する授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
8	オフィスホワイトニング(オパールエッセンスBOOST)相互実習(2)(術者2人目/3人目/実習まとめ)				事前学修：事前に配布する授業資料をもとに基礎内容、実習内容を把握し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静
9	デンタルエステ(LIPエステ/リフレクソロジー：口内マッサージ)				事前学修：デンタルエステの具体的な施術内容の一例を自ら調べてくること 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花淵 静

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修：時間(分)	事後学修：時間(分)	担当教員
10	<b>遠隔【オンデマンド】</b> 審美歯科治療における症例別検討および審美歯科の考え方について	事前学修：各回の資料をもとに基礎内容を整理し授業に臨むこと 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。	0	60	花淵 静
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 相互実習 ）				
教科書	なし。適宜プリント配布				
参考文献	『新版 歯科衛生士のためのホワイトニング』近藤隆一編著、加藤久子著：医歯薬出版株式会社 『歯科衛生士 ベーシックスタンダード 審美歯科』末瀬一彦、土屋和子、南 昌宏、宮崎 真至編著：医歯薬出版株式				
備考	シラバス1・2・10回目は遠隔【オンデマンド】による講義、シラバス3・4回、5・6回、7・8回はそれぞれ連続でクラス別演習、シラバス9回目はクラス別演習				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

審美歯科治療に5年以上携わり、歯の色調や形態、口元のバランスを考慮した歯科医療に取り組んできた。臨床経験をもとに、歯科衛生士として知っておきたい審美歯科治療の基礎や、日常業務での関わり方についてわかりやすく講義する。

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

<b>科目名</b>	臨地実習Ⅲ（臨床総合）				<b>単位 認定者</b>	伊藤 恵美 佐藤 陽子 大宮 由布子 花渕 静 武山 真奈美 西條 佳奈 伊藤 明日香		<b>評価の 方法</b>	実習内容	100 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	歯科衛生学科	必修	3年	<b>開講時期</b>	通年	<b>単位数</b>	8 単位			
				<b>授業形態</b>	実習	<b>授業時間数</b>	360 時間			
						<b>授業回数</b>	集中			

**授業の概要**

本科目では、各医療機関での臨床実習、及び、教育機関、福祉施設での臨地実習を行う。1年次及び2年次で修得した学習内容をもとに、医療機関、教育機関、福祉施設での実習において自己を客観的に評価し、自らを向上させることのできる能力を身につける。さらに、福祉施設実習では、公衆衛生活動における福祉施設の役割を理解するとともに、利用者の口腔ケアの重要性を理解し、援助できる技術を修得する。これらを通して口腔衛生の専門職として、歯科衛生士に求められる責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践能力を養う。

**学修者への期待等**

臨地実習では、学校で学んだ知識や技術を活かし、歯科衛生士の役割を理解しようとする姿勢を大切にしてください。また、医療の現場に立つ一員として、患者さんへの思いやりある態度や言葉遣いを心がけ、責任ある行動をとることを期待します。修得した学修内容を応用し、実践的な知識、技術などを身につけ、自己を客観的に評価し、常に学ぶ姿勢を忘れず取り組むことを期待しています。

授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
<p>1. 実習期間 （1）歯科診療所（2）病院歯科（3）矯正歯科診療所（4）障害者歯科・訪問歯科診療所（5）高齢者施設実習：5～10月（6）小学校集団歯科保健指導実習（3年生・1年生の合同実習）：1日間</p> <p>2. 実習の目標医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、口腔保健を担う専門職としての知識・技術・態度を身につける。</p> <p>（1）歯科診療所 ・歯科診療所における歯科衛生士の役割について理解する。 ・歯科診療において各症例別の診療の流れを把握し、歯科診療補助の実践力を身につける。 ・歯科衛生士が行うメンテナンス管理について、臨床現場においてさらに理解を深め、自らも実践できる。 ・3年間学んだ知識および技術を臨床現場で確認し、自己の客観的評価と自らを向上させることのできる能力を身につける。</p> <p>（2）病院 ・病院歯科における歯科衛生士の役割と業務について理解する。 ・全身疾患をもつ患者様に対する健康状態の把握や基礎疾患の理解とともに歯科診療補助の実践力を身につける。 ・口腔外科手術の術前・術中・術後の患者管理および各症例の診療補助の手技を習得する。 ・臨床現場において自己の知識や技術を客観的に評価し、自らを向上させることができる。</p> <p>（3）矯正歯科診療所 ・矯正歯科治療の目的および方法について理解する。 ・各症例を通して矯正歯科治療の目標と流れを理解する。 ・矯正歯科診療時の歯科衛生士業務について理解する。 ・矯正歯科患者に対する口腔保健管理を理解する。</p> <p>（4）障害者歯科・訪問歯科診療所 ・障害者・在宅患者の口腔機能の向上と、QOLの向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への対応と援助の能力を養う。</p>	<p>事前学修：臨地実習指導の内容、事前準備の確認をして臨むこと。 事後学修：実習の振り返りと自身の課題について取り組むこと。</p>	60	60

授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
<p>(5) 高齢者施設実習（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム） 高齢者施設の概要及び歯科衛生士の関わりを理解し、要介護高齢者の口腔機能管理について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設入居者および利用者の社会的背景を理解する。</li> <li>施設入居者の身体的精神的ニーズを理解する。</li> <li>施設における多職種協働について理解する。</li> <li>歯科衛生士の役割および業務内容について理解する。</li> <li>対象者に応じた口腔ケアプランの作成方法および歯科衛生介入方法を理解する。</li> </ul> <p>(6) 小学校集団歯科保健指導実習 小学校における健康教育を実施するにあたり、歯科保健指導の具体的な方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象学年に合わせた歯科保健指導計画の立案ができる。</li> <li>指導計画に添って教材・教具を活用し指導ができる。</li> <li>対象学年の児童に対してわかりやすい言葉、にこやかな表情で話を展開できる。</li> <li>歯科保健指導において、動画教材を用いた指導方法を実践できる。</li> </ul> <p>3. 実習計画</p> <p>(1) 歯科診療所（2）病院歯科（3）矯正歯科診療所 実習項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨地実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容をもとに実践的な知識・技術の修得</li> </ul> <p>(4) 障害者歯科・訪問歯科診療所 実習項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者・在宅患者の要介護度と全身状態の理解</li> <li>障害者・在宅患者の口腔内と口腔ケア内容の理解</li> <li>専門的口腔ケアの見学及び介助</li> </ul> <p>(5) 高齢者施設実習（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム） 実習項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用者の要介護度と全身状態の理解</li> <li>施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解</li> <li>専門的口腔ケアの見学及び介助</li> </ul> <p>(6) 小学校集団保健指導実習 実習項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年に合わせた歯科保健指導案の作製</li> <li>児童に対する口腔衛生集団指導の実施</li> <li>3年生による下級生へのアクティブラーニングの実施</li> </ul>		60	60
<b>教科書</b>	1～3年次で、専門展開科目で使用する各教科書		
<b>参考文献</b>			
<b>備考</b>	実習終了後に、実習報告会を実施する。この報告会で実習の振り返りを行い、実習評価について総括する。		
<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>			

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-CLT-12				
		●	●	●						
科目名	臨地実習指導（臨床総合）				単位認定者	花 洩 静		評価の方法	レポート	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
授業の概要				授業形態	演習	授業回数	15 回			
	臨地実習Ⅲ（臨床総合）の事前・事後指導を行う。事前指導では臨地実習Ⅱ（臨床応用）を踏まえ、社会人となる上で必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、必要となる事柄の修得のための学びを深める。									
到達目標	①臨地実習の目的と意義を理解し、歯科衛生士としての役割を説明できる。 ②コミュニケーションの基本（挨拶、説明、観察など）を行うことができる。 ③実習に臨むにあたり、事前課題を見つけ、自ら学ぶ姿勢を持ち行動することができる。									
学修者への期待等	患者さんや歯科スタッフと関わりながら、歯科衛生士としての役割や責任を深く理解し、自分の力になるための事前準備を行ってほしいです。また集団指導においては、各実習施設や対象者を理解し、それぞれに合わせた指導内容の計画をたて、実習メンバーとのコミュニケーションを円滑にし、事前課題および準備や計画を怠らなず、真面目に取り組んでもらえることを期待しています。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	3年生臨地実習の目的・概要			事前学修：自身が選択した実習施設の特色・概要を調べておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	花 洩 静	
2	ホスピタリティとは ～ホスピタリティマインドの発揮～			事前学修：ホスピタリティについて詳しく調べておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	今井 恵美子	
3	『症例を診る』とは グループワーク			事前学修：歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔』、『保存修復・歯内療法』『歯科補綴』『歯科矯正』の教科書より自身が2年次の臨地実習で診た症例をまとめること。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			60	30	花 洩 静	
4	臨地実習Ⅰ ケースプレゼンテーション①			事前学修：臨地実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。事後学修：実習日誌の確認、課題への取り組みを行うこと。			90	60	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花洩静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香	
5	臨地実習Ⅰ ケースプレゼンテーション②									
6	臨地実習Ⅰにおける振り返り【実習評価から自分の実習態度を振り返る】			事前学修：実習日誌を事前にみて自己の振り返りしておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	花 洩 静	
7	臨地実習Ⅱの実習目標の設定			事前学修：シラバス6回目の実習評価をうけ臨地実習Ⅱに臨むための実習目標を設定しておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	花 洩 静	
8	臨地実習Ⅱ ケースプレゼンテーション①			事前学修：臨地実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。事後学修：実習日誌の確認、課題への取り組みを行うこと。			90	60	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花洩静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香	
9	臨地実習Ⅱ ケースプレゼンテーション②									
10	臨地実習Ⅱにおける振り返り【実習評価から自分の実習態度を振り返る】			事前学修：実習日誌を事前にみて自己の振り返りしておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	花 洩 静	
11	臨地実習Ⅲの実習目標の設定			事前学修：シラバス7回目の実習評価をうけ臨地実習Ⅲに臨むための実習目標を設定しておくこと。事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	60	花 洩 静	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	臨地実習Ⅲ ケースプレゼンテーション①	事前学修：臨地実習時の1症例についてプレゼンテーションの準備をしておくこと。 事後学修：実習日誌の確認、課題への取り組みを行うこと。	90	60	伊藤恵美 佐藤陽子 大宮由布子 花淵静 武山真奈美 西條佳奈 伊藤明日香
13	臨地実習Ⅲ ケースプレゼンテーション②				
14	上杉山通小学校 集団保健指導実習の目的および概要	事前学修：『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』V編1章P396～P411を読んで授業に臨むこと 事後学修：集団指導計画（指導案、教材案など）について実習グループメンバーと効率的にすすめていくこと。	30	90	西條 佳奈
15	上杉山通小学校（グループワーク） 保健指導計画の立案		30	90	
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク プレゼンテーション）				
<b>教科書</b>	歯科衛生学シリーズ 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』『歯科診療補助論』『歯科機器』『歯科材料』『口腔外科学・歯科麻酔』『臨床検査』『歯科補綴学』『歯科矯正学』『小児歯科学』『保存修復学・歯内療法学』『高齢者歯科学』『障害者歯科学』全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。 シラバス4・5回、8・9回、12・13回、14・15回は連続の授業とする。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

各講師は臨床経験豊富な歯科衛生士とビジネスマナー教育において教育歴が10年以上の講師で構成され、それぞれの専門分野（感染予防、周術期、摂食嚥下、歯科保健指導、歯科診療補助、歯科予防処置、コミュニケーションなど）に特化した内容の授業を行います。学生が臨床現場において安全・確実に実践力を身につけられるような授業を展開します。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-RDH-01				
	●									
科目名	歯科衛生研究法 I (臨床基礎)				単位認定者	小野寺 健		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため、3年間で学んだ知識と技術を整理する。歯科衛生士として必要な総合的能力を修得することを目的とする。また、本教科では、臨床歯科につながる基礎的な知識と技術の整理も行う。									
到達目標	3年間で学んだ知識の総まとめを行う。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	地域福祉保健(地域保健) 1 (総論のまとめ)				事前学修:教科書の該当項目について事前に目を通すこと 事後学修:授業資料を再読すること			60	30	石河 理紗
2	地域福祉保健(地域保健) 2 (各論のまとめ)				事前学修:教科書の該当項目について事前に目を通すこと 事後学修:授業資料を再読すること			60	30	石河 理紗
3	歯科放射線学 1 (総論のまとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。			60	0	飯久保 正弘
4	歯科放射線学 2 (各論のまとめ)							0	0	飯久保 正弘
5	栄養学 1 (総論のまとめ)				事後学修:授業内で解説した演習問題の内容について復習すること			0	60	中村 吉孝
6	病理学(まとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。			60	0	伊藤 恵美
7	う蝕予防法 1 (総論のまとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。			0	60	鷺尾 純平
8	栄養学 2 (各論のまとめ)				事後学修:授業内で解説した演習問題の内容について復習すること			0	60	中村 吉孝
9	薬理学 1 (総論のまとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。			60	0	北村 麻衣
10	う蝕予防法 2 (各論のまとめ)							0	0	鷺尾 純平
11	薬理学 2 (各論のまとめ)							0	0	北村 麻衣
12	社会福祉論 1 (総論のまとめ)				事前学修:関連資料を確認しておくこと。 事後学修:国家試験問題を復習しておくこと。			30	30	野口 美雪
13	口腔リハビリテーション 1 (総論のまとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。 事後学修:関連国家試験の問題を解く			30	30	江畑 綾
14	社会福祉論 2 (各論のまとめ)				事前学修:関連資料を確認しておくこと。 事後学修:国家試験問題を復習しておくこと。			30	30	野口 美雪
15	口腔リハビリテーション 2 (各論のまとめ)				事前学修:質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。 事後学修:関連国家試験の問題を解く			30	30	江畑 綾
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード( )									
教科書	『歯科衛生士国家試験ポイントチェック①人体の構造と機能/歯・口腔の構造と機能/疾病の成り立ち及び回復過程の促進 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック③歯科衛生士概論/臨床歯科医学 上 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック④臨床歯科医学 下 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック⑤歯科予防処置論/歯科保健指導論/歯科診療補助論 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編									
参考文献	適宜プリントを配布する。									
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

各講師は専門分野における臨床経験と教育歴があり、歯科衛生士に必要な基礎知識について総まとめの授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	DH-2-RDH-02				
	●									
科目名	歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）				単位認定者	小野寺 健		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	選択	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	歯科衛生の実践場面で遭遇する問題を自ら解決していくため、3年間で学んだ知識と技術を整理する。「歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）」で整理した、臨床歯科にかかわる基礎的な知識と技術を踏まえて、最新の臨床情報についても学習し、口腔衛生の専門職として活躍できる準備を整える。									
到達目標	3年間で学んだ知識と技術の総まとめを行い、歯科衛生士として必要な総合的能力を修得する。									
学修者への期待等	教科書などによる予習・復習を行い、授業内容を十分に理解することを望む。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員		
1	高齢者口腔保健学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	猪狩 洋平		
2	高齢者口腔保健学2（各論のまとめ）					0	0	猪狩 洋平		
3	保存歯科学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	鎌野 優弥		
4	保存歯科学2（各論のまとめ）					0	0	鎌野 優弥		
5	発達歯科学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	丸谷 由里子		
6	発達歯科学2（各論のまとめ）					0	0	丸谷 由里子		
7	病理学（まとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	小野寺 健		
8	歯内療法学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	荘司 佳奈子		
9	歯内療法学2（各論のまとめ）					0	0	荘司 佳奈子		
10	歯科補綴学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	佐藤 奈央子		
11	歯科補綴学2（各論のまとめ）					60	0	佐藤 奈央子		
12	歯科矯正学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	志満 雅子		
13	歯科矯正学2（各論のまとめ）					0	0	志満 雅子		
14	歯周療法学1（総論のまとめ）			事前学修：質問事項などを前もって準備して授業に臨むこと。		60	0	梶川 哲宏		
15	歯周療法学2（各論のまとめ）					0	0	梶川 哲宏		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『歯科衛生士国家試験ポイントチェック①人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック②歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック③歯科衛生士概論／臨床歯科医学 上 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック④臨床歯科医学 下 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編 『歯科衛生士国家試験ポイントチェック⑤歯科予防処置論／歯科保健指導論／歯科診療補助論 令和4年版出題基準準拠』 歯科衛生士国家試験対策検討会 編									
参考文献	適宜プリントを配布する。									
備考	授業の進捗状況により授業計画の順番が前後することがある。									

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

各講師は歯科臨床経験と教育歴があり、各専門分野における総まとめの授業を行います。

## 歯科衛生学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価
- 実務経験を有する教員の科目一覧

## 1. ナンバリングの見方

【例】DH-1-○○○-01

DH	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

### ① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

歯科衛生学科：DH

### ② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に1から番号を振る）

### ③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養科目分野	人間と文化	HCU	Human & culture
教養科目分野	人間と社会	HSO	Human & society
教養科目分野	人間と科学	HSC	Human & science
歯科衛生基礎		DHB	Dental Hygiene Basic
歯科衛生臨床		DHC	Dental Hygiene Clinical
歯科衛生演習		DHP	Dental Hygiene Practice
臨床実習		CLT	Clinical Training
歯科衛生研究法		RDH	Research on Dental Hygiene

### ④ 連続番号

半角数字2桁 全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		英語Ⅰ	CO-0-HCU-02	
		英語Ⅱ	DH-0-HCU-01	
		医療手話	DH-0-HCU-02	
	人間と社会	法律入門	CO-0-HSO-04	
		現代の社会	CO-0-HSO-03	
		コミュニケーション演習	DH-0-HSO-01	
		心理学	DH-0-HSO-02	
	人間と科学	数理リテラシー	CO-0-HSC-02	
		保健統計学	DH-0-HSC-03	
		情報処理	CO-0-HSC-01	
		化学	DH-0-HSC-02	
		スポーツレクリエーション	DH-0-HSC-01	
	専門教育分野	専門支持科目	解剖学	DH-1-DHB-01
			生理学	DH-1-DHB-02
組織発生学			DH-1-DHB-03	
口腔解剖学			DH-1-DHB-04	
口腔生理学			DH-1-DHB-05	
歯牙解剖学			DH-1-DHB-06	
病理学			DH-1-DHB-07	
微生物学			DH-1-DHB-08	
薬理学			DH-1-DHB-09	
栄養学			DH-1-DHB-10	
生化学			DH-1-DHB-11	
一般臨床医学			DH-1-DHB-12	
衛生学・公衆衛生学			DH-1-DHB-13	
口腔衛生学			DH-1-DHB-14	
地域保健・保健統計			DH-1-DHB-15	
衛生行政・社会福祉・社会保障			DH-1-DHB-16	
人間関係論			DH-1-DHB-18	
地域保健			DH-1-DHB-19	
専門展開科目		歯科衛生士概論	DH-2-DHC-01	
		歯内療法学	DH-2-DHC-02	
	保存修復学	DH-2-DHC-03		

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
専門教育分野	専門展開科目	歯周療法学	DH-2-DHC-04
		歯科補綴学	DH-2-DHC-05
		口腔外科学	DH-2-DHC-06
		歯科矯正学	DH-2-DHC-07
		小児歯科学	DH-2-DHC-08
		高齢者口腔保健学	DH-2-DHC-09
		障害者口腔保健学	DH-2-DHC-10
		歯科放射線学	DH-2-DHC-11
		口腔衛生管理	DH-2-DHC-12
		歯科予防処置法	DH-2-DHP-01
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	DH-2-DHP-02
		歯周病予防法（臨床基礎）	DH-2-DHP-03
		う蝕予防処置法（臨床応用）	DH-2-DHP-04
		歯周病予防法（臨床応用）	DH-2-DHP-05
		保健指導論	DH-2-DHP-06
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-DHP-07
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-DHP-08
		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-09
		口腔リハビリテーション論	DH-2-DHP-10
		口腔リハビリテーション演習	DH-2-DHP-11
		歯科診療補助法（基礎知識）	DH-2-DHP-12
		歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	DH-2-DHP-13
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	DH-2-DHP-14
		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-15
		感染予防法	DH-2-DHP-16
		臨床検査法	DH-2-DHP-17
		救急法・救急蘇生法	DH-2-DHP-18
		介護技術の基礎	DH-2-DHP-19
		審美歯科演習	DH-2-DHP-21
		臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-CLT-01
		臨地実習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-CLT-02
		臨地実習指導（臨床応用）	DH-2-CLT-11
		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-CLT-03
		臨地実習指導（臨床総合）	DH-2-CLT-12
歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-RDH-01		
歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	DH-2-RDH-02		

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01
		英語 I	CO-0-HCU-02
		英語 II	DH-0-HCU-01
		医療手話	DH-0-HCU-02
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
		コミュニケーション演習	DH-0-HSO-01
		心理学	DH-0-HSO-02
	人間と化学	情報処理	CO-0-HSC-01
		化学	DH-0-HSC-02
		スポーツレクリエーション	DH-0-HSC-01
	専門教育分野	専門支持科目	解剖学
生理学			DH-1-DHB-02
組織発生学			DH-1-DHB-03
口腔解剖学			DH-1-DHB-04
口腔生理学			DH-1-DHB-05
歯牙解剖学			DH-1-DHB-06
病理学			DH-1-DHB-07
微生物学			DH-1-DHB-08
薬理学			DH-1-DHB-09
栄養学			DH-1-DHB-10
生化学			DH-1-DHB-11
一般臨床医学			DH-1-DHB-12
衛生学・公衆衛生学			DH-1-DHB-13
口腔衛生学			DH-1-DHB-14
地域保健・保健統計			DH-1-DHB-15
衛生行政・社会福祉・社会保障			DH-1-DHB-16
人間関係論			DH-1-DHB-18
専門展開科目			歯科衛生士概論
		歯内療法学	DH-2-DHC-02
		保存修復学	DH-2-DHC-03
	歯周療法学	DH-2-DHC-04	

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
専門教育分野	専門展開科目	歯科補綴学	DH-2-DHC-05
		口腔外科学	DH-2-DHC-06
		歯科矯正学	DH-2-DHC-07
		小児歯科学	DH-2-DHC-08
		高齢者口腔保健学	DH-2-DHC-09
		障害者口腔保健学	DH-2-DHC-10
		歯科放射線学	DH-2-DHC-11
		口腔衛生管理	DH-2-DHC-12
		歯科予防処置法	DH-2-DHP-01
		う蝕予防処置法（臨床基礎）	DH-2-DHP-02
		歯周病予防法（臨床基礎）	DH-2-DHP-03
		う蝕予防処置法（臨床応用）	DH-2-DHP-04
		歯周病予防法（臨床応用）	DH-2-DHP-05
		保健指導論	DH-2-DHP-06
		保健指導演習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-DHP-07
		保健指導演習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-DHP-08
		保健指導演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-09
		口腔リハビリテーション論	DH-2-DHP-10
		口腔リハビリテーション演習	DH-2-DHP-11
		歯科診療補助法（基礎知識）	DH-2-DHP-12
		歯科診療補助演習Ⅰ（基本技術）	DH-2-DHP-13
		歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）	DH-2-DHP-14
		歯科診療補助演習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-DHP-15
		感染予防法	DH-2-DHP-16
		臨床検査法	DH-2-DHP-17
		救急法・救急蘇生法	DH-2-DHP-18
		介護技術の基礎	DH-2-DHP-19
		審美歯科演習	DH-2-DHP-21
		臨地実習Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-CLT-01
		臨地実習Ⅱ（臨床応用）	DH-2-CLT-02
		臨地実習指導（臨床応用）	DH-2-CLT-11
		臨地実習Ⅲ（臨床総合）	DH-2-CLT-03
		臨地実習指導（臨床総合）	DH-2-CLT-12
歯科衛生研究法Ⅰ（臨床基礎）	DH-2-RDH-01		
歯科衛生研究法Ⅱ（臨床応用）	DH-2-RDH-02		

歯科衛生学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授	おのでら けん 小野寺 健	小野寺 研究室	022-738-7715	k_onodera@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (学科長)	いとう えみ 伊藤 恵美	共同 研究室	022-217-0277	e_itou@seiyogakuin.ac.jp
3	教授	さとう ようこ 佐藤 陽子			yo_satou@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	おおみや ゆうこ 大宮 由布子			y_oomiya@seiyogakuin.ac.jp
5	講師	はなぶち しずか 花渕 静			s_hanabuchi@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	たけやま まなみ 武山 真奈美			m_takeyama@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	さいじょう かな 西條 佳奈			k_saijou@seiyogakuin.ac.jp
8	助教	いとう あすか 伊藤 明日香			a_itou@seiyogakuin.ac.jp
9	助手	すずき さえこ 鈴木 沙江子			sa_suzuki@seiyogakuin.ac.jp

## 歯科衛生学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

## 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。

歯科衛生学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
医療手話	1	奥田 育代	手話通訳者としての実務経験あり。
法律入門	1	鈴木 一樹	公認会計士・税理士として、法定監査等の実務経験あり。
口腔解剖学	2	白石 成	歯科医師としての実務経験あり。
口腔生理学	2	小山 重人	歯科医師としての実務経験あり。
病理学	1	小野寺 健	東北大学歯学部にて病理医としての実務経験あり。
微生物学	1	阿部 昌子	微生物学・口腔微生物学分野での実務経験あり。
薬理学	1	磯谷 美重	歯科医師としての実務経験あり。
栄養学	1	藤枝 弥生子 藤井 由智恵	管理栄養士としての実務経験あり。
生化学	1	阿部 昌子	生化学・口腔生化学分野での実務経験あり。
地域保健	2	大森 俊也	在宅福祉の相談実務経験、訪問介護・看護事業の経営実務経験あり。
衛生行政・社会福祉・社会保障	2	園部 英俊	病院での歯科医師、保健所・福祉事務所で母子保健福祉・精神保健福祉・障害者福祉の実務経験あり。
歯科衛生士概論	2	大宮 由布子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯内療法学	1	荘司 佳奈子	歯科医師としての実務経験あり。
保存修復学	1	原田 芙太巴	歯科医師としての実務経験あり。
歯周療法学	1	梶川 哲宏	歯科医師としての実務経験あり。
歯科補綴学	1	佐藤 奈央子	歯科医師としての実務経験あり。
口腔外科学	1	岩永 賢二郎 千葉 高大	歯科医師としての実務経験あり。
歯科矯正学	1	志満 雅子	歯科矯正学分野での実務経験あり。
小児歯科学	1	丸谷 由里子	小児歯科医師での実務経験あり
高齢者口腔保健学	1	猪狩 洋平	歯科医師としての実務経験あり。
障害者口腔保健学	1	星 久美	歯科医師としての実務経験あり。
歯科放射線学	1	飯久保 正弘	歯科放射線学分野での実務経験あり。
口腔衛生管理	1	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
歯科予防処置法	2	武山 真奈美	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
う蝕予防処置法(臨床基礎)	1	鷲尾 純平	歯科医師としての実務経験あり。

歯周病予防法(臨床基礎)	2	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
う蝕予防処置法(臨床応用)	1	鷺尾 純平 佐藤 聡子	歯科医師としての実務経験あり。
歯周病予防法(臨床応用)	2	伊藤 恵美	歯科衛生士として、大学病院での実務経験あり。
保健指導論	1	佐藤 陽子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	1	伊藤 明日香 大宮 由布子 佐藤 陽子	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	2	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	2	佐藤 陽子 大宮 由布子 伊藤 明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助法(基礎知識)	2	花渕 静 西條 佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅰ(基本技術)	2	花渕 静 西條 佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	2	花渕 静 西條 佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	2	花渕 静 西條 佳奈	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
臨床検査法	1	花渕 静 伊藤 明日香	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
救急法・救急蘇生法	1	下田 元	歯科麻酔専門医として、救急対処等の実務経験あり。
審美歯科演習	1	花渕 静	歯科衛生士として、歯科診療所での実務経験あり。
	53	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	